

CSIS Discussion Paper No. 110

東京 23 区における高齢者の都市内移動に関する

アンケート調査報告書

Survey Report on Travel Behavior of Elderly People in Tokyo's 23 Wards

李召熙\*・小木戸亮\*\*・栗原拓也\*\*・河端瑞貴\*・高橋孝明\*

Sohee Lee, Ryo Kokido, Takuya Kurihara, Mizuki Kawabata, and Takaaki  
Takahashi

\* 東京大学空間情報科学研究センター

Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo

\*\* 東京大学大学院新領域創成科学研究科

Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo

2011 年 10 月

本研究は、科学技術振興調整費「明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム」（研究代表者：飛原英治）の助成を受けた。また、本プログラムの都市計画グループ（代表者：浅見泰司）のメンバーから、有益な助言とご協力を頂いた。ここに記して感謝の意を表する。

## 目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査項目	2
4. 調査実施方法	3
5. 調査結果の見方と注意点	4
II. 調査結果	5
1. 個人属性	5
(1) 性別〔Q1〕	5
(2) 年齢〔Q2〕	6
(3) 居住区〔Q3〕	7
(4) 同居人数〔Q4〕	8
(5) 同居人との関係〔Q5〕	9
(6) 家計全体の年収（年金を含む）〔Q6〕	12
(7) 家計全体の貯蓄額〔Q7〕	13
(8) 最終学歴〔Q8〕	14
(9) 1週あたり平均勤務日数〔Q9〕	15
(10) 1日あたり平均勤務時間〔Q9-1〕	16
2. 外出目的別の移動状況	17
(1) 通勤・通学〔Q23- (A)〕	17
(2) 定期的に通う病院〔Q23- (B)〕	21
(3) 食料品・日用品の買い物〔Q23- (C)〕	25
(4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q23- (D)〕	29
(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q23- (E)〕	33
(6) 市役所等の公的機関〔Q23- (F)〕	37
(7) 銀行、郵便局〔Q23- (G)〕	41
(8) 友人・知人などの家〔Q23- (H)〕	45
(9) 散歩、散策〔Q23- (I)〕	49
(10) 公園〔Q23- (J)〕	53
(11) スポーツ施設〔Q23- (K)〕	57
(12) 余暇、レジャー、レクリエーション〔Q23- (L)〕	61

3. 外出目的別の理想と思われる移動状況〔Q24〕	65
(1) 通勤・通学〔Q24- (A)〕	65
(2) 定期的に通う病院〔Q24- (B)〕	68
(3) 食料品・日用品の買い物〔Q24- (C)〕	70
(4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q24- (D)〕	72
(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q24- (E)〕	75
(6) 市役所等の公的機関〔Q24- (F)〕	77
(7) 銀行、郵便局〔Q24- (G)〕	79
(8) 友人・知人などの家〔Q24- (H)〕	81
(9) 散歩、散策〔Q24- (I)〕	83
(10) 公園〔Q24- (J)〕	85
(11) スポーツ施設〔Q24- (K)〕	87
(12) 余暇、レジャー、レクリエーション〔Q24- (L)〕	90
4. 外出目的別の重要度	92
(1) 通勤・通学〔Q25- (A)〕	92
(2) 定期的に通う病院〔Q25- (B)〕	93
(3) 食料品・日用品の買い物〔Q25- (C)〕	94
(4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q25- (D)〕	95
(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q25- (E)〕	96
(6) 市役所等の公的機関〔Q25- (F)〕	97
(7) 銀行、郵便局〔Q25- (G)〕	98
(8) 友人・知人などの家〔Q25- (H)〕	99
(9) 散歩、散策〔Q25- (I)〕	100
(10) 公園〔Q25- (J)〕	101
(11) スポーツ施設〔Q25- (K)〕	102
(12) 余暇、レジャー、レクリエーション〔Q25- (L)〕	103
5. 外出する際に問題になること	104
III. まとめ	107
付録：アンケート調査票	113

本報告書は、2010年2月に行った、東京23区における高齢者の居住実態と都市内移動に関するアンケート調査（以下、「本調査」と記す）の、都市内移動に関する結果の報告書である。

以下、はじめに調査の概要を述べ、次いで調査結果を述べる。最後に全体をまとめる。

## I. 調査概要

### 1. 調査目的

内閣府の『平成23年版高齢社会白書』<sup>1</sup>によると、65歳以上の高齢者人口は、昭和25（1950）年には総人口の5%に満たなかったが、昭和45（1970）年には7%を超え、国連の定める「高齢化社会」に入った。その後、平成6（1994）年には14%を突破し、「高齢社会」になった。さらに平成19（2007）年には21%の閾値を超え、「超高齢社会」に突入した。そして平成22（2010）年の高齢者率は23%となっている。

このような超高齢社会で何が問題になり、そして問題に対してどう対処していくかを考えることは喫緊の課題である。そのためには、高齢者が、どのような理由でどういった地域に居住するかといった点や、どのような目的・頻度でいかにして都市内を移動しているかといった点について、実態を明らかにする必要がある。本調査は、このような目的でなされた。

### 2. 調査対象

本調査は、2010年2月に東京23区に在住する40～44歳および65歳以上の男女を対象に行った。非高齢者である40～44歳は、高齢者との比較グループとして対象者に含まれている。なお、調査結果は、回答者を、非高齢者である「40～44歳」、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の計4つの年齢階層に分けて集計した。

---

<sup>1</sup> 内閣府（2011）「平成23年版高齢社会白書（平成23年6月7日閣議決定）」  
（[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html)）

### 3. 調査項目

調査項目は、次の通りである。

□個人属性

- ・性別〔Q1〕
- ・年齢〔Q2〕
- ・居住区〔Q3〕
- ・同居人数〔Q4〕
- ・同居人との関係〔Q5〕
- ・家計全体の年収（年金を含む）〔Q6〕
- ・家計全体の貯蓄額〔Q7〕
- ・最終学歴〔Q8〕
- ・週当平均勤務日数〔Q9〕
- ・日当平均勤務時間〔Q9-1〕

□外出目的別の移動状況〔Q23〕<sup>2</sup>

- ・移動に関する設問
  - (ア) 利用交通手段
  - (イ) 片道所要時間
  - (ウ) 同行者
  - (エ) 頻度
- ・外出目的
  - (A) 通勤・通学
  - (B) 定期的に通う病院
  - (C) 食料品・日用品の買い物
  - (D) 食料品・日用品以外の買い物
  - (E) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）
  - (F) 市役所等の公的機関
  - (G) 銀行・郵便局
  - (H) 友人・知人などの家
  - (I) 散歩・散策
  - (J) 公園
  - (K) スポーツ施設
  - (L) 余暇、レジャー、レクリエーション

---

<sup>2</sup> 元のアンケート調査は、居住実態（Q10～Q22）と都市内移動（Q23～Q26）に関する項目に分かれているが、本報告書では、都市内移動に関する内容のみ取りまとめる。

□外出目的別の理想と思われる移動状況〔Q24〕

- ・移動に関する設問
  - (ア) 利用交通手段
  - (イ) 片道所要時間
- ・外出目的
  - (A) 通勤・通学
  - (B) 定期的に通う病院
  - (C) 食料品・日用品の買い物
  - (D) 食料品・日用品以外の買い物
  - (E) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）
  - (F) 市役所等の公的機関
  - (G) 銀行・郵便局
  - (H) 友人・知人などの家
  - (I) 散歩・散策
  - (J) 公園
  - (K) スポーツ施設
  - (L) 余暇、レジャー、レクリエーション

□外出目的別の重要度〔Q25〕

□外出する際に、問題になること〔Q26〕

#### 4. 調査実施方法

本調査は、次のように実施した。

- (1) 調査地域：東京 23 区
- (2) 調査対象者：40～44 歳の男女 400 人、65 歳以上の男女 800 人の計 1,200 人<sup>3</sup>
- (3) 調査手法：郵送調査法（社団法人 新情報センターに委託）
- (4) 標本抽出法：層化 2 段階無作為抽出
- (5) 標本抽出ソース：住民基本台帳
- (6) 標本数及び有効回答数：
  - ア 標本数 1,200 人
  - イ 有効回収数 448 人

---

<sup>3</sup> 同時に千葉県柏市居住者についても同様の調査を行ったが、それについては別途報告する。

ウ 有効回収率 37.3%

エ 調査不能数 752 人

オ 調査不能率 62.7%

(7) 調査実施期間：2011 年 2 月 4 日（金）～2011 年 2 月 21 日（月）

## 5. 調査結果の見方と注意点

(1) [] 内（〔Q2〕など）は調査票の質問番号に対応する。

(2) 図中の「n」は該当質問での有効回答者数を表す。また、「単数回答」は質問に対する回答が 1 つの質問、「複数回数」は質問に対する回答がいくつでもよい質問を表す。

(3) 回答比率は、「n」を 100%として百分率で算出した。少数点以下第 2 位を四捨五入しているため、文中の百分率の合計が図中の数値と一致しないことがある。

(4) 複数回答が可能な質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 個人属性

#### (1) 性別〔Q1〕

性別は、男性が全回答者の4割、女性が6割程度を占めており、女性の方がやや多い。

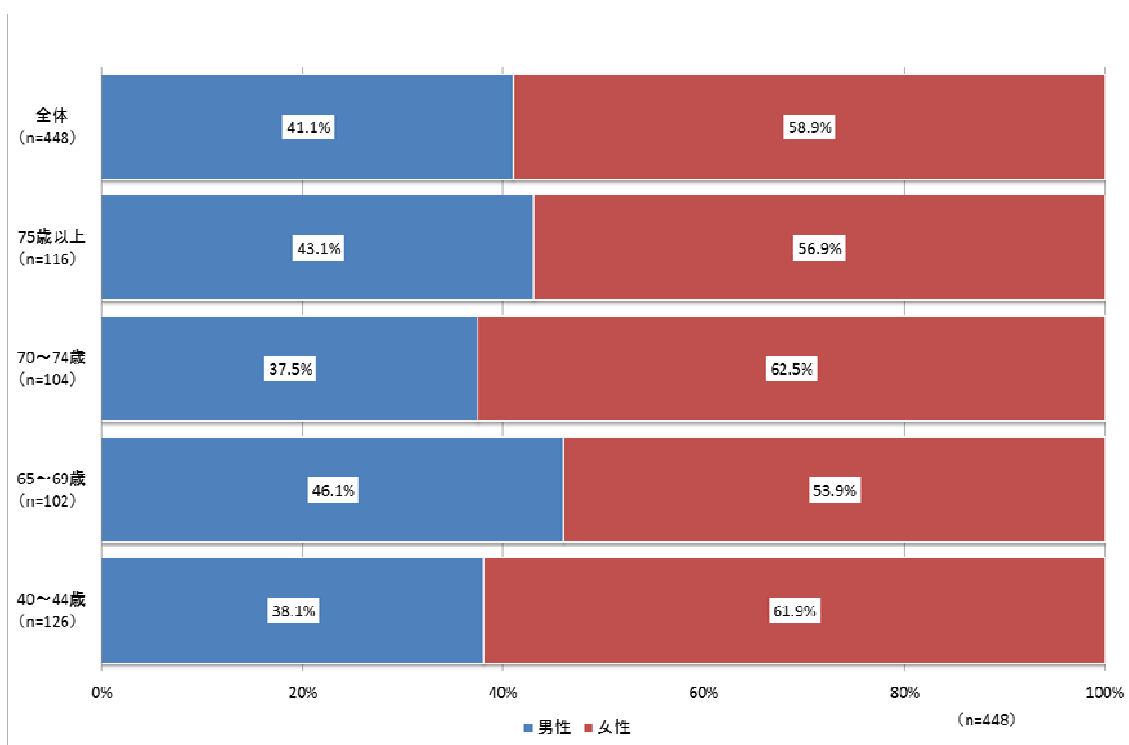


図 1-1 年齢階層別の性別（単数回答）



## (2) 年齢 [Q2]

回答者の年齢構成は、「40～44歳」が28.1%、「65～69歳」が22.8%、「70～74歳」が23.2%、「75歳以上」が25.9%となっている。この年齢階層区分のもとでは、各階層の回答者の割合はほぼ同程度になっている。

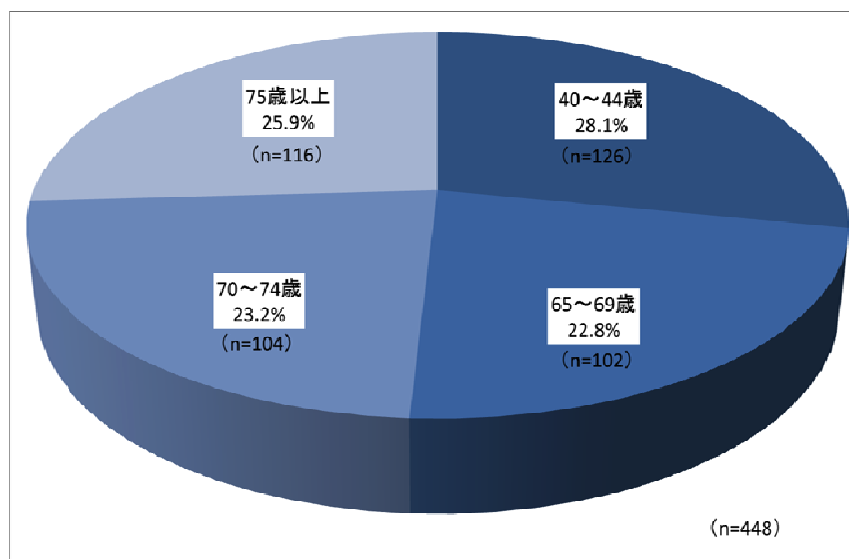


図 1-2 年齢構成 (単数回答)

### (3) 居住区〔Q3〕

居住区は、「世田谷区」(11.6%)、「練馬区」(8.7%)、「大田区」(7.8%)が比較的多い。「中央区」と「文京区」には回答者がいない。

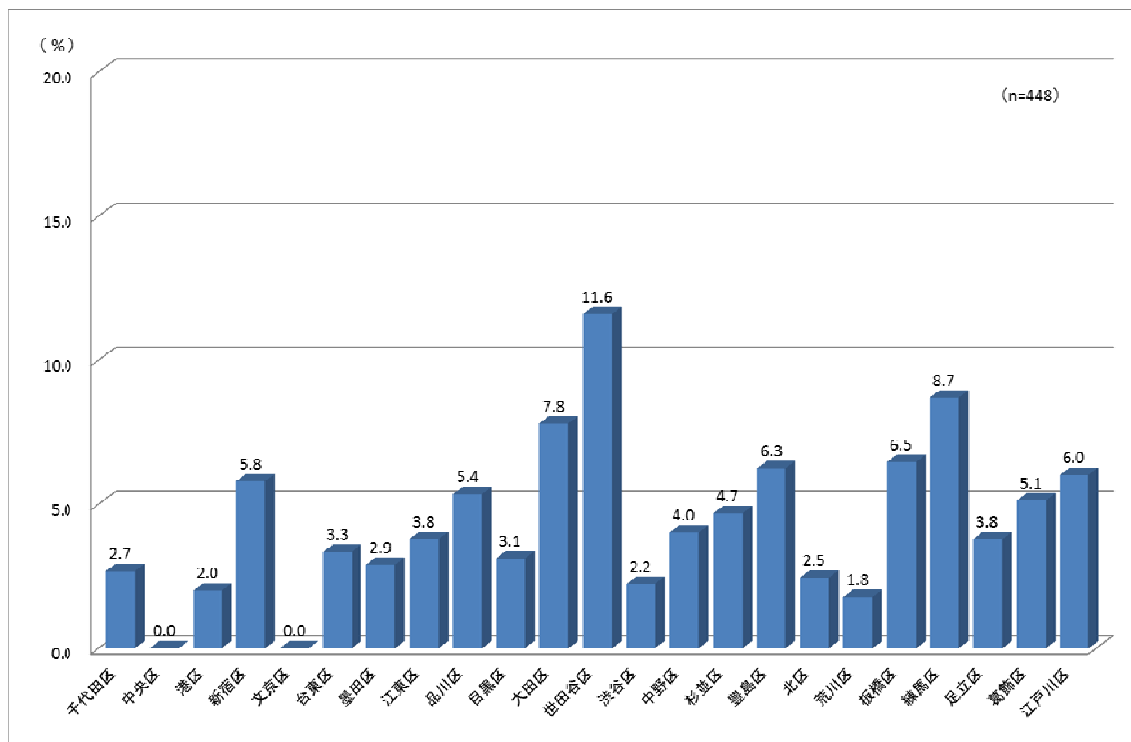


図 1-3 居住区 (単数回答)

#### (4) 同居人数 [Q4]

同居人数をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「同居人はいない」と「1人」がそれぞれ15.4%であり、合わせて全体の約3割(30.9%)を占めている。一方、「2人」が23.6%、「3人」が32.5%、「4人」が8.1%、「5人」が2.4%、「6人以上」が2.4%で、同居人数が2人以上いる回答者が全体の7割(69.1%)を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「同居人はいない」の割合がそれぞれ10.0%、11.8%、16.1%である。同居人が「1人」はそれぞれ40.0%、41.2%、49.1%であり、「40～44歳」よりも顕著に高い。同居人が1人以下の割合は合わせて全体の5割以上(50.0%、52.9%、65.2%(3つの年齢階層に対応している、以下同じ))であり、年齢階層が高いほど増えている。しかも、非高齢者である「40～44歳」(30.9%)と比べてこれらの比率は顕著に高い。一方、同居人が2人以上いる回答者は、「2人」がそれぞれ37.0%、29.4%、22.3%、「3人」がそれぞれ9.0%、7.8%、6.3%、「4人」がそれぞれ3.0%、3.9%、3.6%、「5人」がそれぞれ1.0%、2.9%、1.8%、「6人以上」がそれぞれ0.0%、2.9%、0.9%となっている。2人以上同居人がいる回答者の割合は、年齢階層が高くなるほど小さくなっている(50.0%、47.1%、34.8%)。しかも、非高齢者である「40～44歳」(69.1%)と比べてこれらの比率は顕著に小さい。

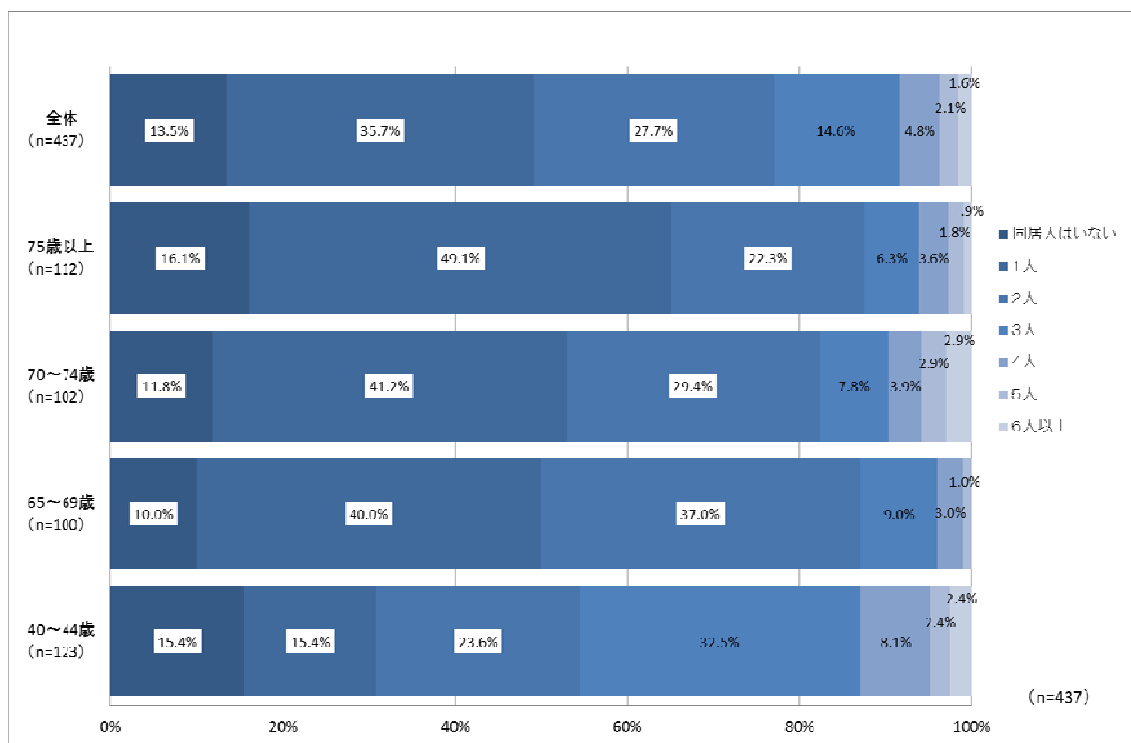


図 1-4 同居人数 (回答者は除く) (単数回答)

### (5) 同居人との関係〔Q5〕

同居人のいる回答者の同居人との関係をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「配偶者・パートナー」(78.5%)が最も多く、以下、「独身の娘」(48.4%)、「独身の息子」(37.6%)の順となっている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「40～44歳」の階層と同じく「配偶者・パートナー」(それぞれ91.0%、76.9%、73.9%)が最も多いが、以下、「独身の息子」(20.5%、20.5%、13.6%)、「独身の娘」(16.7%、17.9%、13.6%)の順になっている。以上の3つのカテゴリで全体の7割以上(84.7%、76.9%、73.6%)を占める。また、「40～44歳」の階層と比べて高齢者グループでは、年齢階層が高くなるほど、「孫」(7.7%、11.5%、13.6%)、「息子夫婦」(2.6%、5.1%、8.0%)、「娘夫婦」(1.3%、3.8%、8.0%)との同居の割合が高くなっている。

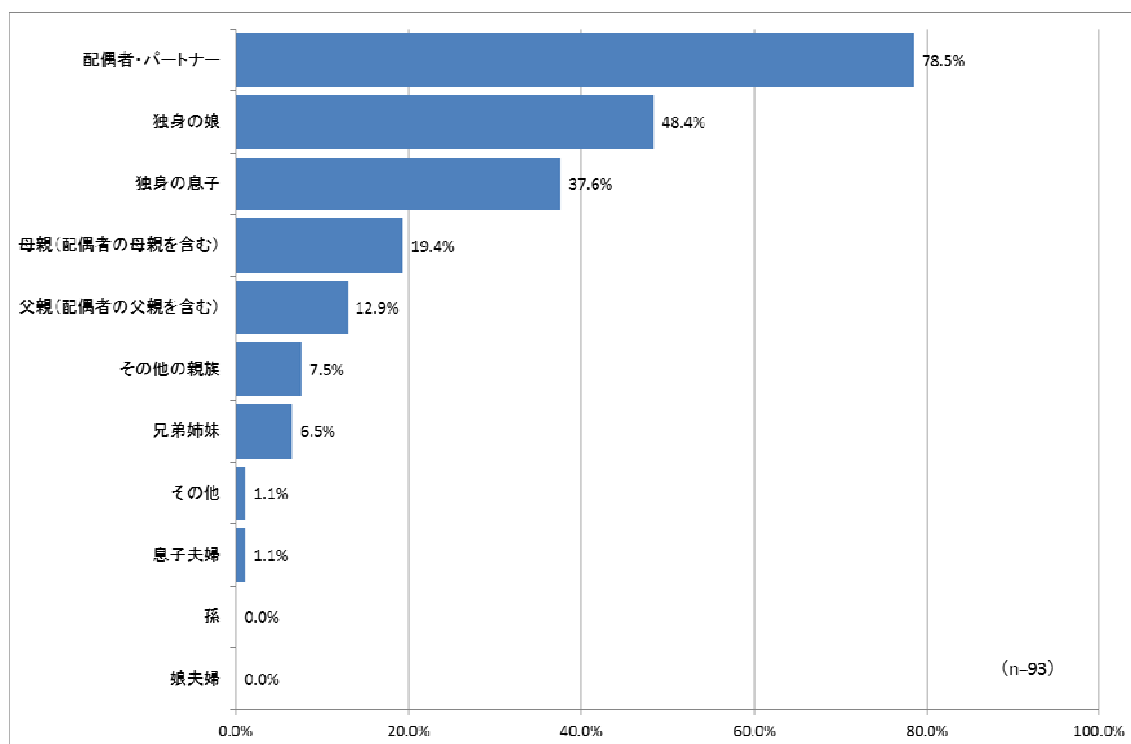


図 1-5a 「40～44歳」階層の回答者の同居人との関係（複数回答）

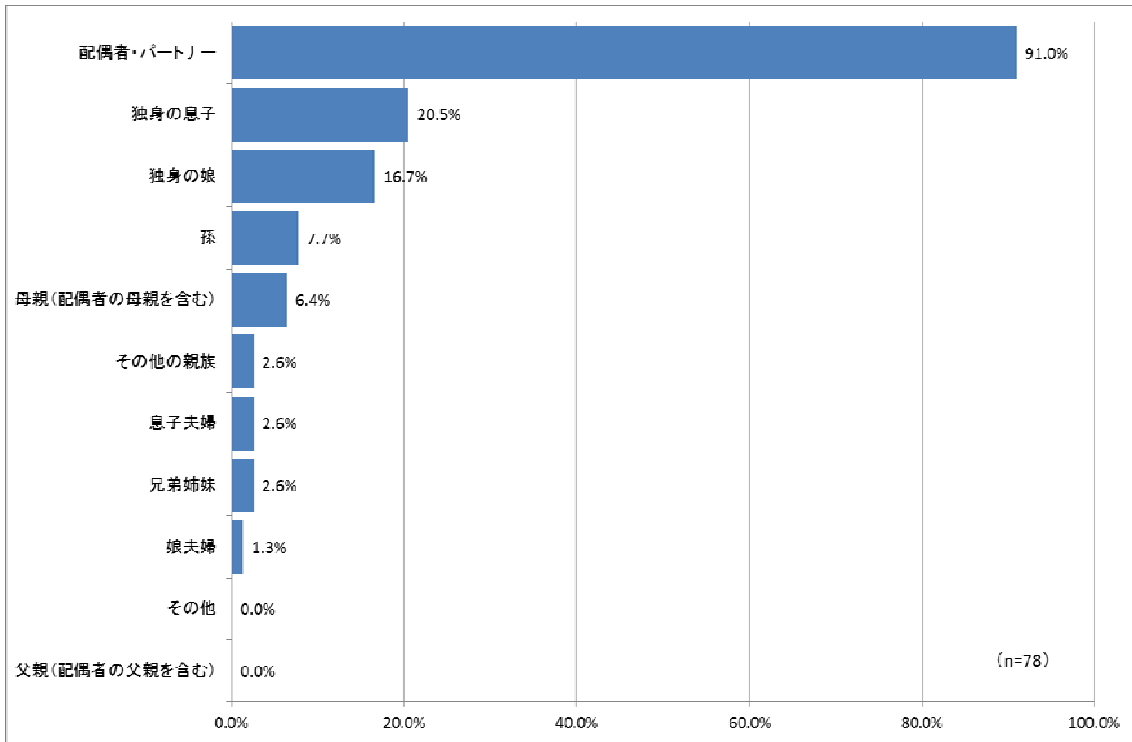


図 1-5b 「65～69 歳」階層の回答者の同居人との関係（複数回答）

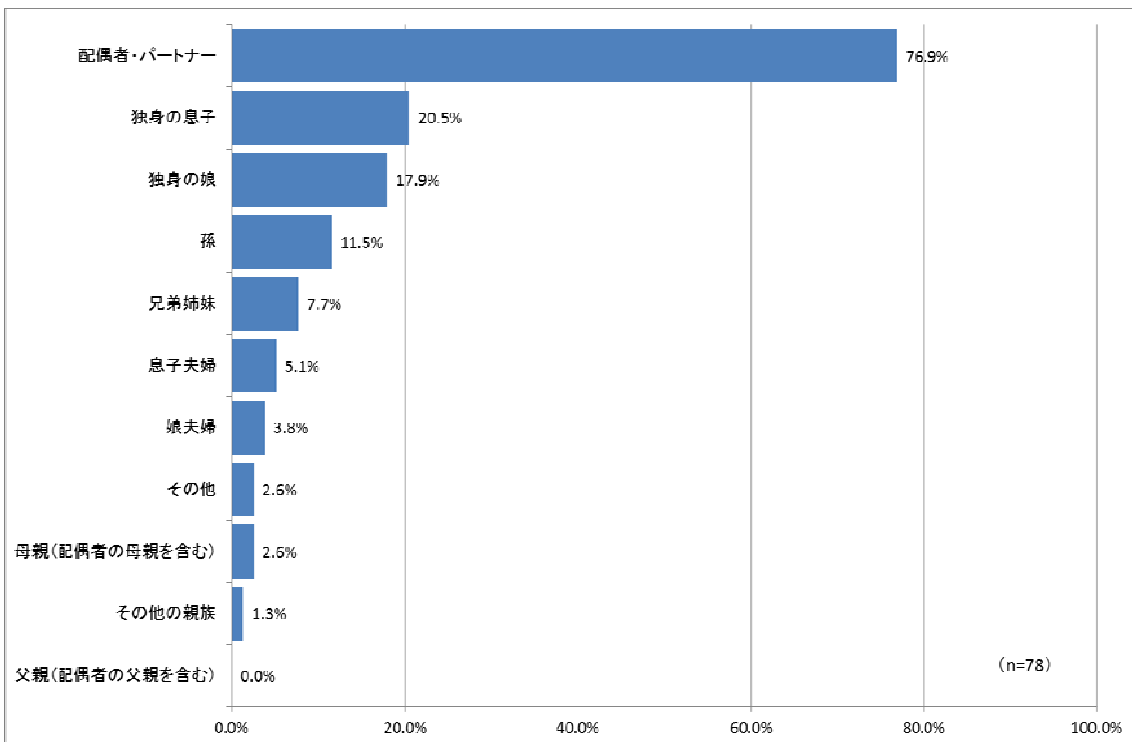


図 1-5c 「70～74 歳」階層の回答者の同居人との関係（複数回答）

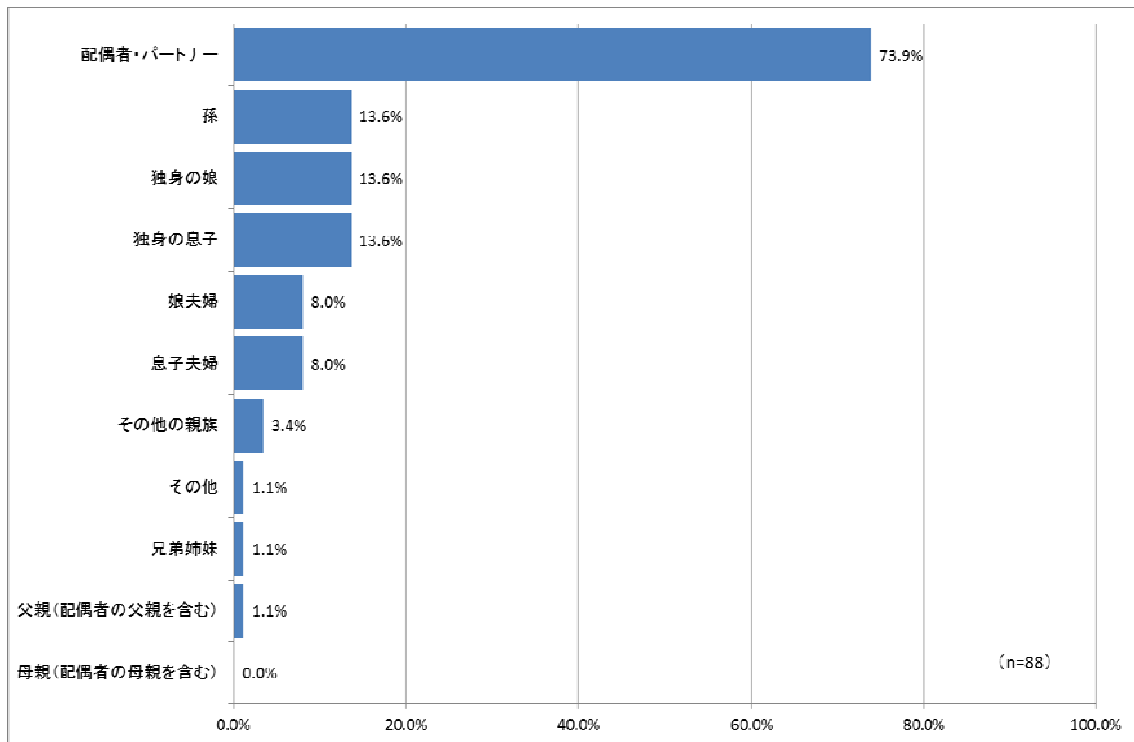


図 1-5d 「75 歳以上」階層の回答者の同居人との関係（複数回答）

(6) 家計全体の年収（年金を含む）〔Q6〕

家計全体の年収（年金を含む）をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「700万円～1,000万円」が22.6%、「500万円～700万円」が21.0%、「1,000万円～1,500万円」が20.2%であり、年収が500万円以上の割合は合わせて全体の約7割（68.5%）を占める。

一方、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「300万円～400万円」がそれぞれ23.5%、20.0%、17.1%であり、以下、「400万円～500万円」が14.3%、8.0%、12.6%、「500万円～700万円」が15.3%、8.0%、11.7%を占めている。年収が500万円以上の割合は全体の約3割（それぞれ34.7%、29.0%、28.8%）であり、「40～44歳」の階層と比べて非常に少ない。

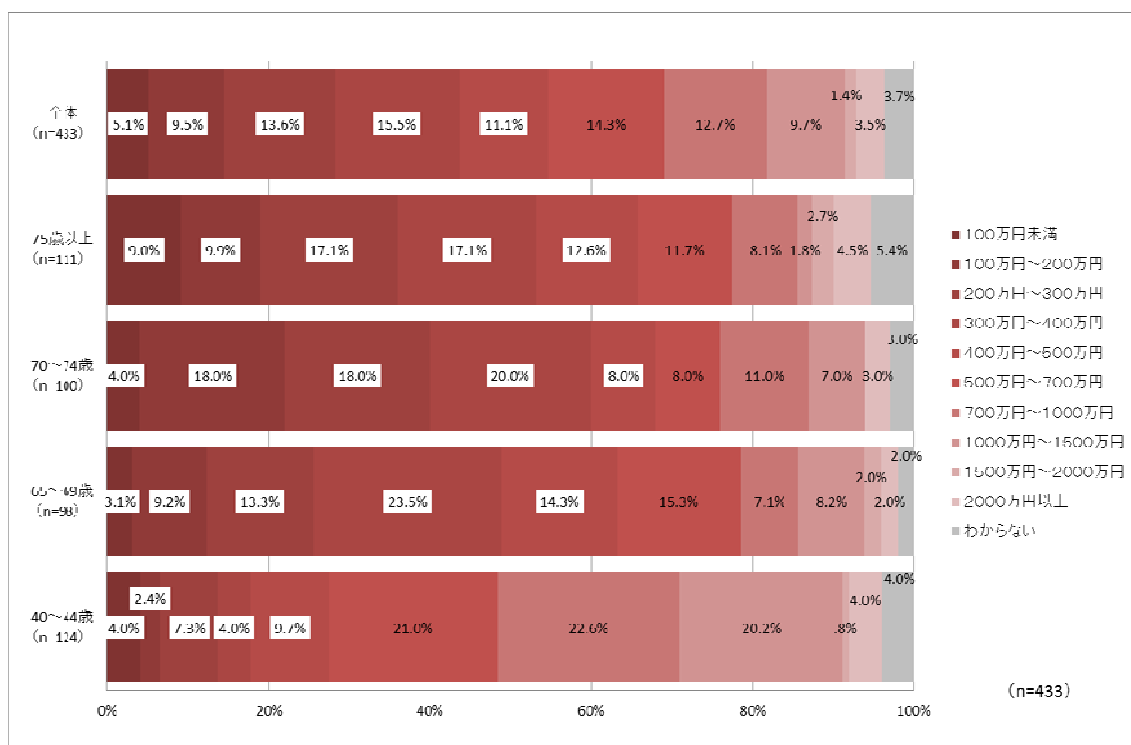


図 1-6 家計全体の年収（年金を含む）（単数回答）

### (7) 家計全体の貯蓄額 [Q7]

家計全体の貯蓄額をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「100万円未満」が4分の1（25.0%）、「100万円～200万円」が12.1%であり、200万円未満が合計約4割近く（37.1%）を占めている。「500万円～1,000万円」、「1,000万円～2,000万円」、「2000万円～3000万円」、「3000万円以上」はそれぞれ9.7%、6.5%、4.8%、8.1%であり、500万円以上の割合は合計41.1%である。

一方、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、200万円未満の割合がそれぞれ合計11.7%、20.2%、13.0%であり、「40～44歳」よりも低い。500万円以上の割合は、それぞれ74.5%、63.6%、73.1%であり、「40～44歳」よりも高い。特に、「3000万円以上」の割合は年齢の高い階層ほど高くなり、「75歳以上」では25.9%になっている。

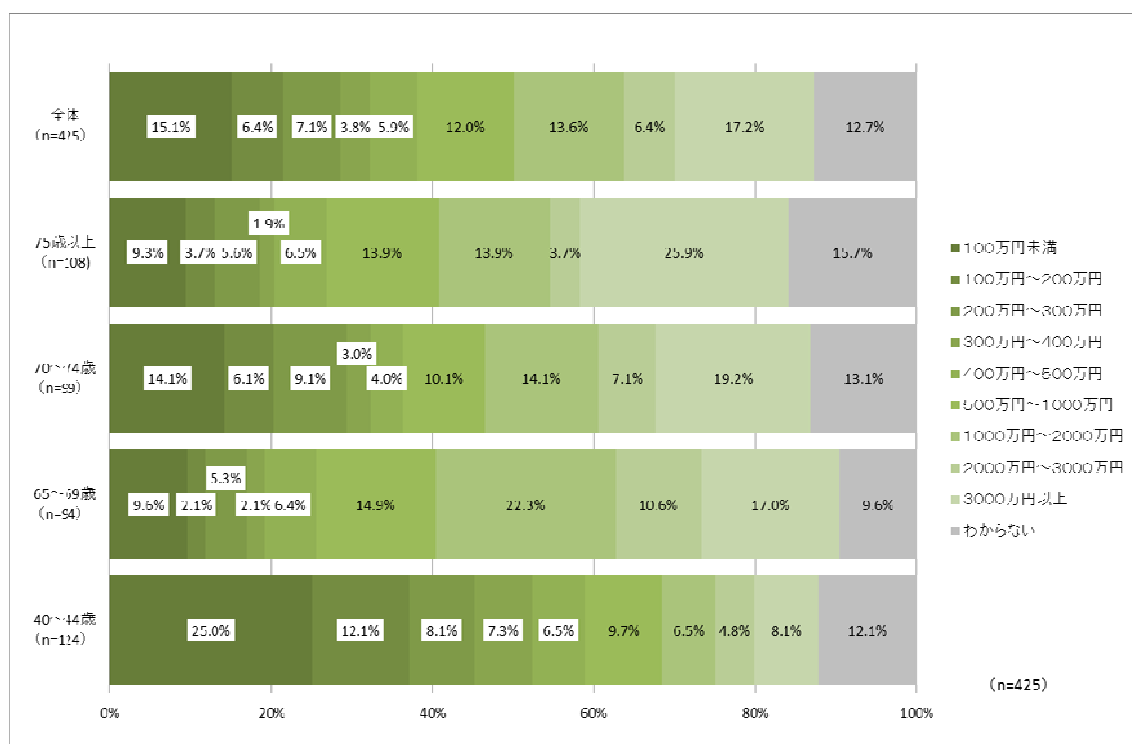


図 1-7 家計全体の貯蓄額（単数回答）



### (8) 最終学歴 [Q8]

最終学歴をみると、非高齢者である「40～44 歳」の階層では、「4 年制大学」(31.7%) が最も多く、以下、「高校」(21.4%)、「専門学校」と「短期大学」(それぞれ 19.0%) の順になっている。

高齢者である「65～69 歳」、「70～74 歳」、「75 歳以上」の階層では、「高校」(それぞれ 46.9%、58.0%、39.3%) が最も多く、以下、「4 年制大学」(21.4%、16.0%、20.6%)、「中学校」(19.4%、14.0%、22.4%) の順になっている。

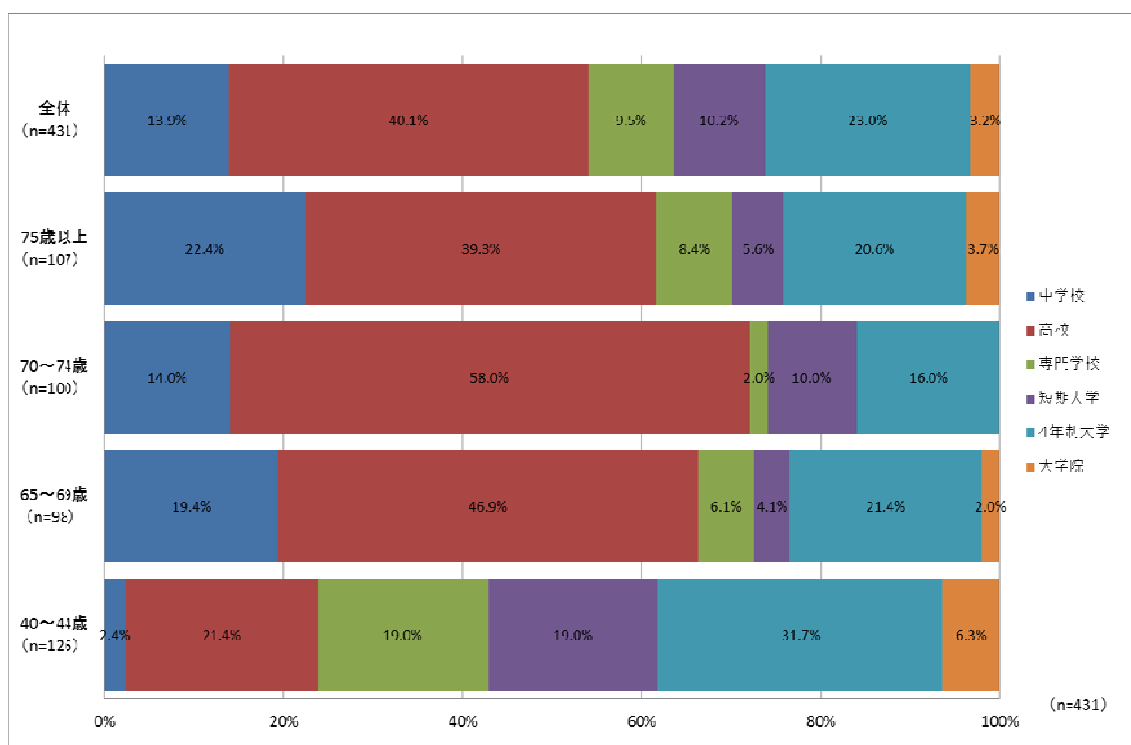


図 1-8 最終学歴 (単数回答)

(9) 1週あたり平均勤務日数〔Q9〕

1週あたり平均勤務日数をみると、「働いていない」と答えた回答者の割合は、「40～44歳」で約2割（19.0%）である。一方、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」（それぞれ53.7%、67.4%、85.2%）では大幅にその割合が増え、年齢階層が上がるほど割合が高くなっている。

逆に「週5日以上勤務」と回答した人の割合は、「40～44歳」では64.3%と6割を超えるが、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」ではそれぞれ27.4%、14.7%、7.4%と大幅に低くなり、高齢になるほど低くなっている。

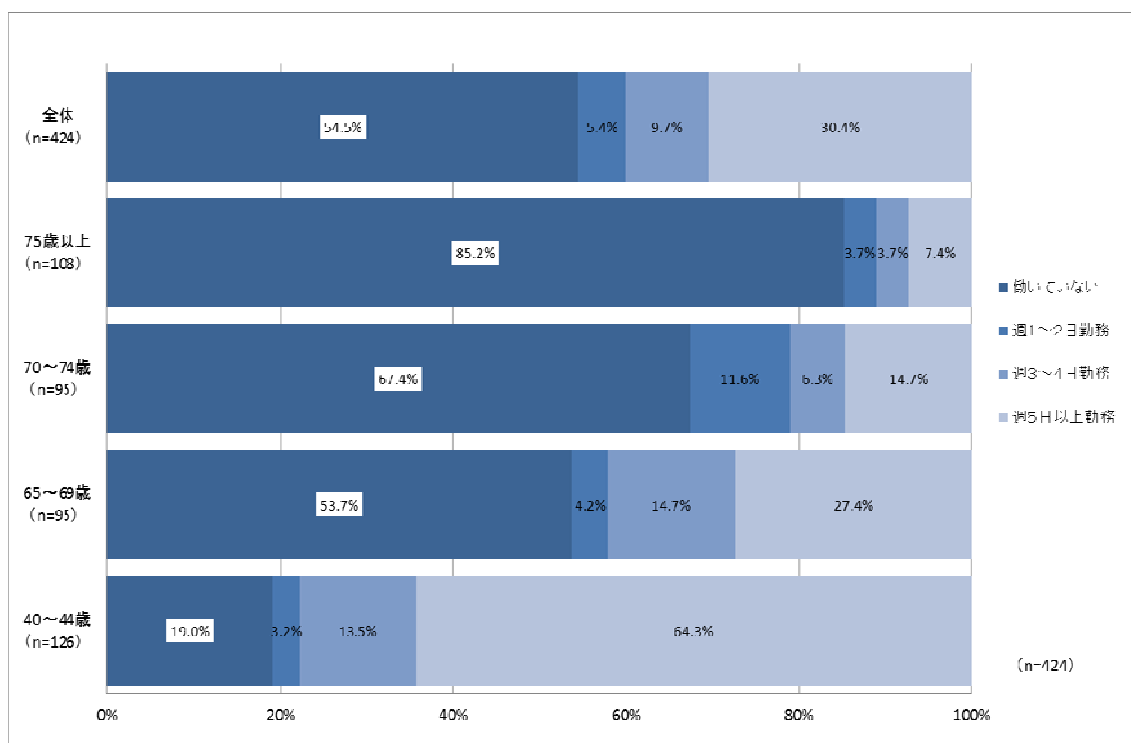


図 1-9 週当平均勤務日数（単数回答）

(10) 1日あたり平均勤務時間〔Q9-1〕

週1日以上働いていると回答した人の1日あたり平均勤務時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「8時間以上12時間未満」(60.6%)が最も多く、以下、「5時間以上8時間未満」(17.2%)、「3時間以上5時間未満」(14.1%)の順になっている。また、1日あたり8時間以上働いていると回答した人の割合は、全体の7割程度(67.7%)を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「5時間以上8時間未満」の割合がそれぞれ38.6%、54.8%、43.8%、「3時間以上5時間未満」が22.7%、25.8%、37.5%、「8時間以上12時間未満」が25.0%、6.5%、18.8%となっている。また、1日あたり8時間以上働いていると回答した人の割合はそれぞれ25.0%、9.7%、18.8%であり、「40～44歳」よりも大幅に少ない。

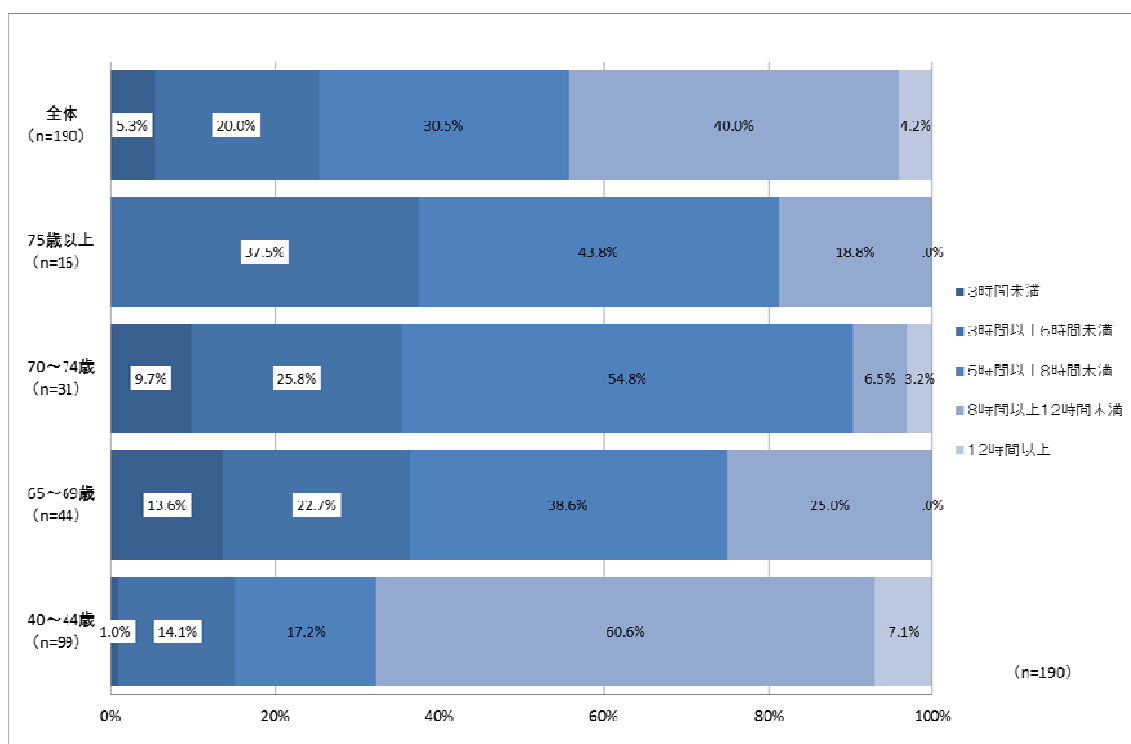


図1-10 日当平均勤務時間（「働いている」と回答した対象者のみ）（単数回答）

## 2. 外出目的別の移動状況

本節の集計結果は、回答しなかった者を除いて集計した結果である。年齢階層によってはサンプル数の少ない場合があることに留意されたい。

### (1) 通勤・通学〔Q23ー(A)〕

#### (ア) 利用交通手段ー通勤・通学

通勤・通学の利用交通手段の割合をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「鉄道」(47.7%)が最も多く、約半数を占めている。以下、「自転車」(25.2%)、「徒歩のみ」(12.6%)の順になっている。

高齢者の「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」(それぞれ35.9%、38.5%)が最も多く、以下、「鉄道」(20.5%、26.9%)、「自転車」(20.5%、19.2%)の順になっている。「75歳以上」の階層では、「鉄道」(41.7%)、「徒歩のみ」(33.3%)、「路線バス」(16.7%)の順になっている。ただし、通勤・通学している高齢者のサンプルは比較的少ないことに注意されたい。

「40～44歳」と高齢者グループの利用交通手段を比べると、高齢者の方が「徒歩のみ」と「路線バス」の割合が高く、「自転車」の割合が低くなる傾向がある。

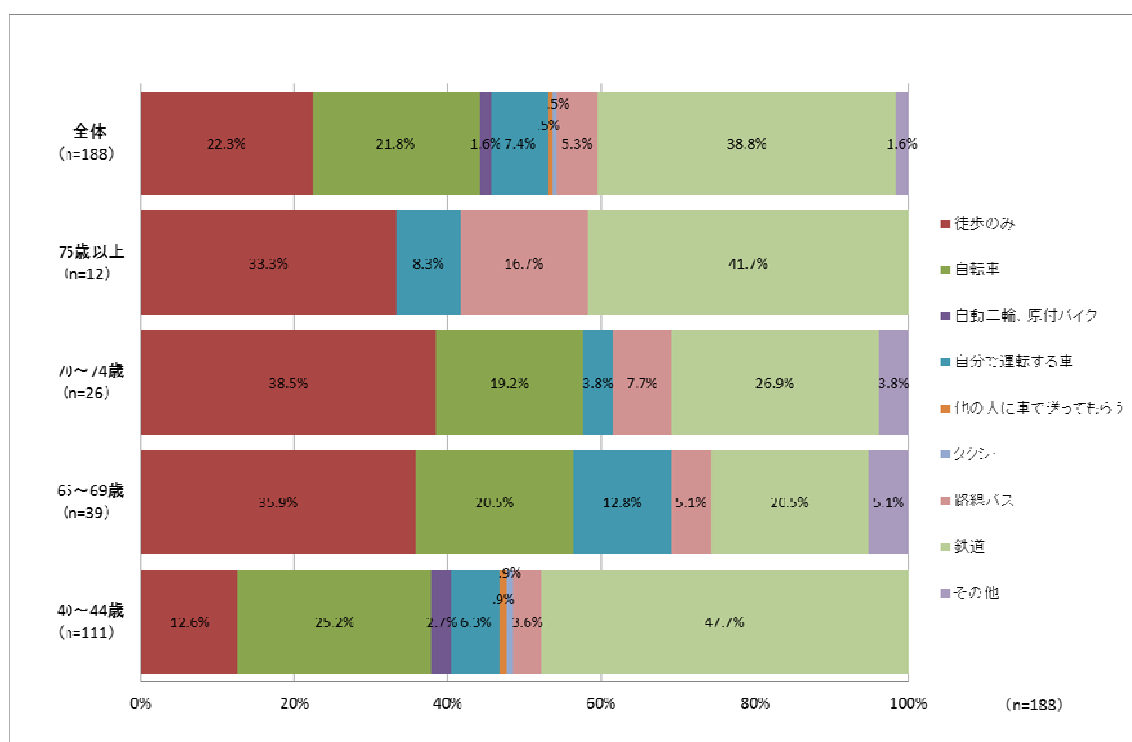


図 2-1a (A) 通勤・通学：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—通勤・通学

通勤・通学にかかる片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では「15分未満」(24.5%)が最も多い。次いで、「15分以上30分未満」(21.7%)が多く、30分未満の割合が全体の4割以上(46.2%)を占めている。

高齢者の「65～69歳」と「70～74歳」の階層でも、「15分未満」(それぞれ40.0%、38.5%)、「15分以上30分未満」(23.3%、19.2%)の順に多いが、30分未満の割合が全体の5割以上(63.3%、57.7%)と「40～44歳」よりも高い。一方、「75歳以上」の階層では、「15分未満」(7.7%)と「15分以上30分未満」(7.7%)の割合が非常に低く、30分未満の割合は全体の1割程度(15.4%)しかない。ただし、通勤・通学している高齢者のサンプル数が少ないことに注意する必要がある。

重要な点は、「75歳以上」の階層を除いた高齢者の階層では、非高齢者の「40～44歳」の階層に比べて、通勤・通学時間が短い傾向が見られることである。

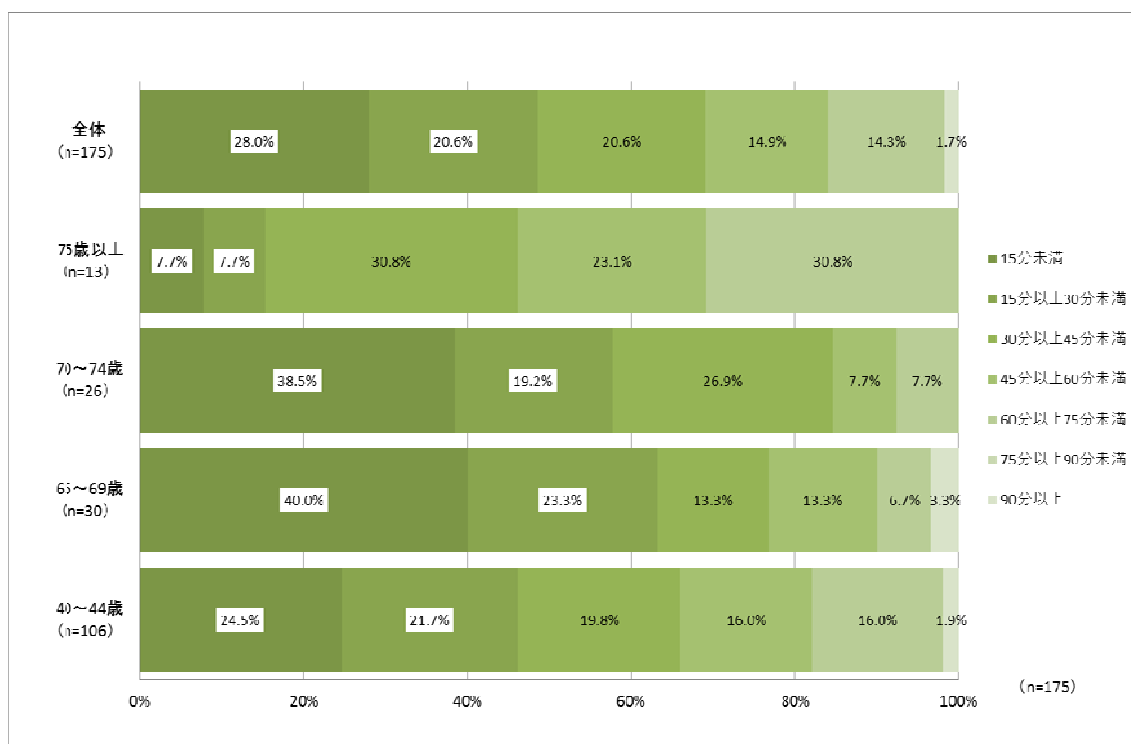


図 2-1b (A) 通勤・通学：片道所要時間の割合 (単数回答)

(ウ) 同行者—通勤・通学

通勤・通学の際の同行者は、全ての階層で「一人で」が最も多い（「40～44 歳」83.2%、「65～69 歳」87.2%、「70～74 歳」93.1%、「75 歳以上」81.3%）。次いで、同じく全ての階層で「同居家族と」が多くなっている（それぞれ 13.3%、12.8%、6.9%、12.5%）。

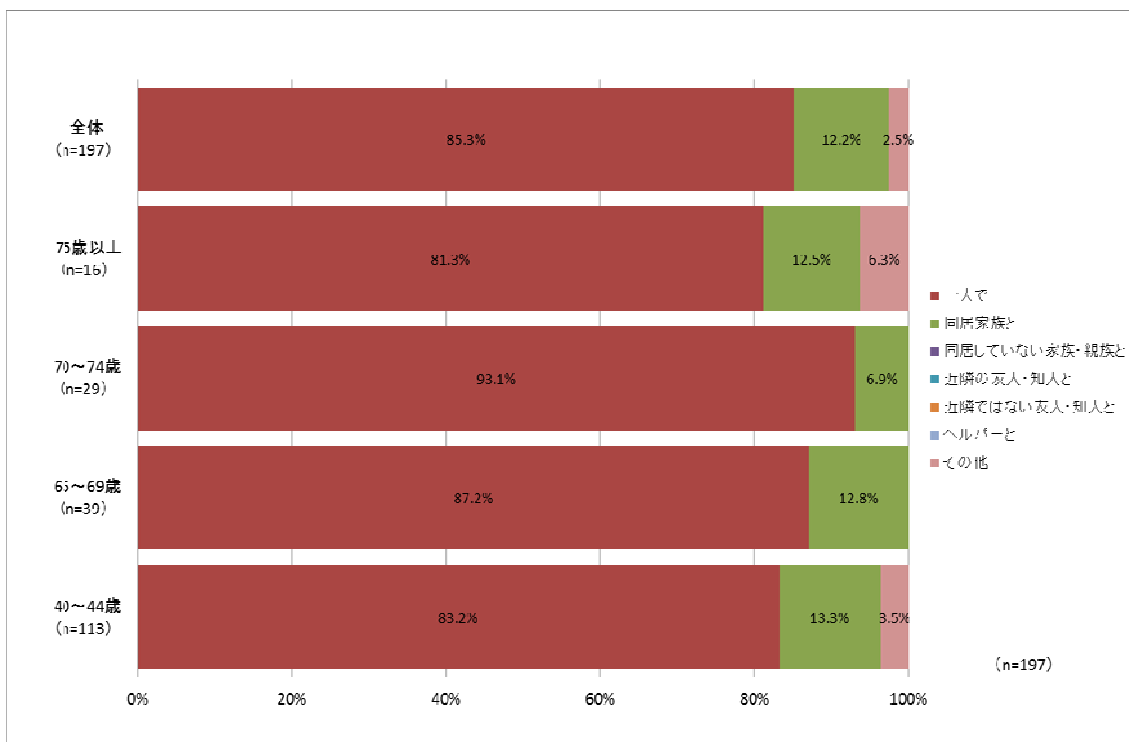


図 2-1c (A) 通勤・通学：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—通勤・通学

通勤・通学の頻度をみると、「週5日以上」の割合が「40～44歳」では74.6%と7割以上を占めているが、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」ではそれぞれ58.3%、37.9%、35.7%であり、高齢になるほど低くなっている。「週3～4日」の割合は、「40～44歳」で18.4%、「65～69歳」で19.4%、「70～74歳」で24.1%、「75歳以上」で35.7%となっており、高齢になるほど高くなっている。

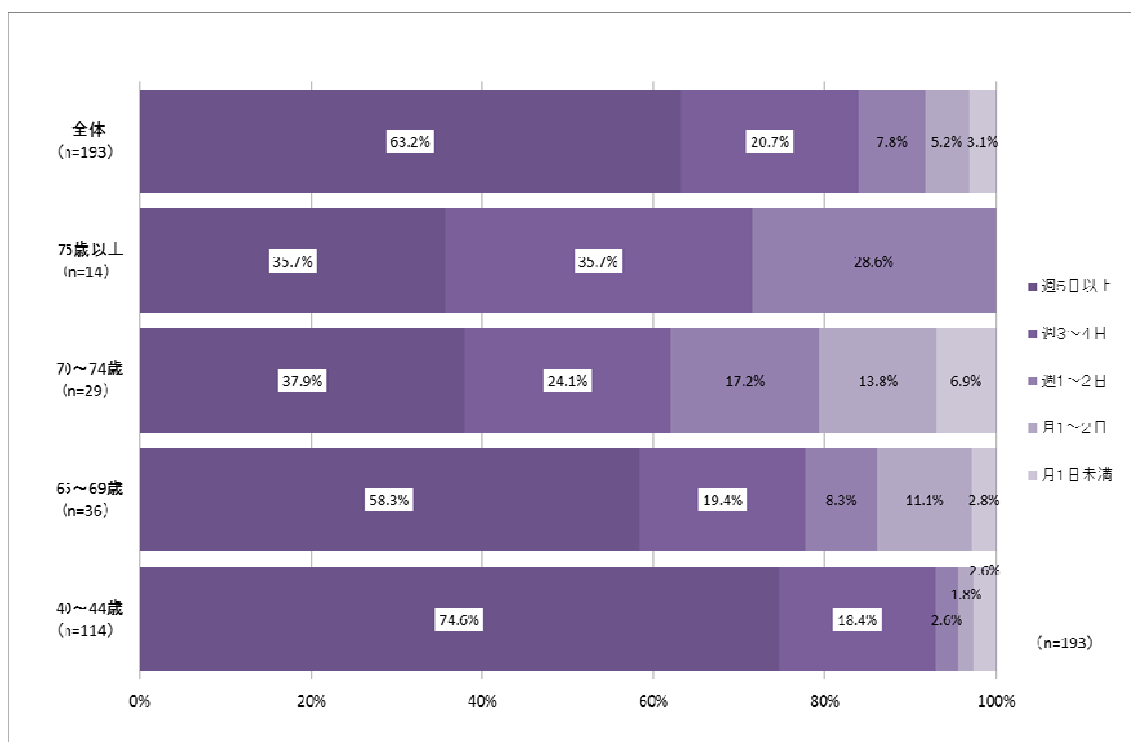


図 2-1d (A) 通勤・通学：外出頻度の割合（単数回答）

## (2) 定期的に通う病院〔Q23- (B)〕

### (ア) 利用交通手段—定期的に通う病院

定期的に通う病院に出かける際の利用交通手段は、「徒歩のみ」が全ての階層で最も高い割合を占めている（「40～44歳」37.4%、「65～69歳」38.3%、「70～74歳」37.8%、「75歳以上」40.0%）。

2番目以降は、非高齢者である「40～44歳」では「自転車」（34.6%）、「鉄道」（13.1%）となっており、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」では、「自転車」（それぞれ27.2%、17.1%、13.3%）、「鉄道」（13.6%、19.5%、10.0%）、「路線バス」（7.4%、9.8%、17.8%）となっている。

年齢が高いほど、「自転車」（「40～44歳」34.6%、「65～69歳」27.2%、「70～74歳」17.1%、「75歳以上」13.3%）の割合は低くなり、「路線バス」（それぞれ1.9%、7.4%、9.8%、17.8%）と「タクシー」（0.9%、1.2%、4.9%、11.1%）の割合が高くなっている。

重要な点は、「徒歩」の比率は年齢階層でほとんど変わらず、年齢階層が高くなるにつれて「自転車」の比率が減り、同時に「路線バス」や「タクシー」の比率が増えることである。

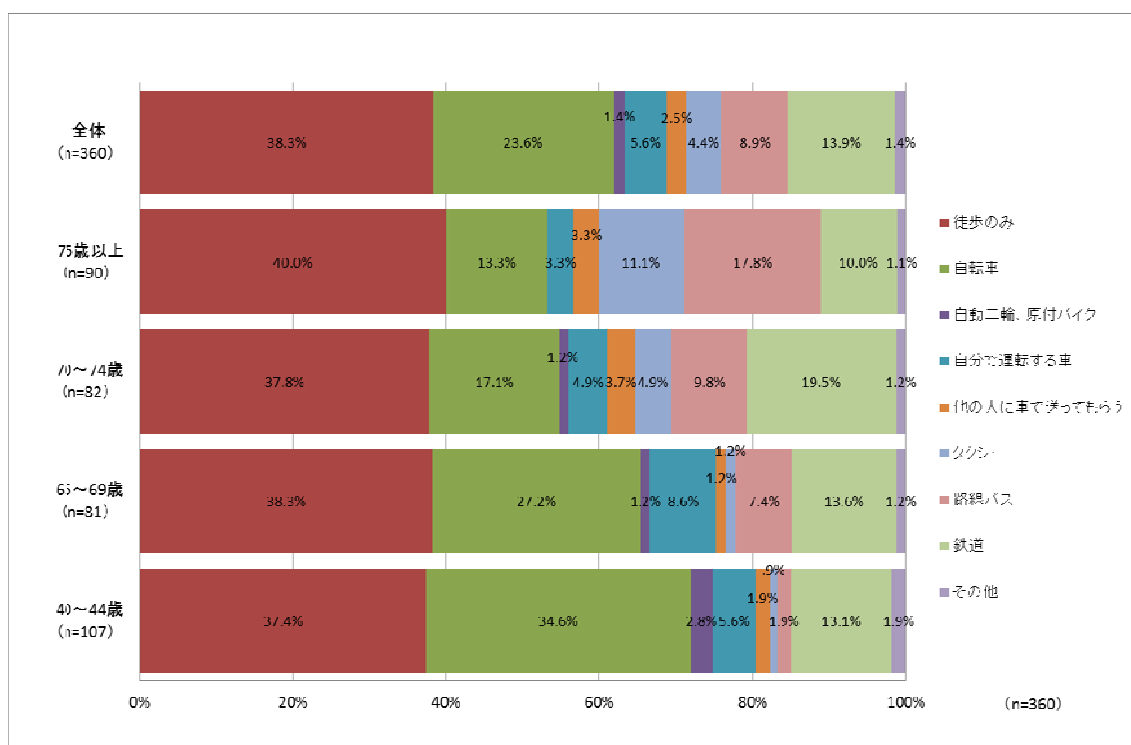


図 2-2a (B) 定期的に通う病院：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—定期的に通う病院

定期的に通う病院に行くのにかかる片道所要時間は、全ての階層で「15分未満」が最も多く（「40～44歳」70.0%、「65～69歳」55.7%、「70～74歳」31.9%、「75歳以上」40.0%）、「15分以上30分未満」がそれに次ぐ（それぞれ18.0%、24.1%、25.0%、30.0%）。

片道所要時間が30分以上と回答した人の割合は、非高齢者である「40～44歳」では1割程度（12.0%）であるが、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」では、それぞれ20.3%、43.1%、30.0%と相対的に高い。

重要な点は、高齢者の階層では、非高齢者の「40～44歳」の階層に比べて、病院に通う際の時間が長い傾向が見られることである。

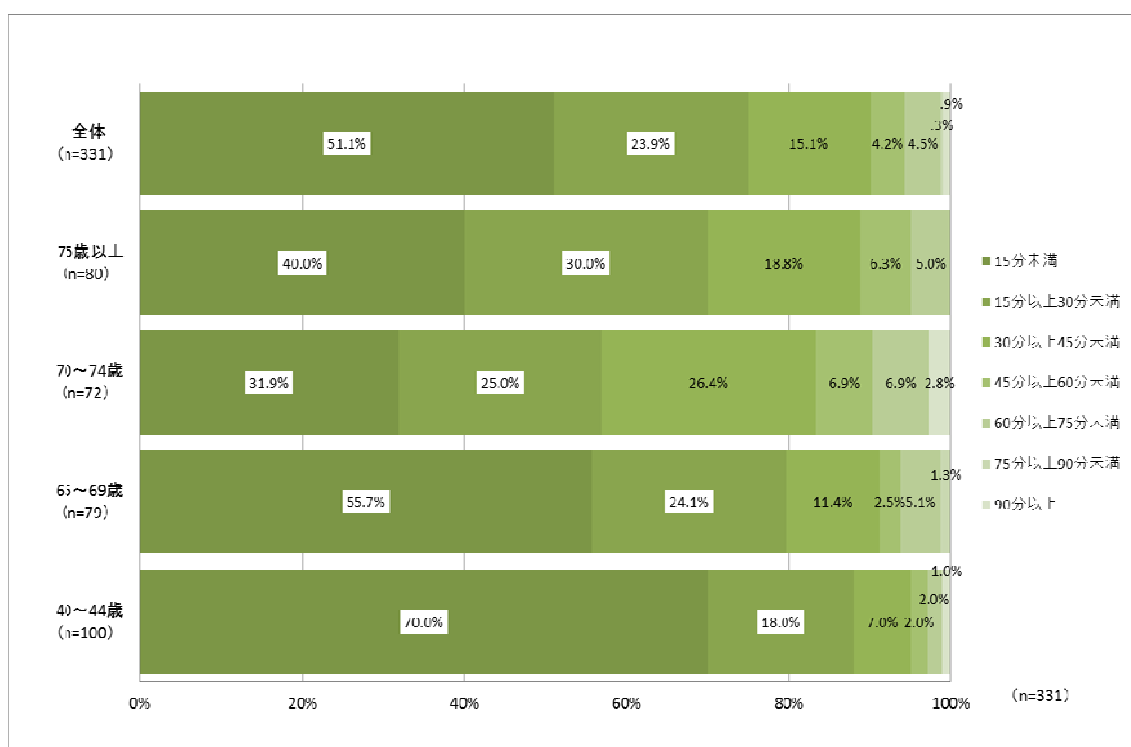


図 2-2b (B) 定期的に通う病院：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—定期的に通う病院

定期的に通う病院に行く際の同行者は、全ての階層で、「一人で」が最も高い割合を占め（「40～44歳」73.6%、「65～69歳」87.2%、「70～74歳」90.4%、「75歳以上」79.1%）、「同居家族と」がそれに次いでいる（それぞれ25.5%、10.3%、8.2%、16.3%）。

また、「ヘルパーと」と回答した人が、「65～69歳」（1.3%）、「75歳以上」（1.2%）でわずかに見られる。

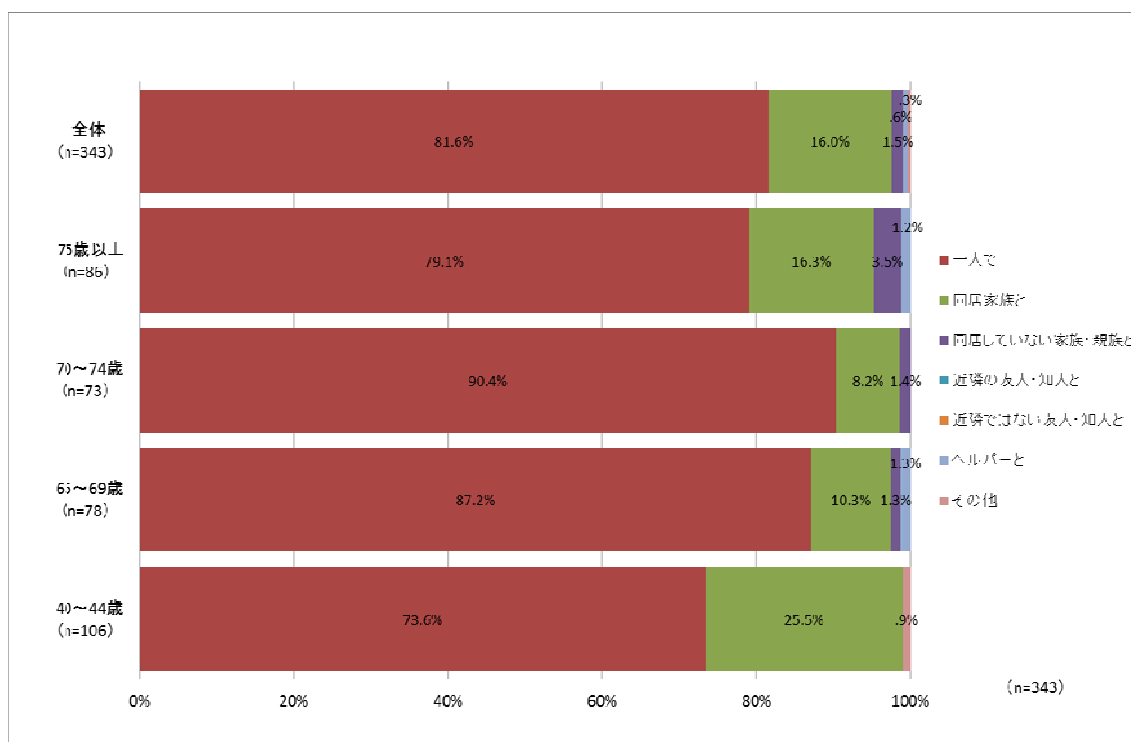


図 2-2c (B) 定期的に通う病院：同行者の割合（単数回答）

### (エ) 頻度一定期的に通う病院

定期的に通う病院に行く頻度をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「月1日未満」(68.2%)の割合が約7割と最も高く、次いで「月1～2日」(25.2%)となっている。

高齢者である「65～69歳」と「70～74歳」の階層でも、「月1日未満」(それぞれ48.6%、47.1%)は約5割と最も多いが、「40～44歳」よりも少ない。「月1～2日」はそれぞれ35.1%、38.6%であり、「40～44歳」よりも多い。「75歳以上」の階層では、「月1～2日」(51.2%)が最も多く、次いで、「月1日未満」(29.3%)となっている。

外出頻度が週3日以上である回答者の割合は、「40～44歳」では0.9%と非常に少ないが、高齢者では「65～69歳」で6.8%、「70～74歳」で4.3%、「75歳以上」で12.2%となっており、構成比率こそ小さいものの、年齢階層が上がるほど、定期的に通う病院に行く頻度が高くなっている。

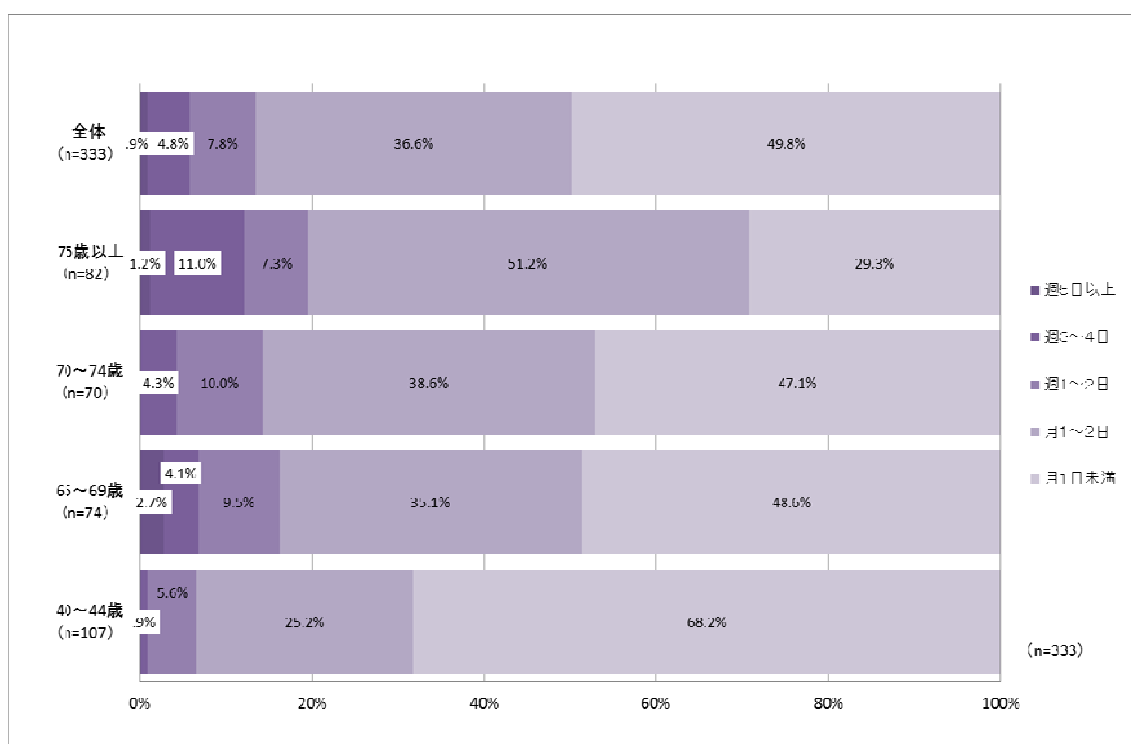


図 2-2d (B) 定期的に通う病院：外出頻度の割合（単数回答）

### (3) 食料品・日用品の買い物【Q23- (C)】

#### (ア) 利用交通手段—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物に出かける際の利用交通手段をみると、「40～44歳」では「自転車」(45.5%)が最も多く、「徒歩のみ」(35.8%)がこれに続く。一方、高齢者では「徒歩のみ」が最も多く、「65～69歳」で47.4%、「70～74歳」で62.8%、「75歳以上」で64.6%となっており、年齢階層が上がるほど徒歩の割合が高くなっている。「自転車」を利用する回答者の割合は、「65～69歳」で40.0%、「70～74歳」で25.6%、「75歳以上」で20.8%となっており、年齢階層が上がるほど割合は下がっている。しかし、「徒歩のみ」と「自転車」の合計は、いずれの年齢階層でも全体の8割以上(「40～44歳」81.3%、「65～69歳」87.4%、「70～74歳」88.4%、「75歳以上」85.4%)を占めている。

「自分で運転する車」の割合は、「40～44歳」では13.8%であるが、高齢者ではこれよりも低い(「65～69歳」10.5%、「70～74歳」5.8%、「75歳以上」1.0%)。しかも、年齢の高い階層ほど、その割合は低くなっている。

重要な点は、年齢階層が上がるにつれて、「徒歩」の割合が増え、その分「鉄道」「自転車」や「自分で運転する車」の比率が減る傾向があることである。

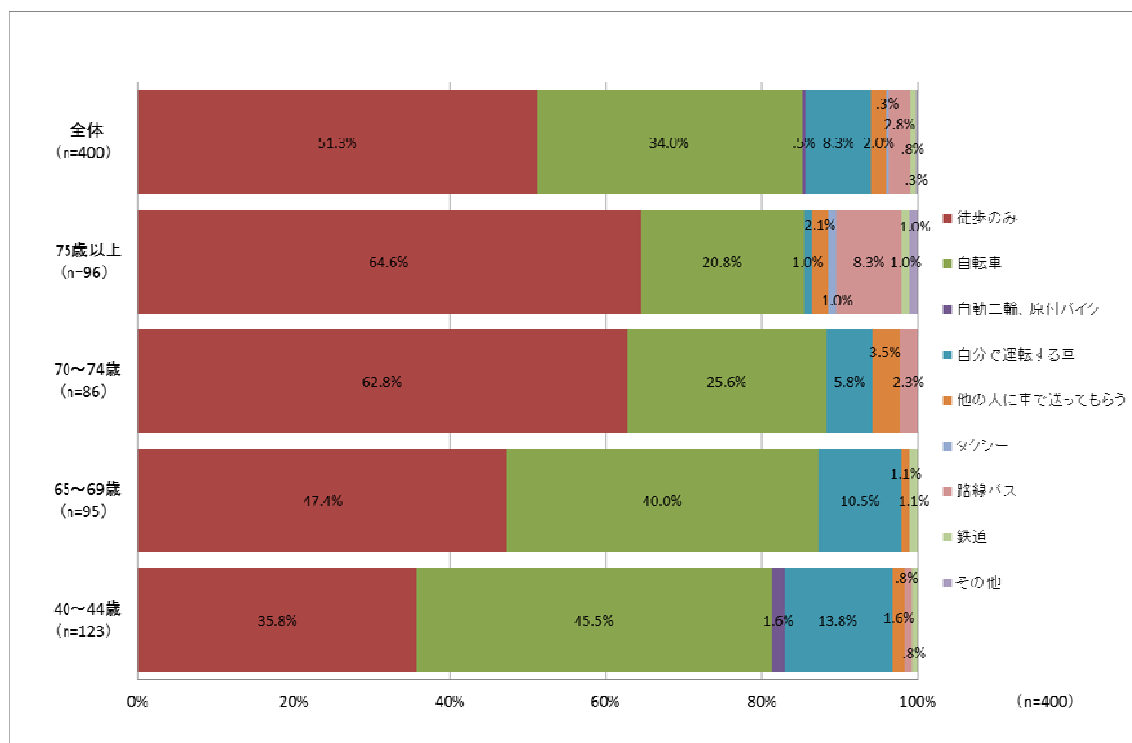


図 2-3a (C) 食料品・日用品の買い物：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物に行くのにかかる片道所要時間は、全ての階層で、「15分未満」が最も多く（「40～44歳」81.7%、「65～69歳」83.3%、「70～74歳」72.6%、「75歳以上」61.3%）、次いで「15分以上30分未満」が多くなっている（それぞれ15.7%、11.1%、16.4%、30.0%）。

片道所要時間が30分以上と回答した人の割合は、「40～44歳」で2.6%、「65～69歳」で5.6%、「70～74歳」で11.0%、「75歳以上」で8.8%となっており、食料品・日用品の買い物に行くのにかかる時間は、非高齢者に比べて、高齢者の方が若干長い傾向が見られる。

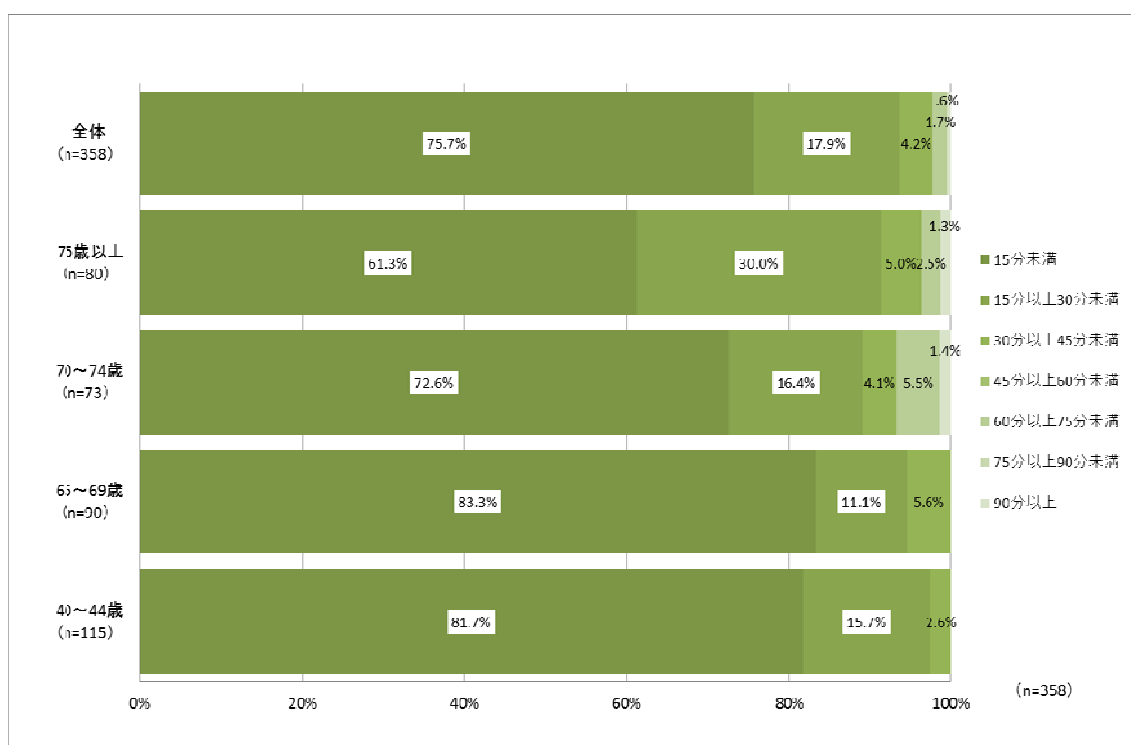


図 2-3b (C) 食料品・日用品の買い物：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物に出かける際の同行者をみると、「一人で」がいずれの年齢階層でも最も多いが、年齢階層が上がるにつれてその割合は増えている（「40～44歳」62.3%、「65～69歳」70.5%、「70～74歳」73.8%、「75歳以上」76.8%）。次に割合の多い「同居家族と」は、年齢階層が上がるにつれて割合が低くなっている（それぞれ36.9%、26.1%、23.8%、22.0%）。

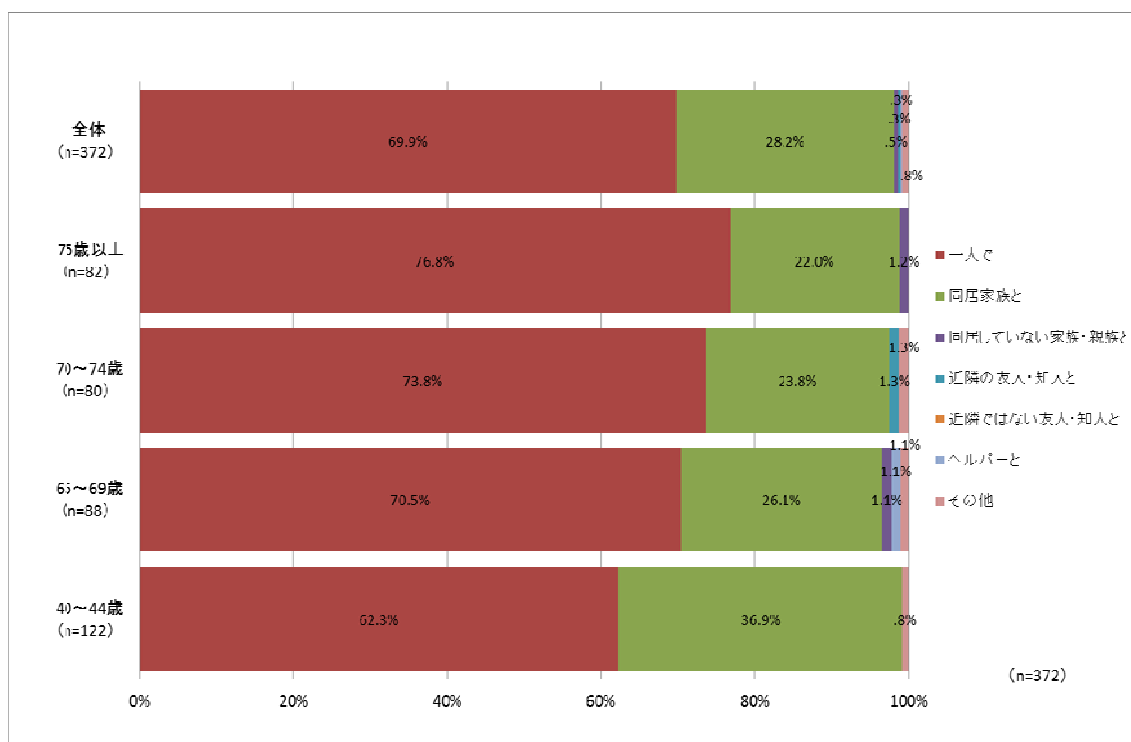


図 2-3c (C) 食料品・日用品の買い物：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物の頻度は、全ての階層で、「週 1～2 日」が最も多くなっており（「40～44 歳」 39.8%、「65～69 歳」 34.9%、「70～74 歳」 32.1%、「75 歳以上」 36.6%）、以下、「週 3～4 日」（それぞれ 29.3%、31.3%、32.1%、31.7%）、「週 5 日以上」（18.7%、22.9%、24.4%、24.4%）と続く。

頻度が週 1 日以上の割合は、「40～44 歳」で 87.8%、「65～69 歳」で 89.2%、「70～74 歳」で 88.5%、「75 歳以上」で 92.7%と非常に高くなっており、年齢階層による差は小さい。

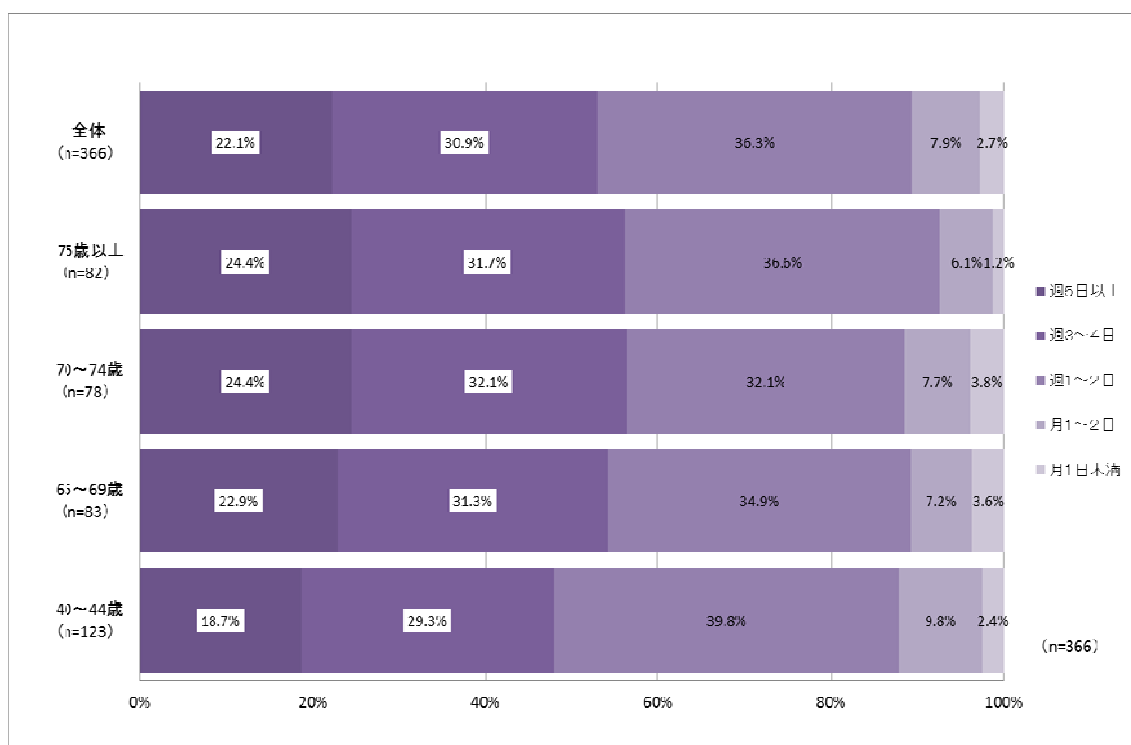


図 2-3d (C) 食料品・日用品の買い物：外出頻度の割合（単数回答）

#### (4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q23- (D)〕

##### (ア) 利用交通手段—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品以外の買い物の際に利用する交通手段は、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自動二輪、原付バイク」(29.8%)、「鉄道」(28.9%)、「自転車」(19.0%)、「他の人に車で送ってもらう」(10.7%)の順に多くなっている。

一方、高齢者である「65～69歳」の階層では、「鉄道」(29.9%)、「自転車」(20.7%)、「徒歩のみ」と「自動二輪、原付バイク」(各17.2%)の順に多くなっている。また「70～74歳」の階層では、「鉄道」(31.7%)、「路線バス」(20.7%)、「徒歩のみ」(15.9%)、「自転車」(13.4%)の順に多くなっている。さらに「75歳以上」の階層では、「路線バス」(30.0%)、「鉄道」(27.5%)、「徒歩のみ」(18.8%)、「自転車」(10.0%)の順に多くなっている。

全年齢階層で「鉄道」は3割前後と比較的高い割合を占めている。鉄道以外の利用交通手段については、年齢階層が高いほど、「路線バス」と「徒歩のみ」の割合が高く、「自転車」と「自動二輪、原付バイク」の割合が低くなる傾向がある。

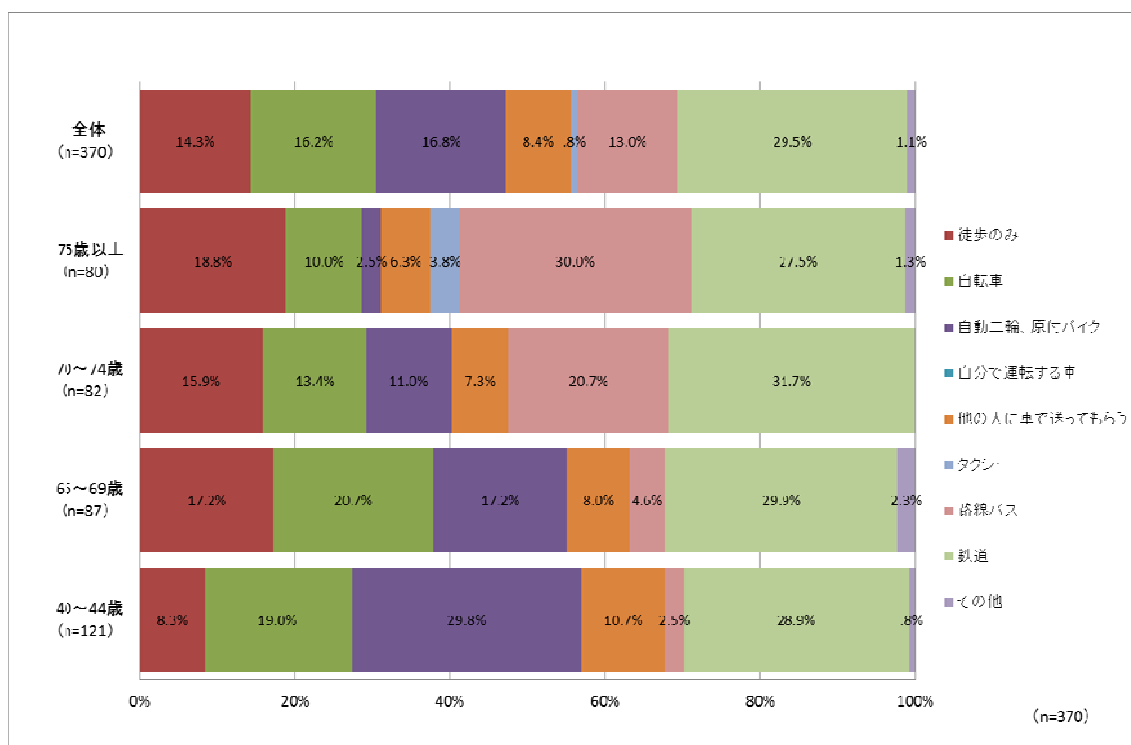


図 2-4a (D) 食料品・日用品以外の買い物：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品以外の買い物に行く際の片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「15分未満」(36.8%)が最も多く、以下、「15分以上30分未満」(32.5%)、「30分以上45分未満」(28.1%)の順になっている。

一方、高齢者については、「65～69歳」と「75歳以上」の階層では、「15分以上30分未満」と回答した人の割合(それぞれ38.8%、31.3%)が「15分未満」と回答した人の割合(それぞれ33.8%、20.9%)を上回っている。

片道所要時間が45分以上と回答した人の割合は、「40～44歳」で2.6%、「65～69歳」で6.3%、「70～74歳」で15.9%、「75歳以上」で19.4%となっており、年齢階層が上がるほど、所要時間が長くなっている。

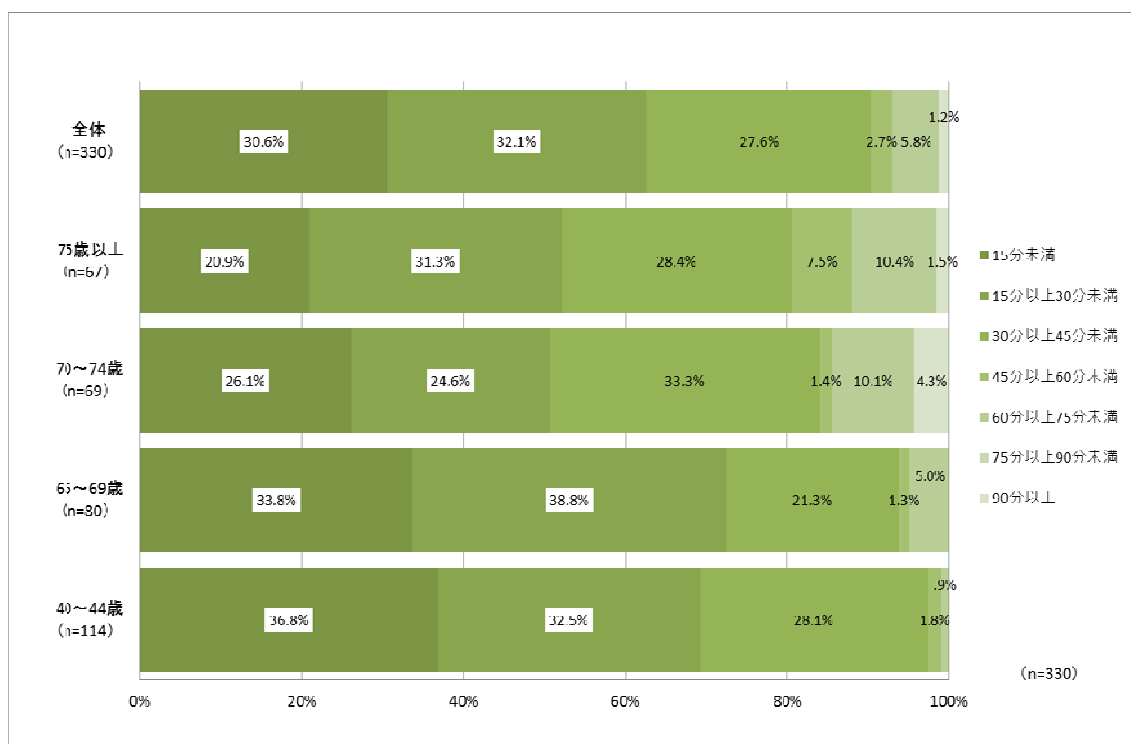


図 2-4b (D) 食料品・日用品以外の買い物：片道所要時間の割合 (単数回答)

(ウ) 同行者—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品以外の買い物に出かける際の同行者をみると、「40～44歳」は「同居家族と」が約5割（49.6%）と最も多く、「一人で」の45.4%がこれに次ぐ。一方、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」は、「一人で」の割合がそれぞれ57.3%、68.0%、73.9%と「40～44歳」よりも高く、年齢の高い階層ほど割合が高くなっている。2番目に多い「同居家族と」の割合は、それぞれ36.6%、26.7%、21.7%であり、年齢の高い階層ほど割合が低くなっている。

年齢階層が上がるにつれて、「同居家族と」よりは「一人で」買い物に行く割合が高くなる傾向がある。

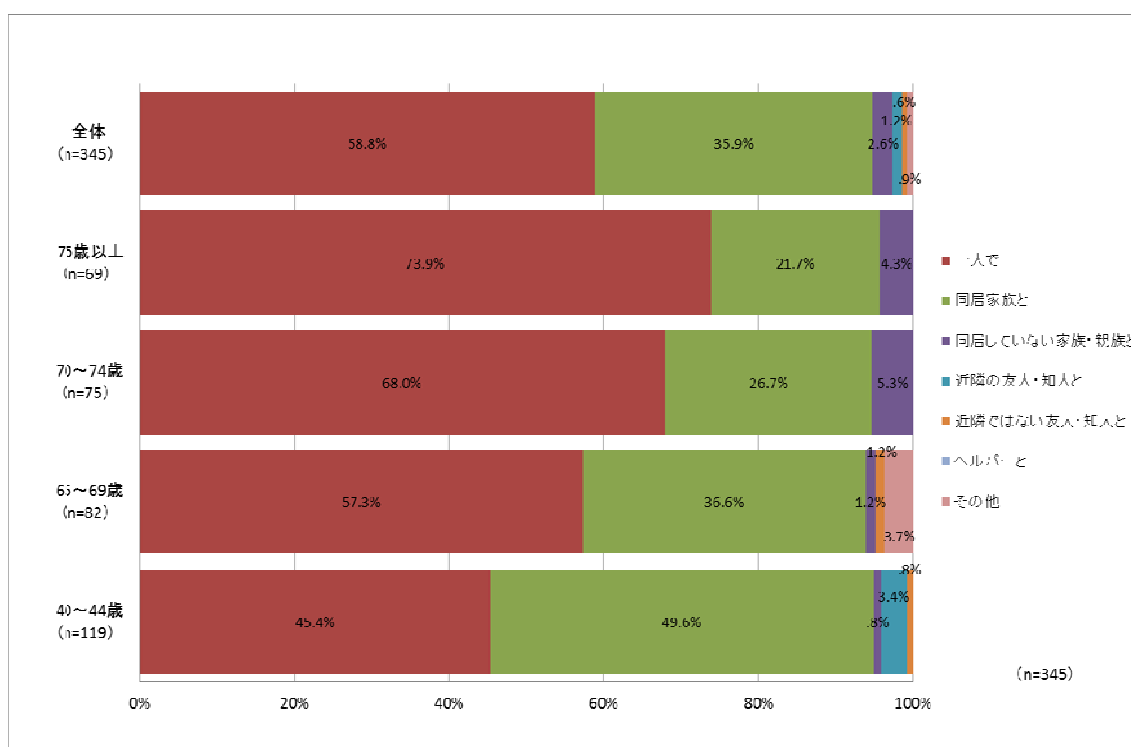


図 2-4c (D) 食料品・日用品以外の買い物：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品以外の買い物の頻度をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「月1～2日」が41.3%で最も多く、次いで「週1～2日」が38.0%となっており、週2日以下が合計9割程度（91.7%）を占めている。

高齢者の「65～69歳」では、「月1日未満」が31.6%で最も多く、「週1～2日」（30.4%）、「月1～2日」（27.8%）がそれに次ぐ。また、「70～74歳」と「75歳以上」の階層では、「月1～2日」（それぞれ33.8%、31.9%）、「月1日未満」（それぞれ32.4%、29.2%）の順になっている。「40～44歳」の階層より小さいが、週2日以下が8割以上（「65～69歳」89.9%、「70～74歳」83.8%、「75歳以上」81.9%）を占めている。

しかし週3日以上と回答した人の割合をみると、「40～44歳」で8.3%、「65～69歳」で10.2%、「70～74歳」で16.2%、「75歳以上」で18.0%となっており、年齢階層が上がるほど外出頻度が高くなっている。

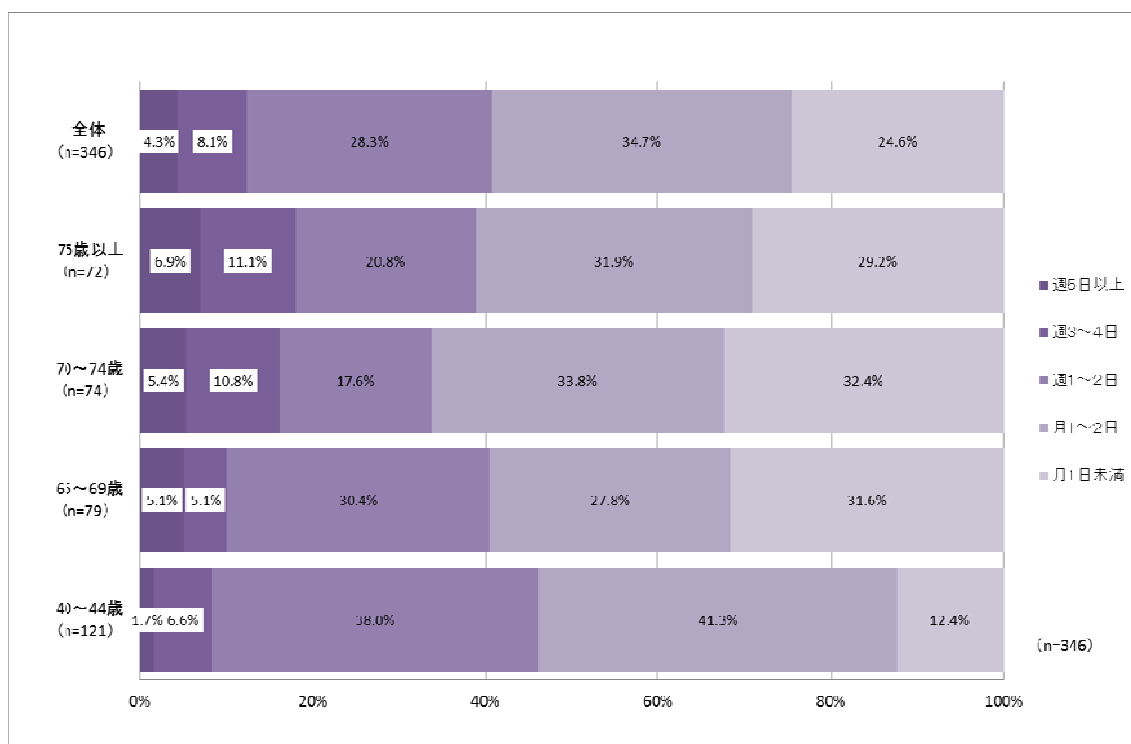


図 2-4d (D) 食料品・日用品以外の買い物：外出頻度の割合（単数回答）

(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q23-（E）〕

(ア) 利用交通手段—集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老人福祉センターなど）に外出する際に利用する交通手段は、全ての階層で「徒歩のみ」の割合が最も高くなっている。その割合は、「40～44歳」（50.6%）と高齢者の「65～69歳」（48.1%）で約5割だが、年齢階層の高い「70～74歳」（55.7%）と「75歳以上」（59.2%）ではこれよりも高くなり、75歳以上では約6割を占めている。

全ての階層で2番目に割合が高いのは「自転車」である。その割合は、「40～44歳」（42.4%）と高齢者の「65～69歳」（40.4%）で約4割だが、年齢階層の高い「70～74歳」では34.4%に減少し、「75歳以上」では22.4%とさらに低くなっている。「徒歩のみ」と「自転車」を合わせた割合は、全年齢階層で8割以上（「40～44歳」92.9%、「65～69歳」88.5%、「70～74歳」90.2%、「75歳以上」81.6%）と高くなっている。

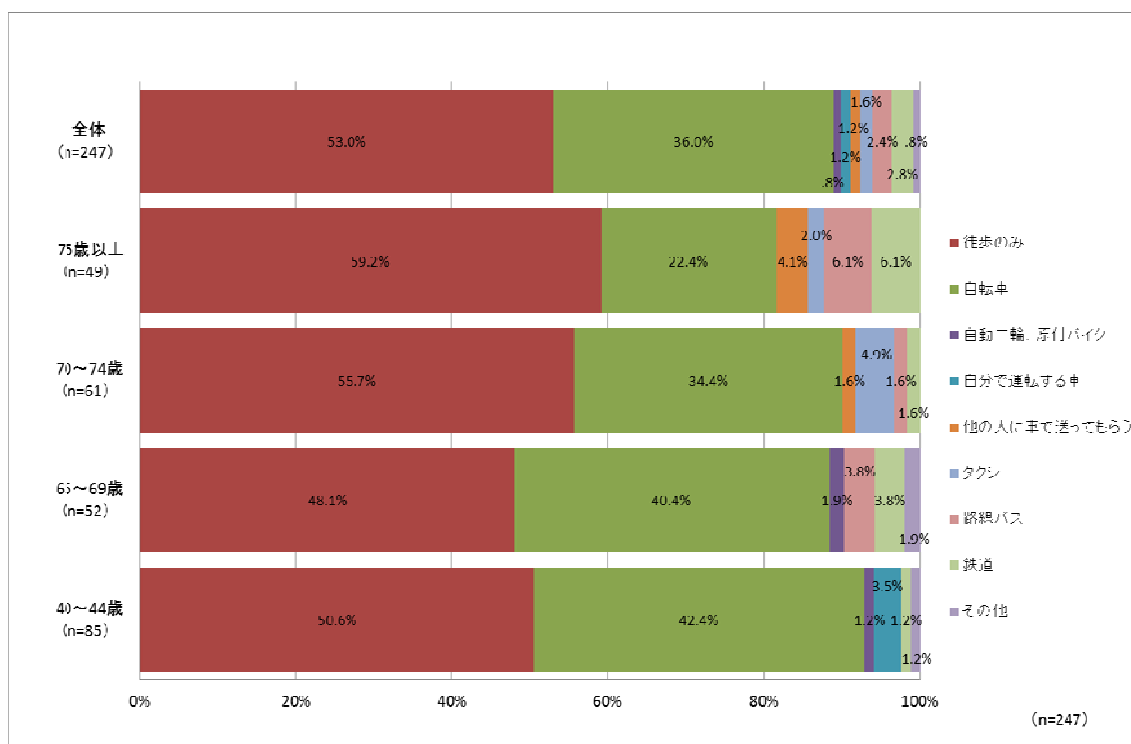


図 2-5a (E) 集会施設：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老人福祉センターなど）に行くのにかかる片道所要時間は、全ての階層で「15分未満」が最も多く（「40～44歳」で81.7%、「65～69歳」で79.2%、「70～74歳」で56.9%、「75歳以上」で60.5%）、「15分以上30分未満」がこれに次ぐ（それぞれ17.1%、14.6%、39.2%、32.6%）。

年齢の高い階層ほど、「15分未満」の割合は低くなるのに対し、「15分以上30分未満」の割合は高くなっている。すなわち、年齢階層が上がるにつれて、集会施設に行くのにかかる時間が長くなる傾向がある。

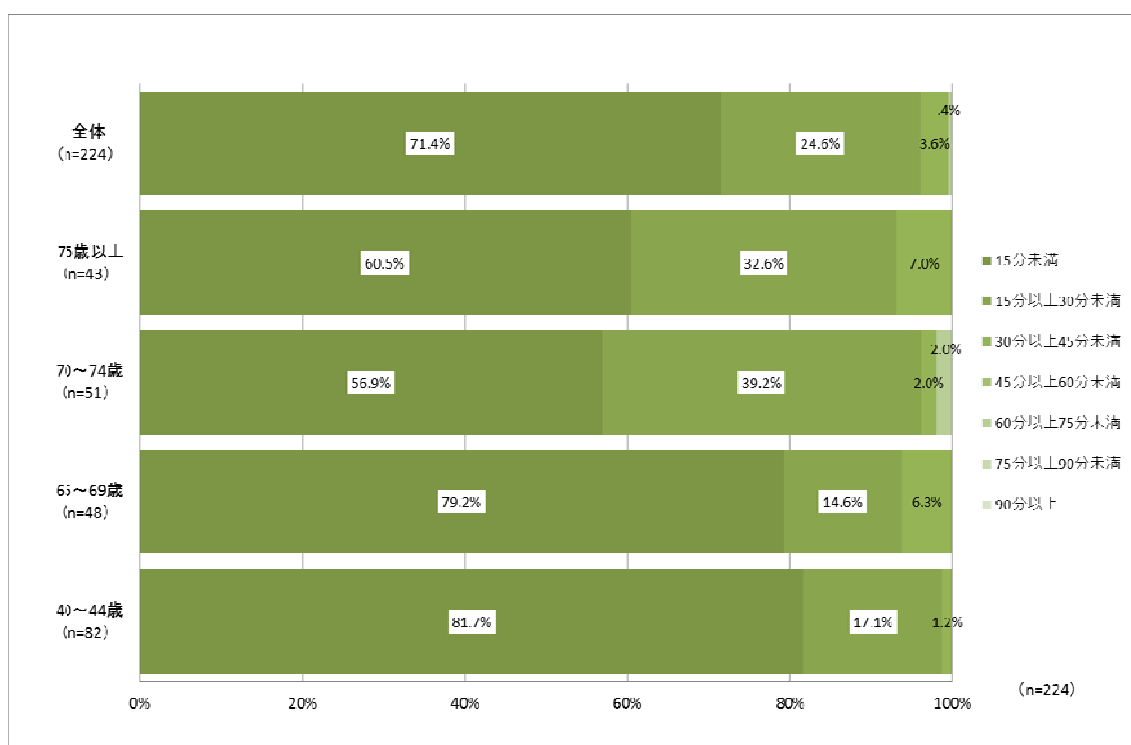


図 2-5b (E) 集会施設：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者－集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老親福祉センターなど）に行く際の同行者をみると、「一人で」の割合がいずれの年齢階層でも圧倒的に高いが、「40～44歳」では約7割（70.5%）であるのに対し、高齢者では「65～69歳」で80.4%、「70～74歳」で78.3%、「75歳以上」で80.9%と約8割も占めている。

次に割合が高いのは、「40～44歳」と「65～69歳」の階層では「同居家族と」（それぞれ19.3%、9.8%）だが、「70～74歳」と「75歳以上」の階層では、「近隣の友人・知人と」（それぞれ8.3%、8.5%）である。年齢階層が上がるにつれて「近隣の友人・知人と」の割合が高くなる傾向が見られる。

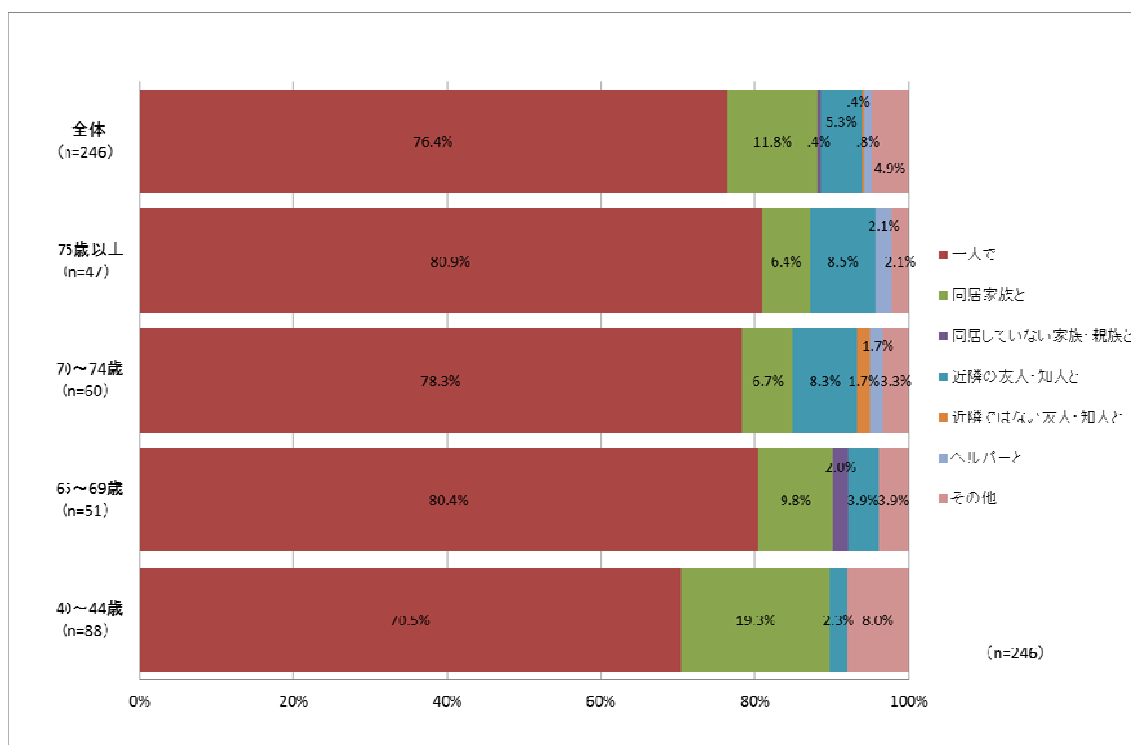


図 2-5c (E) 集会施設：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老人福祉センターなど）に外出する頻度は、「月1日未満」がいずれの年齢階層でも最も高い割合を占める。その割合は、「40～44歳」で8割以上（86.8%）と非常に高い一方で、「65～69歳」で56.1%、「70～74歳」で42.0%、「75歳以上」で48.9%と、高齢者の階層では低くなっている。次に割合が高いのは「月1～2日」である。その割合は、「40～44歳」で8.8%であるのに対し、「65～69歳」で19.5%、「70～74歳」で28.0%、「75歳以上」で24.4%と、高齢者の階層では「40～44歳」の階層の2倍以上になっている。

頻度が週1日以上（週1～2日、週3～4日、週5日以上）の割合は、「40～44歳」の階層では4.4%と低いが、「65～69歳」で26.8%、「70～74歳」で34.0%、「75歳以上」で26.7%と、高齢者の階層では3割前後を占めている。

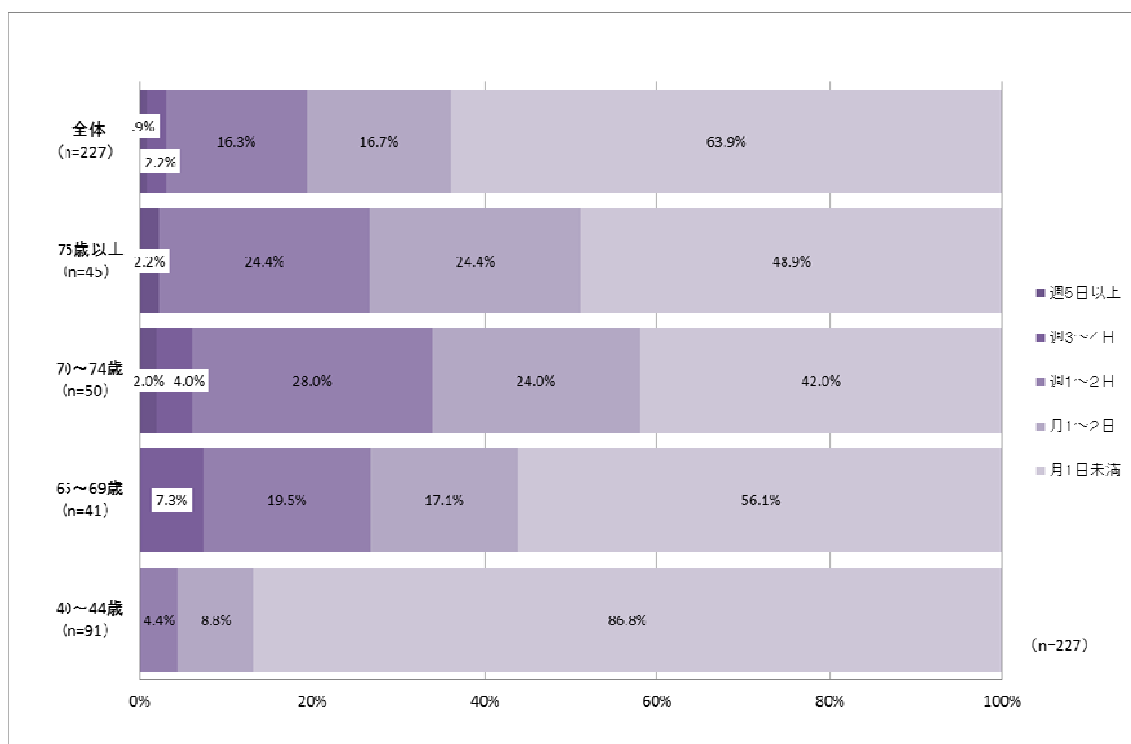


図 2-5d (E) 集会施設：外出頻度の割合（単数回答）

(6) 市役所等の公的機関〔Q23- (F)〕

(ア) 利用交通手段—市役所等の公的機関

市役所等に外出する際に利用する交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自転車」(44.2%)、「徒歩のみ」(24.2%)、「自分で運転する車」(12.5%)、「鉄道」(11.7%)の順になっている。

一方、「65～69歳」では、「自転車」(32.6%)、「徒歩のみ」(30.3%)、「路線バス」と「鉄道」(それぞれ11.2%)、「自分で運転する車」(10.1%)の順になっている。また「70～74歳」では、「徒歩のみ」(40.2%)、「自転車」(30.5%)、「路線バス」(14.6%)の順になっている。さらに「75歳以上」では、「徒歩のみ」(37.0%)、「路線バス」(25.9%)、「鉄道」(14.8%)、「自転車」(12.3%)の順になっている。

「徒歩のみ」と答えた人の割合は、「40～44歳」で24.2%、「65～69歳」で30.3%、「70～74歳」で40.2%、「75歳以上」で37.0%であり、年齢の高い階層ほど割合が高くなっている。「路線バス」(それぞれ5.8%、11.2%、14.6%、25.9%)、「他の人に車で送ってもらう」(0.8%、2.2%、2.4%、2.5%)、「タクシー」(0.0%、1.1%、1.2%、4.9%)についても同様のことが言える。その一方、「自転車」(それぞれ44.2%、32.6%、30.5%、12.3%)、「自分で運転する車」(12.5%、10.1%、4.9%、1.2%)の割合は、年齢の高い階層ほど低くなる傾向がある。

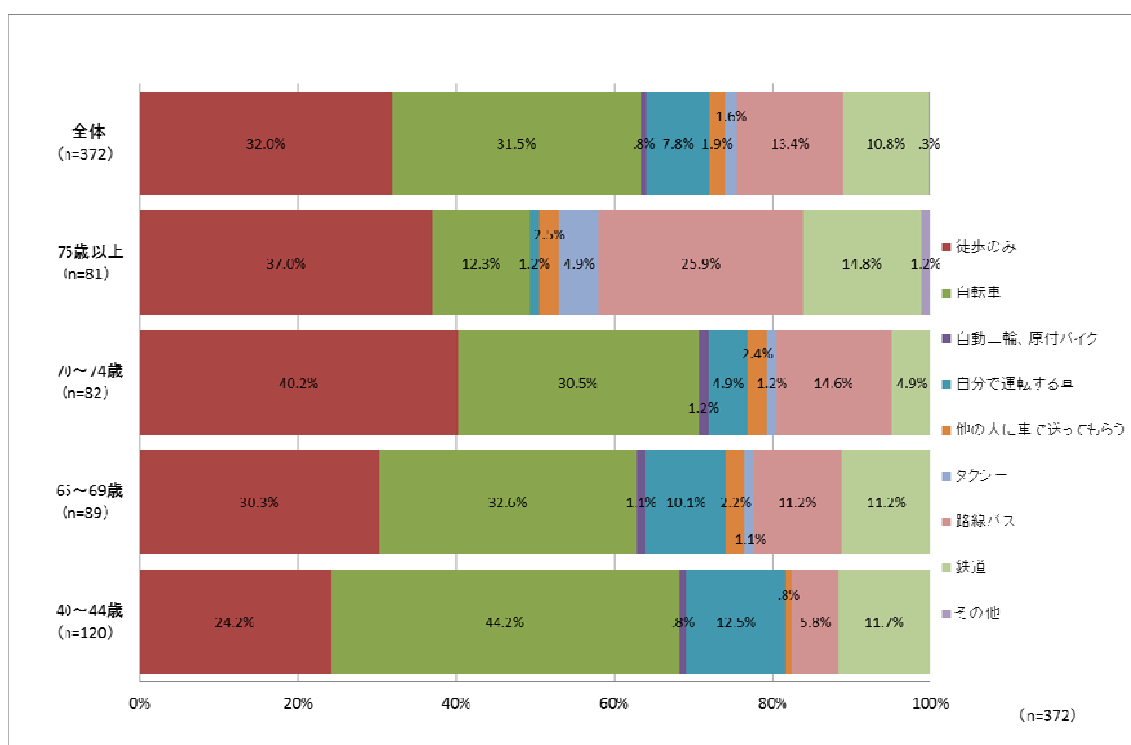


図 2-6a (F) 市役所等の公的機関：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—市役所等の公的機関

市役所等の公的機関へ行くのにかかる片道所要時間は、全ての階層で「15分未満」が最も多く、「40～44歳」で47.8%、「65～69歳」で53.7%、「70～74歳」で50.0%、「75歳以上」で37.1%となっている。次に多いのは「15分以上30分未満」であり、それぞれ46.0%、28.0%、33.3%、40.0%となっている。これらを合わせて所要時間が30分未満と回答した人の割合を計算すると、「40～44歳」で93.8%、「65～69歳」で81.7%、「70～74歳」で83.3%、「75歳以上」で77.1%になり、全体の7割を超える。

片道所要時間が30分以上と回答した人の割合は、「40～44歳」で6.2%、「65～69歳」で18.3%、「70～74歳」で16.7%、「75歳以上」で22.9%であり、公的機関へ行くのにかかる時間は、「40～44歳」に比べて、高齢者の方が若干長い傾向が見られる。

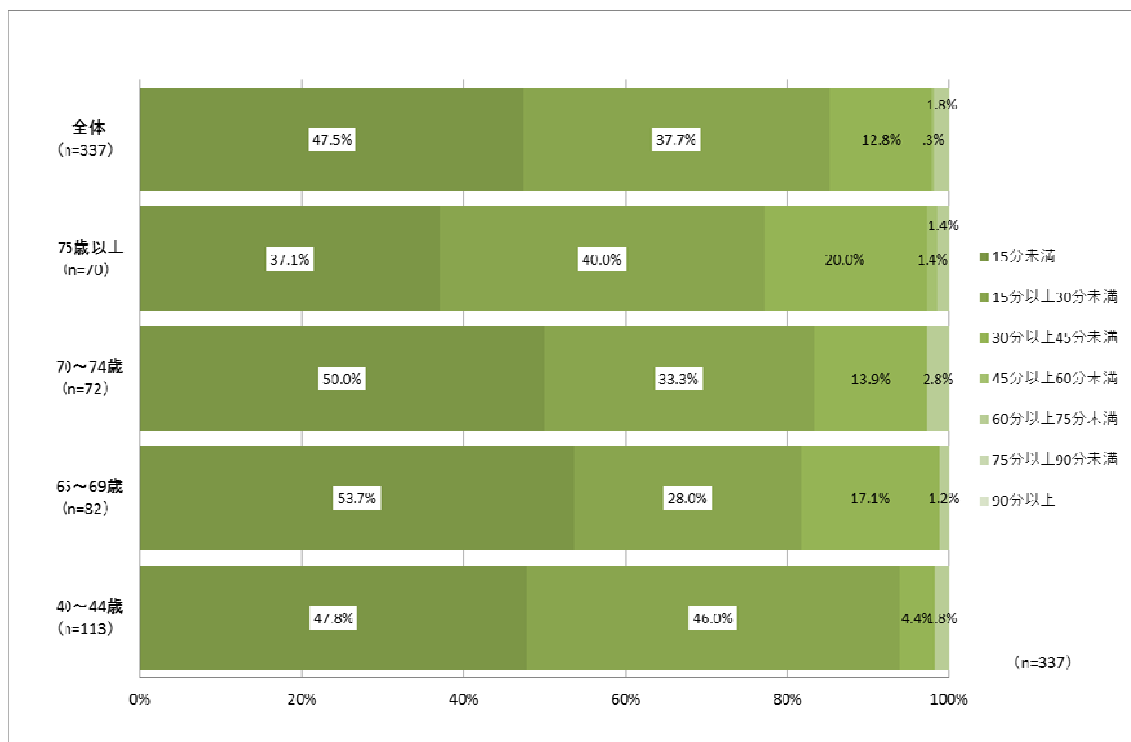


図 2-6b (F) 市役所等の公的機関：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—市役所等の公的機関

市役所等の公的機関へ行く際の同行者をみると、全ての階層で「一人で」が圧倒的に高く、「40～44歳」で87.8%、「65～69歳」で90.1%、「70～74歳」で85.5%、「75歳以上」で84.1%となっている。次に多いのは「同居家族と」であり、それぞれ12.2%、9.9%、11.8%、11.6%となっている。

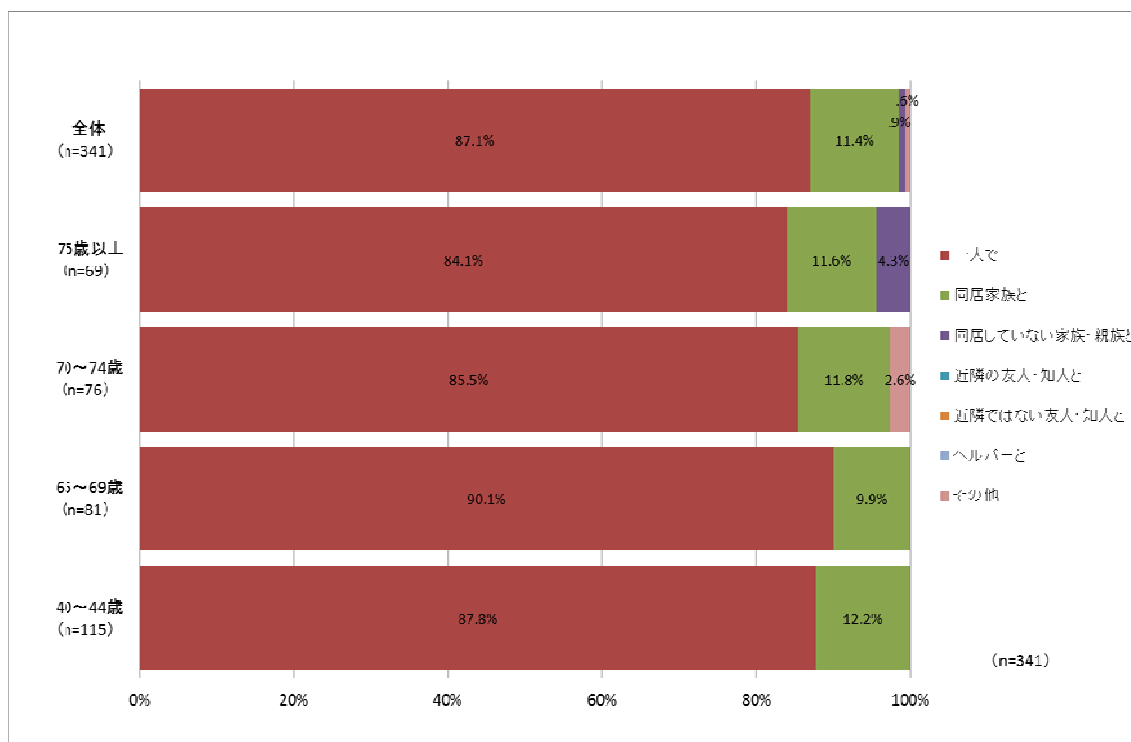


図 2-6c (F) 市役所等の公的機関：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—市役所等の公的機関

市役所等の公的機関への外出頻度は、全ての階層で「月 1 日未満」が圧倒的に多く、「40～44 歳」で 93.0%、「65～69 歳」で 85.1%、「70～74 歳」で 85.5%、「75 歳以上」で 85.9% となっている。次に多いのは「月 1～2 日」であり、それぞれ 6.1%、9.0%、9.7%、9.9% となっている。

外出頻度が週 1 日以上である回答者の割合をみると、「40～44 歳」では 0.9%と非常に少ないが、高齢者では「65～69 歳」で 6.0%、「70～74 歳」で 4.8%、「75 歳以上」で 4.2%となっている。構成比率こそ小さいものの、高齢者グループの方が、公的機関への外出頻度が若干高くなっている。

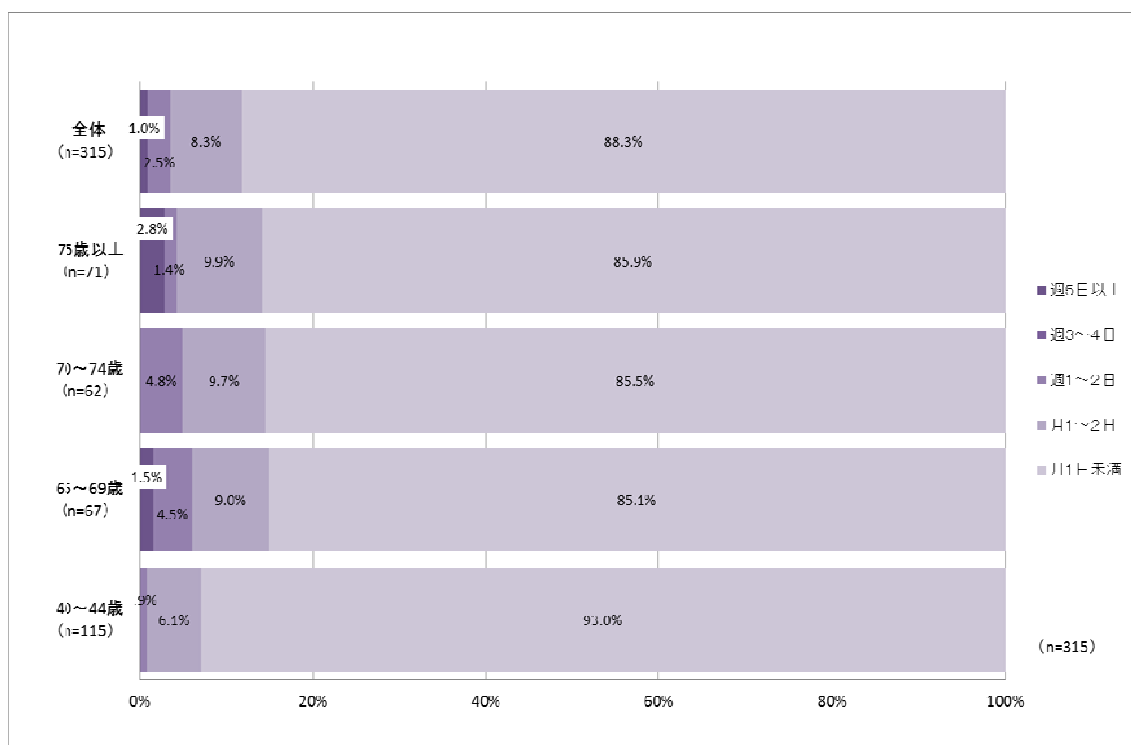


図 2-6d (F) 市役所等の公的機関：外出頻度の割合（単数回答）

(7) 銀行、郵便局 [Q23- (G)]

(ア) 利用交通手段—銀行、郵便局

銀行、郵便局を訪れる際の利用交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「徒歩のみ」が49.2%と最も多く、次いで「自転車」が44.2%となっているが、その割合の差は小さい。これら2つの手段で全体の9割以上(93.3%)を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70歳～74歳」、「75歳以上」の階層でも、「徒歩のみ」がそれぞれ59.1%、75.9%、61.5%と最も多く、次いで「自転車」が31.2%、19.5%、17.6%となっている。これら2つの手段で全体の約8割以上(90.3%、95.4%、79.1%)を占めている。

いずれの年齢階層でも「徒歩のみ」と「自転車」の合計は高いが、年齢の高い階層ほど、「徒歩のみ」の割合が高くなり、「自転車」の割合が低くなる傾向が見られる。また、「路線バス」の割合は、高齢になるほど高くなり、「75歳以上」の階層で顕著に多くなっている(「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の順に0.8%、2.2%、2.3%、14.3%)。

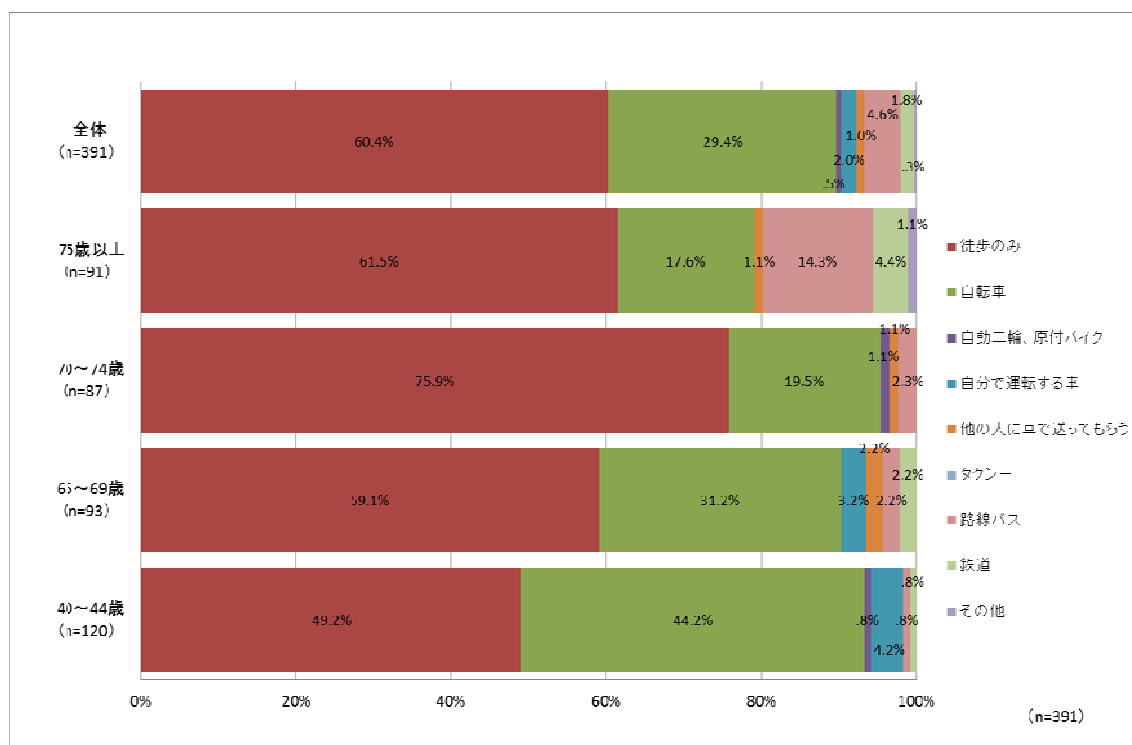


図 2-7a (G) 銀行、郵便局：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—銀行、郵便局

銀行、郵便局へ行くのにかかる片道所要時間は、全ての階層で「15分未満」が圧倒的に多く、「40～44歳」で88.0%、「65～69歳」で84.7%、「70～74歳」で81.8%、「75歳以上」72.5%となっており、次いで「15分以上30分未満」が多くなっている（それぞれ10.3%、14.1%、10.4%、21.3%）。30分未満であると回答した人の割合は、全体の9割以上（98.3%、98.8%、92.2%、93.8%）を占めている。

高齢者グループでは、「15分以上30分未満」の割合が「40～44歳」の階層より高く、また「30分以上～45分未満」の割合は年齢の高い階層ほど高くなっており（「40～44歳」0.9%、「65～69歳」1.2%、「70～74歳」6.5%、「75歳以上」5.0%）、非高齢者より高齢者の方が銀行、郵便局へ行くのに長い時間をかけている傾向がある。

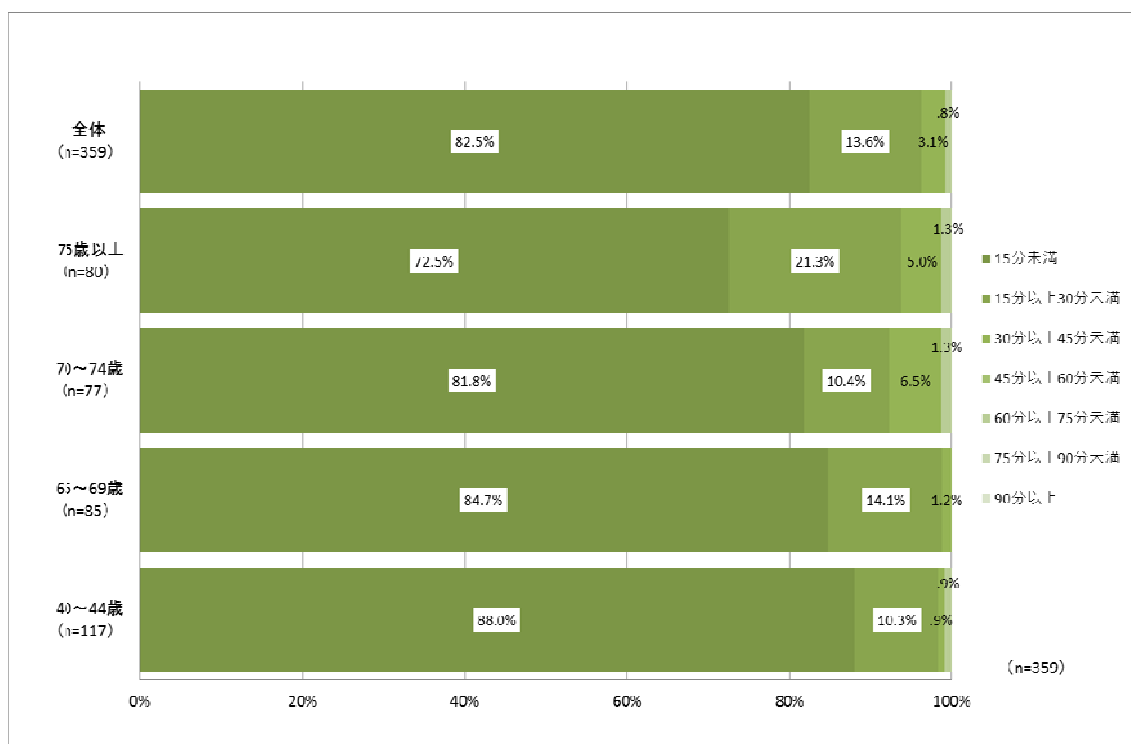


図 2-7b (G) 銀行、郵便局：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—銀行、郵便局

銀行、郵便局へ行く際の同行者をみると、全ての階層で「一人で」が「40～44歳」で94.9%、「65～69歳」で95.1%、「70～74歳」で96.1%、「75歳以上」で87.3%となっており、圧倒的に多くなっている。次いで「同居家族と」がそれぞれ5.1%、3.7%、2.6%、11.4%で高くなっている。

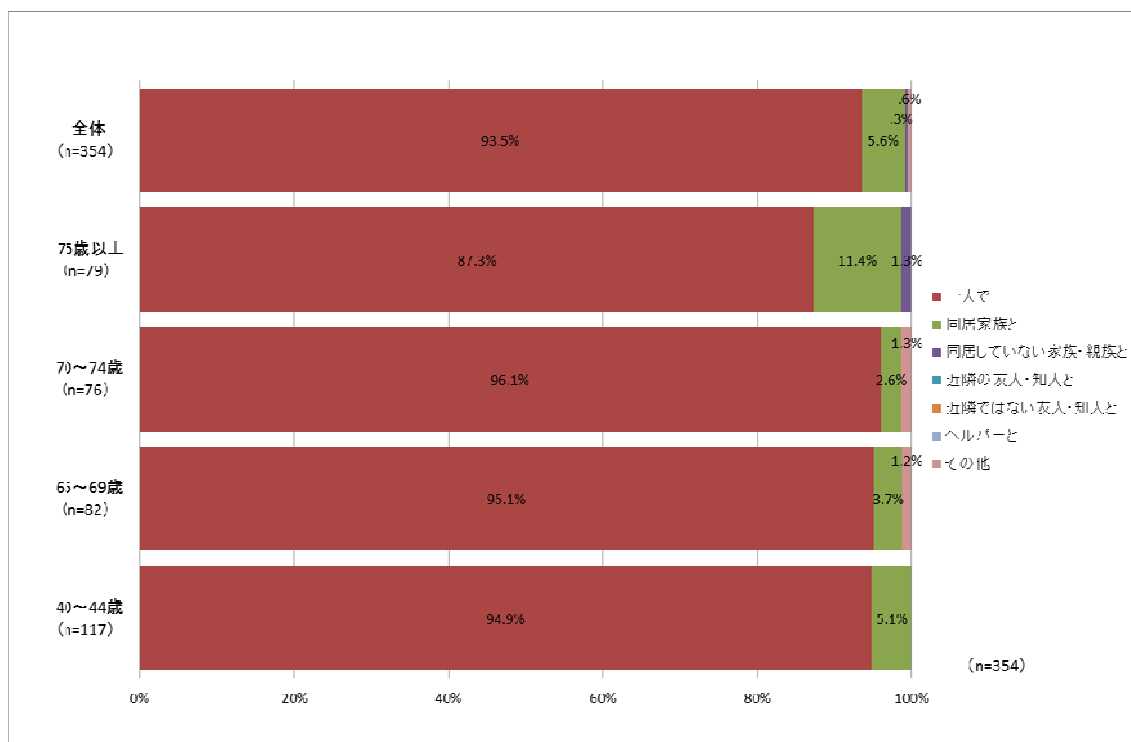


図 2-7c (G) 銀行、郵便局：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—銀行、郵便局

銀行、郵便局へ行く頻度をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「月1～2日」が49.6%で最も多く、以下、「週1～2日」(28.6%)、「月1日未満」(18.5%)の順になっている。これら3つを合わせると全体の9割以上(96.6%)になる。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「月1～2日」が最も多く(それぞれ57.0%、51.9%、55.4%)、以下、「月1日未満」(22.8%、27.3%、28.9%)、「週1～2日」(17.7%、19.5%、9.6%)の順になっている。これら3つを合わせると、「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、全体の9割(90.3%、95.4%)を超えている。また、「75歳以上」の階層でも8割程度(79.1%)と高い割合を占めている。

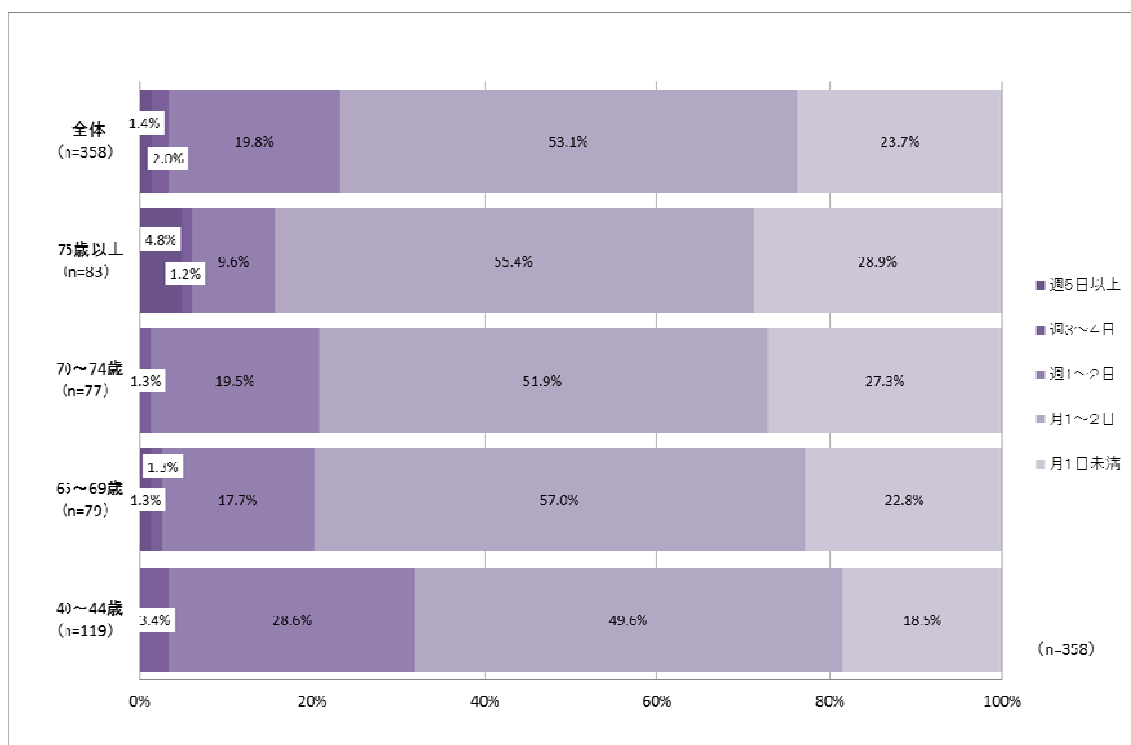


図 2-7d (G) 銀行、郵便局：外出頻度の割合 (単数回答)

(8) 友人・知人などの家〔Q23- (H)〕

(ア) 利用交通手段—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れる際に利用する交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「鉄道」(34.3%)、「自転車」(32.4%)、「徒歩のみ」(16.7%)、「自分で運転する車」(13.9%)の順になっている。

一方、高齢者である「65～69歳」の階層では、「徒歩のみ」(31.4%)、「鉄道」(25.7%)、「自転車」(24.3%)、「自分で運転する車」(10.0%)の順になっている。また「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」(45.9%)、「鉄道」(21.6%)、「自転車」(20.3%)の順になっている。さらに「75歳以上」の階層では、「徒歩のみ」(49.3%)、「鉄道」(17.4%)、「自転車」と「路線バス」(それぞれ13.0%)の順になっている。

年齢の高い階層ほど、「徒歩のみ」(「40～44歳」で16.7%、「65～69歳」で31.4%、「70～74歳」で45.9%、「75歳以上」で49.3%)と「路線バス」(年齢階層の若い順に0.9%、2.9%、6.8%、13.0%)の割合が高い一方で、「自転車」(32.4%、24.3%、20.3%、13.0%)、「鉄道」(34.3%、25.7%、21.6%、17.4%)、「自分で運転する車」(13.9%、10.0%、0.0%、1.4%)の割合が低い傾向がある。

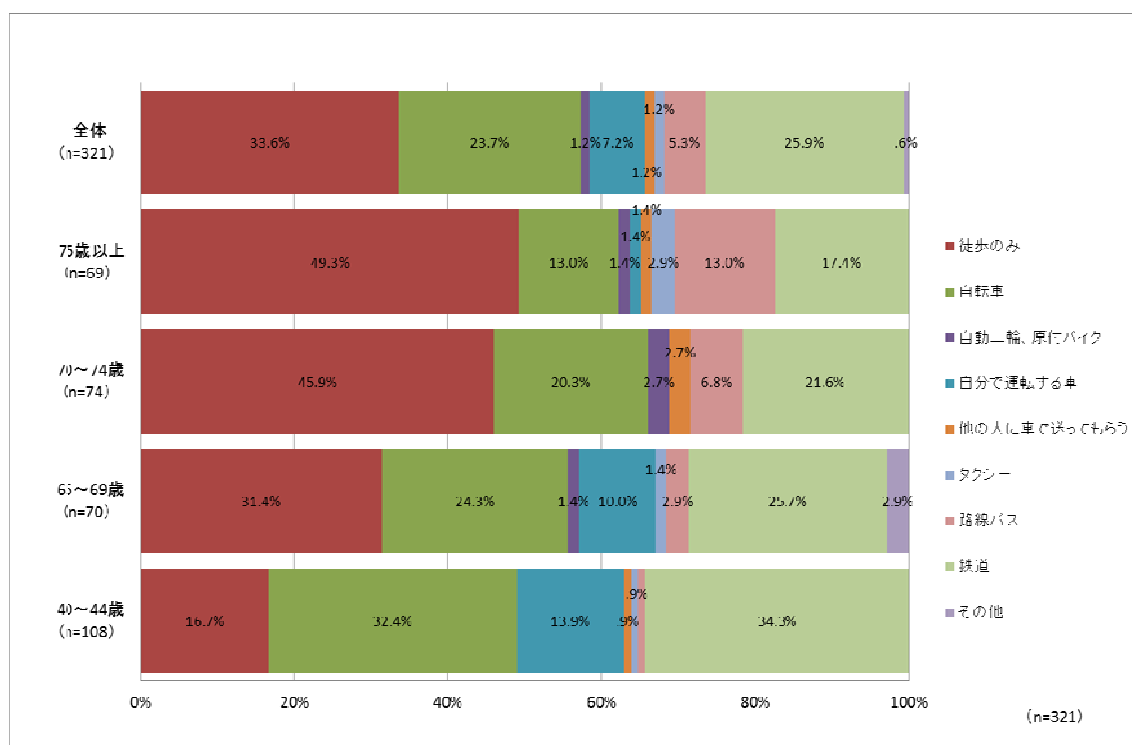


図 2-8a (H) 友人・知人などの家：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れるのにかかる片道所要時間は、「15分未満」の割合がいずれの年齢階層でも最も高く、「40～44歳」で43.1%、「65～69歳」で48.3%、「70～74歳」で38.3%、「75歳以上」で34.5%となっている。

所要時間が30分未満であると回答した者の割合は、「40～44歳」(54.9%)より高齢者グループの方が若干高い(「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の順に62.1%、55.0%、63.8%)。

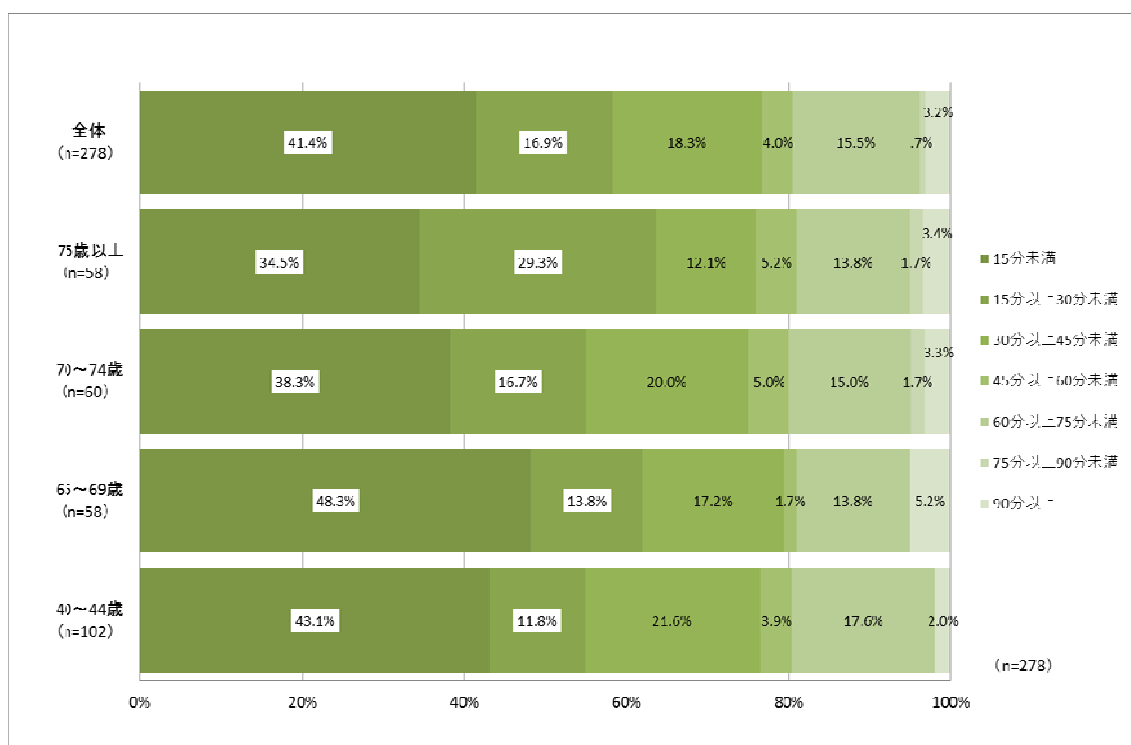


図 2-8b (H) 友人・知人などの家：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れる際の同行者をみると、「一人で」が「40～44 歳」では約 7 割（68.2%）と高い割合を占めているが、高齢者ではさらに高く、「65～69 歳」で 86.7%、「70～74 歳」で 79.4%、「75 歳以上」で 85.7%となっている。次いで「同居家族と」の割合が高く、「40～44 歳」では約 3 割（29.9%）である。高齢者はこれよりも割合が低く、「65～69 歳」で 11.7%、「70～74 歳」で 13.2%、「75 歳以上」で 7.9%となっており、年齢階層が上がるにつれて低くなっている。

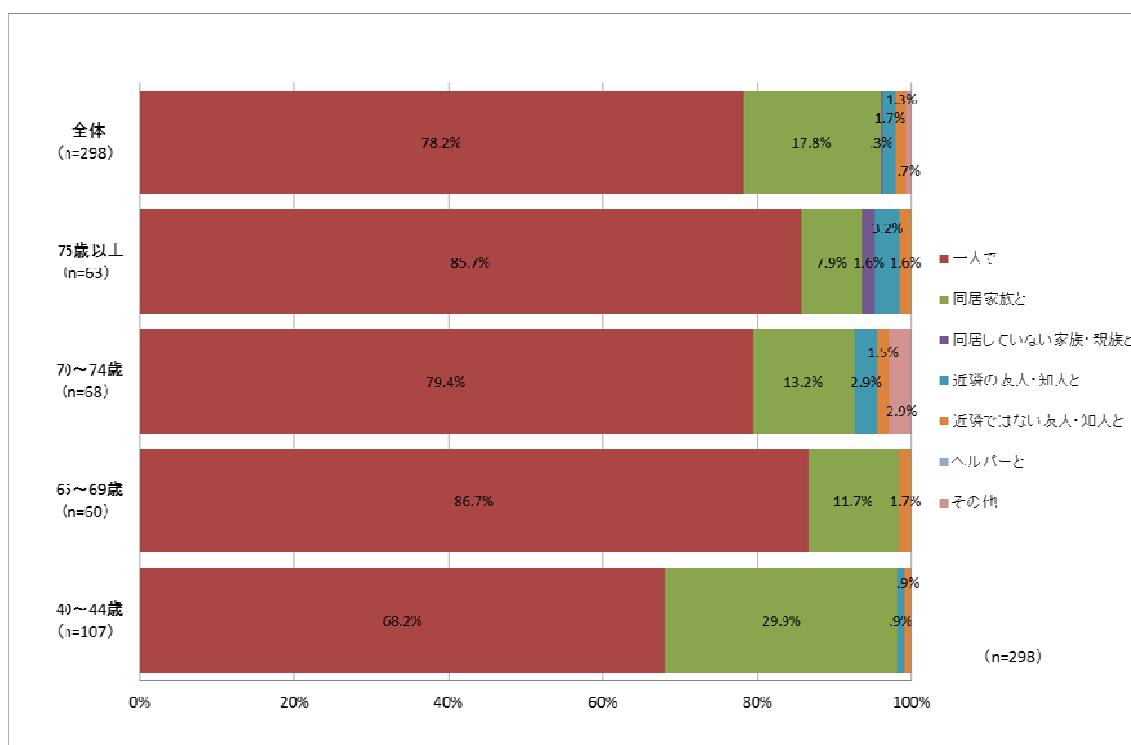


図 2-8c (H) 友人・知人などの家：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れる頻度は、いずれの年齢階層でも「月 1 日未満」の割合が最も高いが、年齢階層により差がみられる。「40～44 歳」(63.3%) と高齢者の「65～69 歳」(60.0%) では約 6 割を占めるが、「70～74 歳」(49.2%) と「75 歳以上」(46.2%) では約 5 割しかない。次いで「月 1～2 日」が「40～44 歳」で 26.6%、「65～69 歳」で 21.8%、「70～74 歳」で 30.8%、「75 歳以上」で 24.6%となっている。

頻度が週 1 日以上である割合をみると、年齢階層順に 10.1%、18.2%、20.0%、29.2%となっており、年齢階層が上がるほど、外出頻度は高くなっている。

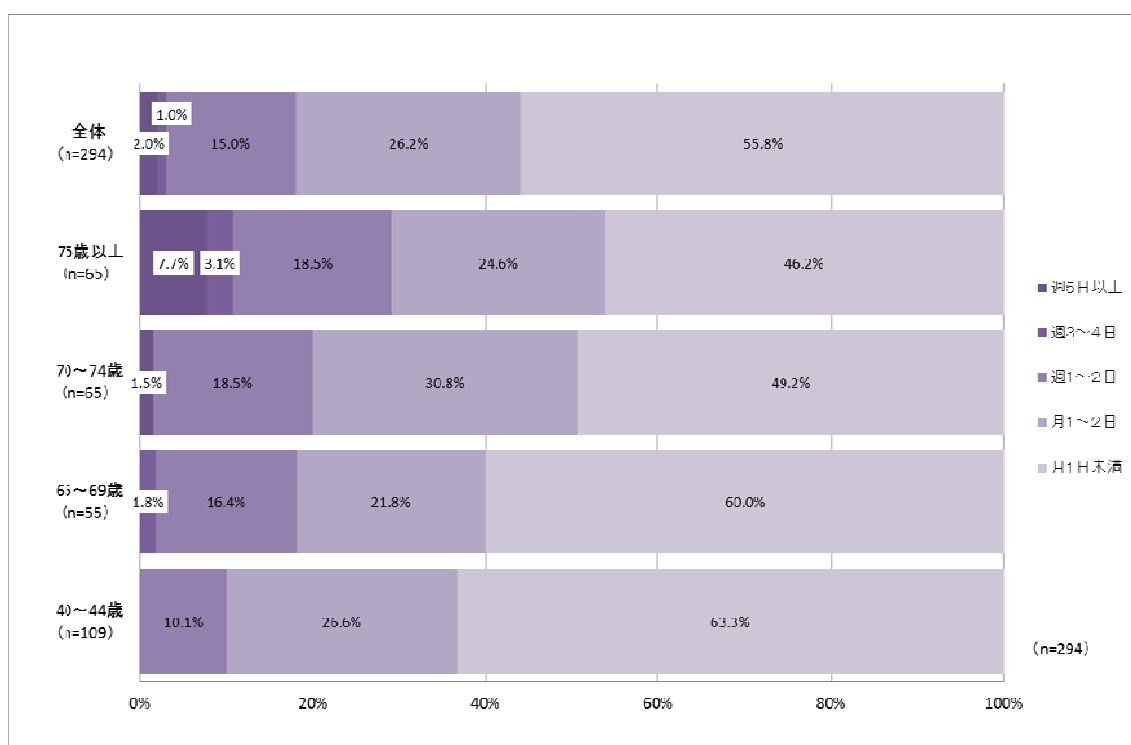


図 2-8d (H) 友人・知人などの家：外出頻度の割合 (単数回答)

(9) 散歩、散策 [Q23- (I)]

(ア) 利用交通手段—散歩、散策

散歩、散策に出かける際に利用する交通手段は、「徒歩のみ」がいずれの年齢階層でも高い割合を占めている。「40～44歳」では約8割(78.7%)であるのに対し、「65～69歳」で93.4%、「70～74歳」で97.4%、「75歳以上」で91.9%と、高齢者階層ではさらに高くなっている。次いで「自転車」の利用割合が高いが、「40～44歳」の方が高齢者グループより高くなっている(「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の順に19.4%、5.3%、2.6%、2.7%)。高齢になるほど、「徒歩のみ」の割合が高く、「自転車」の利用割合が低くなる傾向が見られる。

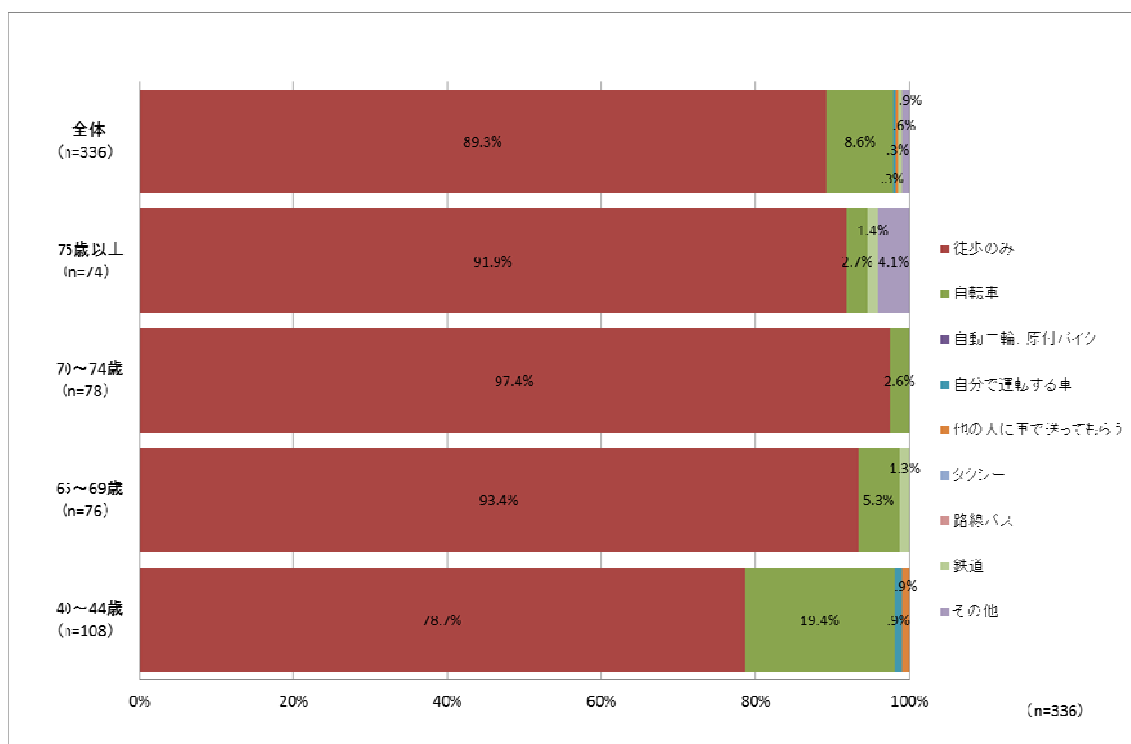


図 2-9a (I) 散歩、散策：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—散歩、散策

散歩、散策への片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44 歳」の階層では、「15 分未満」が 36.5%と最も多い。以下、「15 分以上 30 分未満」(29.2%)、「30 分以上 45 分未満」(21.9%) の順になっている。

高齢者である「65～69 歳」、「70 歳～74 歳」、「75 歳以上」の階層では、「30 分以上 45 分未満」がそれぞれ 28.4%、41.9%、36.1%と比較的高い割合を占めている。

所要時間が 45 分以上であると回答した人の割合をみると、「40～44 歳」では 12.5%と 1 割程度であるが、高齢者グループでは、「65～69 歳」で 28.4%、「70～74 歳」で 25.8%、「75 歳以上」で 21.3%と 2 割以上を占めている。高齢者の方が散歩、散策への片道所要時間が長くなる傾向が見られる。

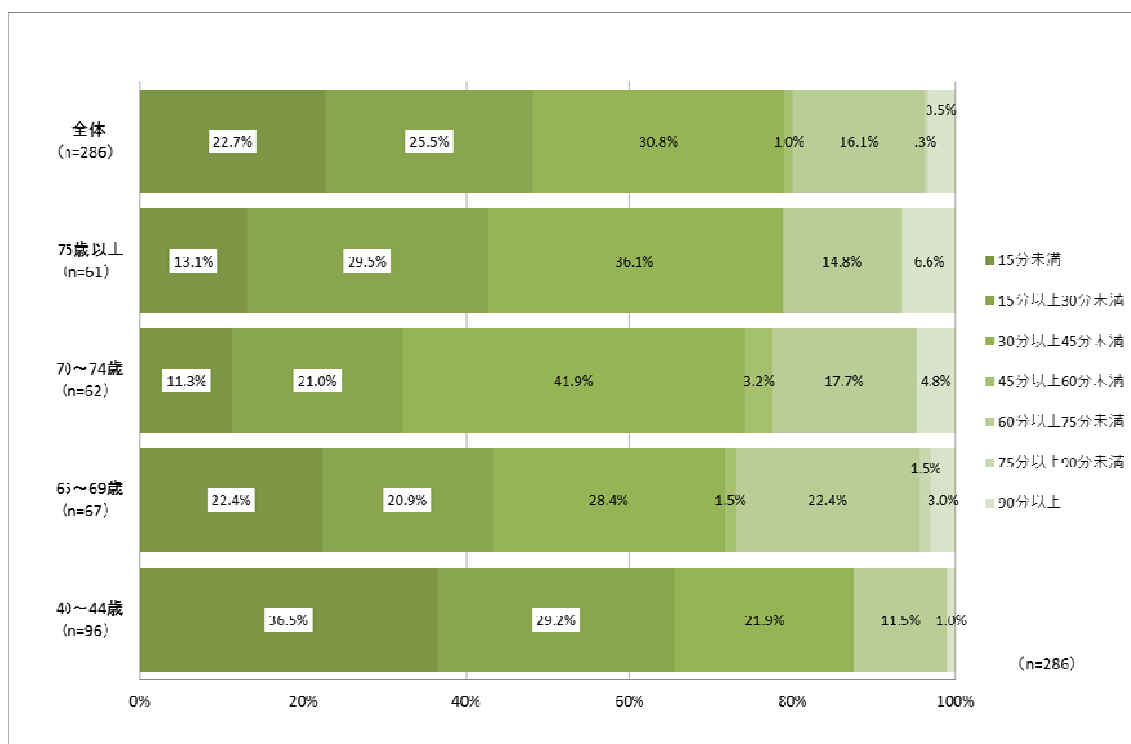


図 2-9b (I) 散歩、散策：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—散歩、散策

散歩、散策に出かける際の同行者をみると、「一人で」の割合がいずれの年齢階層でも最も多く、「40～44歳」で47.7%、「65～69歳」で70.0%、「70～74歳」で72.6%、「75歳以上」で67.2%となっている。しかし、「40～44歳」の階層ではその割合が約5割程度であるのに対し、高齢者の階層では7割前後をも占めている。次に高い割合を占めているのは、「同居家族と」（年齢階層の若い順に46.8%、28.6%、20.5%、28.4%）で、高齢者グループより「40～44歳」の方が顕著に高くなっている。ただし、「一人で」と「同居家族と」を合わせると、いずれの年齢階層でも全体の9割以上（それぞれ98.1%、98.3%、92.6%、93.7%）を占めている。

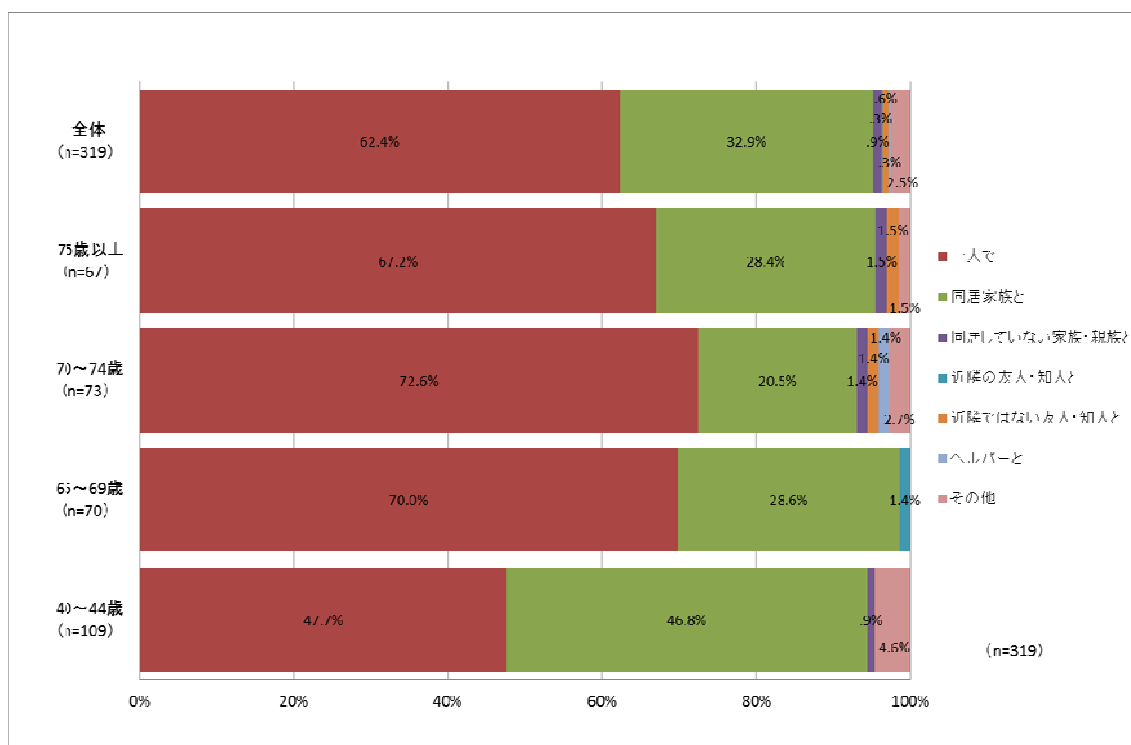


図 2-9c (I) 散歩、散策：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—散歩、散策

散歩、散策の頻度をみると、「40～44歳」では「月1日未満」が35.5%と最も多くなっている。以下、「週1～2日」(31.8%)、「月1～2日」(22.7%)の順になっている。

高齢者層に目を転じると、3つの階層ともに、「週1～2日」がそれぞれ28.2%、20.0%、18.6%で最も多くなっている。以下、「65～69歳」では、「週5日以上」(25.4%)、「月1～2日」(18.3%)と続き、「70～74歳」および「75歳以上」では、「週3～4日」(それぞれ32.9%、21.4%)、「週5日以上」(それぞれ20.0%、18.6%)と続く。

頻度が週1日以上である割合は、「40～44歳」で41.8%、高齢者の「65～69歳」で70.4%、「70～74歳」で85.7%、「75歳以上」で80.0%となっており、高齢者の方が頻度が高い。

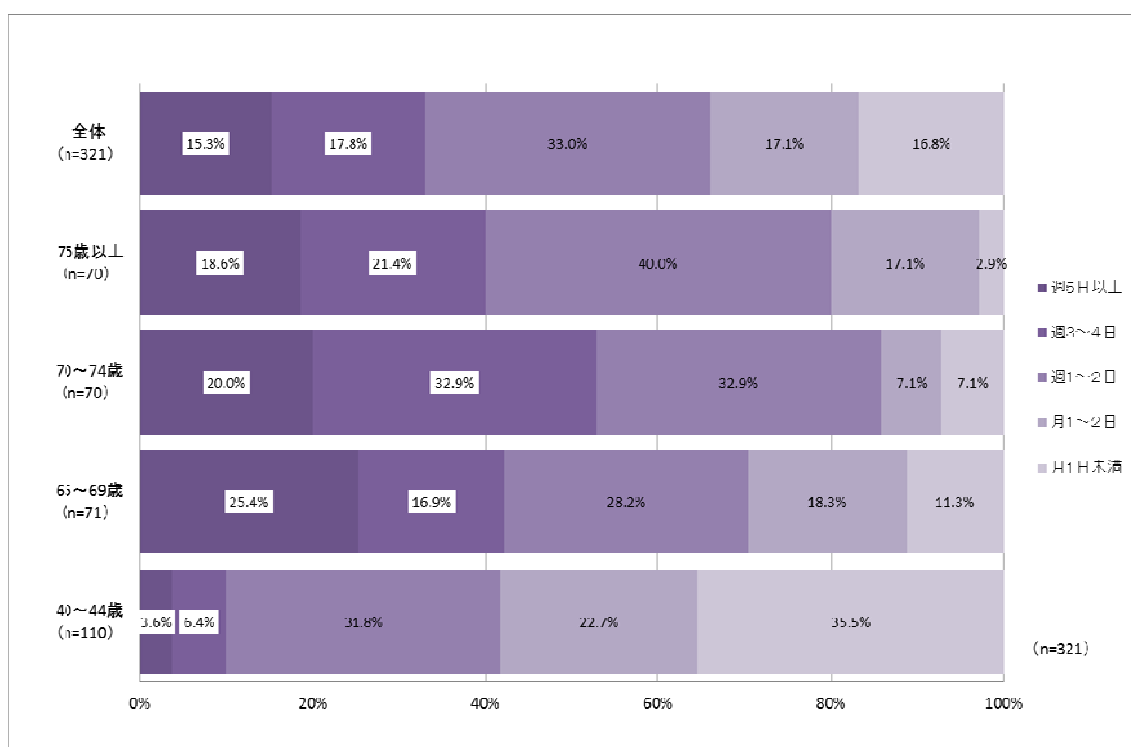


図 2-9d (I) 散歩、散策：外出頻度の割合（単数回答）

(10) 公園 [Q23- (J)]

(ア) 利用交通手段—公園

公園に行く際に利用する交通手段は、「徒歩のみ」がいずれの年齢階層でも高い割合を占めている。その割合は、「40～44歳」では約6割(61.2%)であるのに対し、「65～69歳」は84.8%、「70～74歳」は93.5%、「75歳以上」は88.9%と、高齢者の階層では非常に高くなっている。次いで「自転車」の割合が高いが、「40～44歳」(30.1%)よりも高齢者グループの方が低く、年齢階層が高くなるにつれて割合が下がっている(「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」でそれぞれ13.6%、4.8%、3.7%)。「徒歩のみ」と「自転車」を合計すると、全年齢階層で9割以上(年齢階層の若い順に91.3%、98.5%、98.4%、92.6%)を占めている。

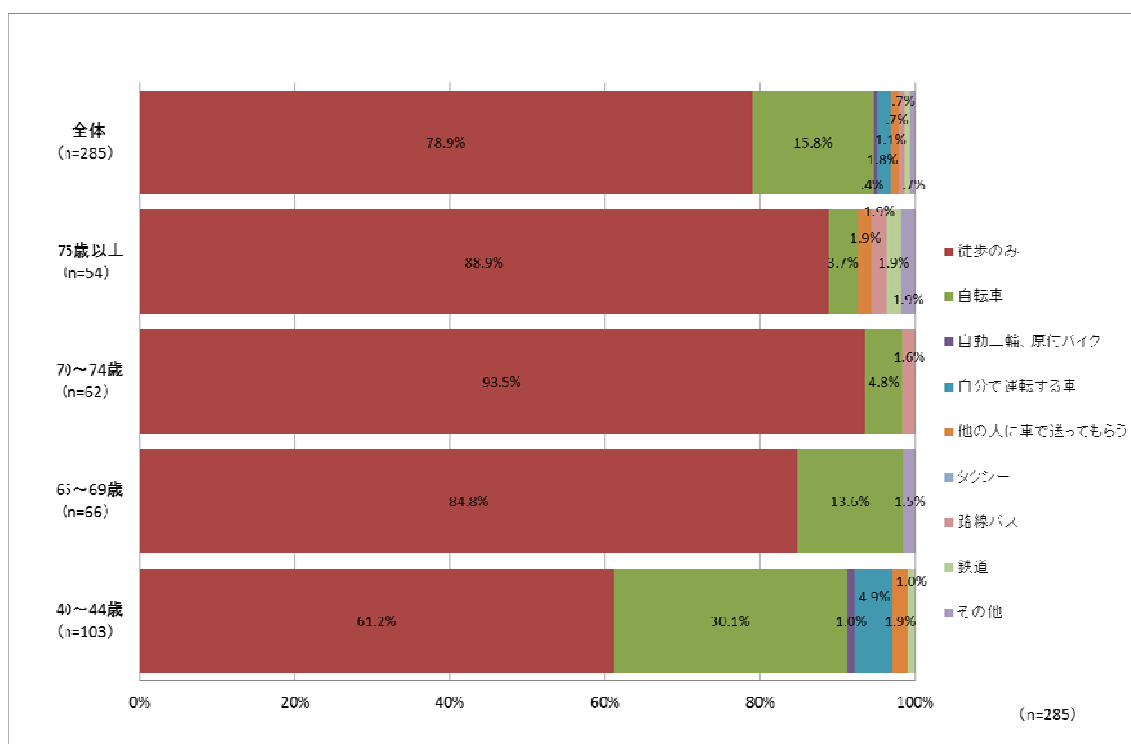


図 2-10a (J) 公園：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—公園

公園へ行くのにかかる片道所要時間は、「15分未満」の割合が「40～44歳」で67.7%、「65～69歳」で64.5%、「70～74歳」で44.6%、「75歳以上」で64.4%となっており、全ての年齢階層で最も高い。次に割合が高いのは、「75歳以上」以外の階層では「15分以上30分未満」が年齢階層の若い順に25.3%、24.2%、32.1%であるが、「75歳以上」では「30分以上45分未満」(20.0%)となっている。

所要時間が30分以上であると回答した人の割合をみると、「40～44歳」では1割程度(7.1%)であるが、高齢者の「65～69歳」では28.4%、「70～74歳」では25.8%、「75歳以上」では21.3%を占め、高齢になるほど、公園へ行くのにかかる時間が長くなる傾向が見られる。

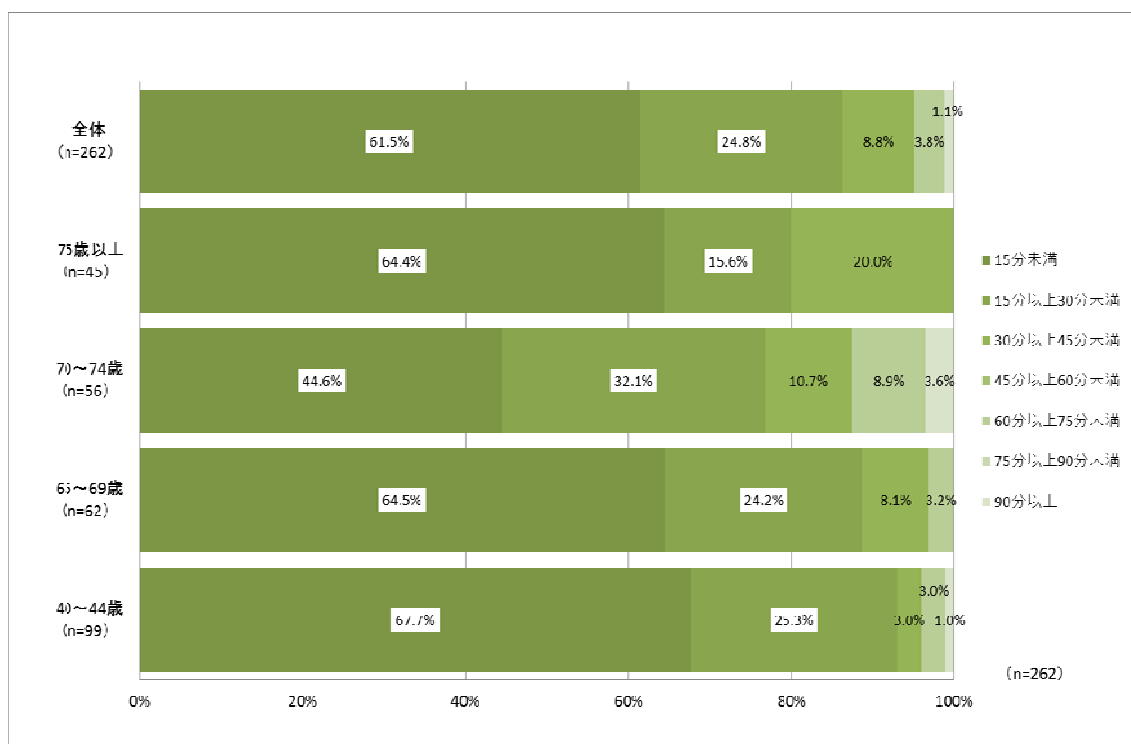


図 2-10b (J) 公園：片道所要時間の割合 (単数回答)

(ウ) 同行者—公園

公園に行く際の同行者をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「同居家族と」(61.5%)が最も多く、次いで「一人で」(29.8%)となっている。この二つで9割程度(91.3%)を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「一人で」(それぞれ58.1%、66.7%、51.0%)が最も多く、次いで「同居家族と」(35.5%、23.3%、39.2%)が多い。この二つの割合の合計は、非高齢者の場合と同じ9割程度(93.5%、90.0%、90.2%)である。また、「同居していない家族・親族と」の割合は四つの年齢階層順にそれぞれ1.9%、3.2%、3.3%、2.0%、「近隣の友人・知人と」の割合はそれぞれ0.0%、3.2%、1.7%、3.9%である。これらの割合は、その大きさこそ小さいものの、高齢者グループの方が比較的高くなっている。

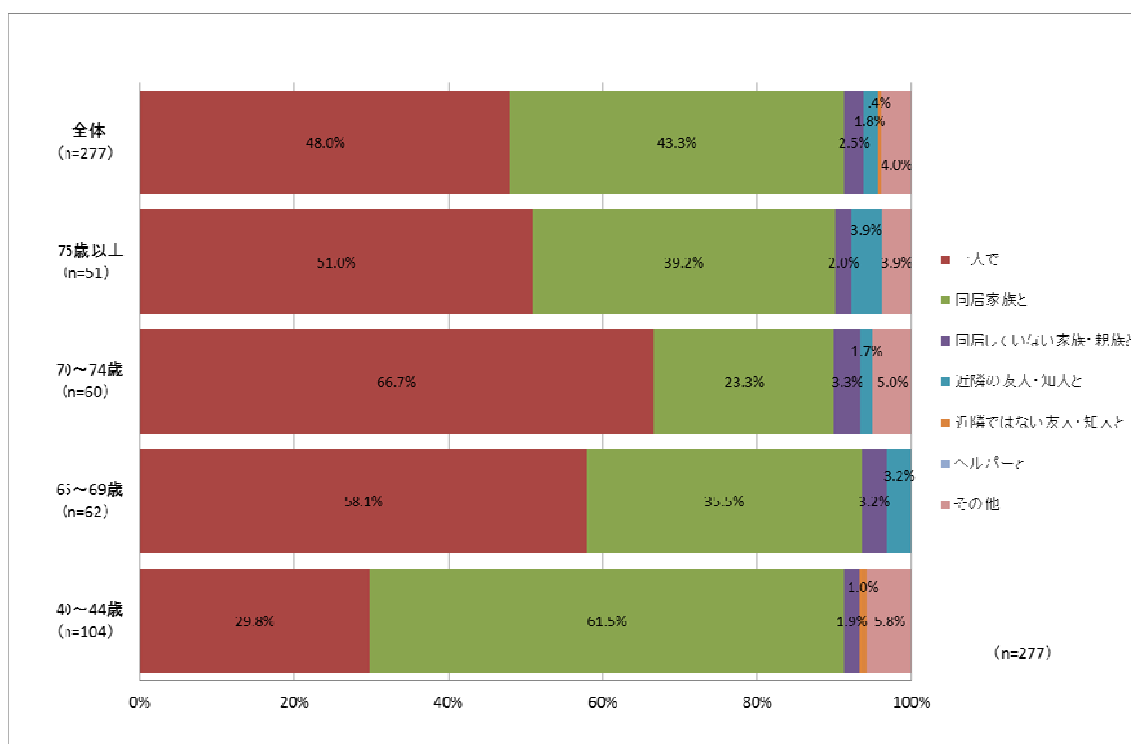


図 2-10c (J) 公園：同行者の割合 (単数回答)

(エ) 頻度—公園

公園に行く頻度をみると、「75歳以上」以外の階層では「月1日未満」がそれぞれ41.5%、33.3%、31.6%で最も多くなっており、それに「月1～2日」が続く（それぞれ32.1%、31.7%、26.3%）。また、「75歳以上」の階層では「月1～2日」が38.0%で最も多く、「月1日未満」が32.0%でそれに次ぐ。

頻度が週3日以上であると回答した人の割合をみると、「40～44歳」は7.5%、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」はそれぞれ18.3%、15.8%、12.0%であり、「40～44歳」よりも高齢者グループの方が割合が高く、高齢者の中では若い年齢階層ほど高い。

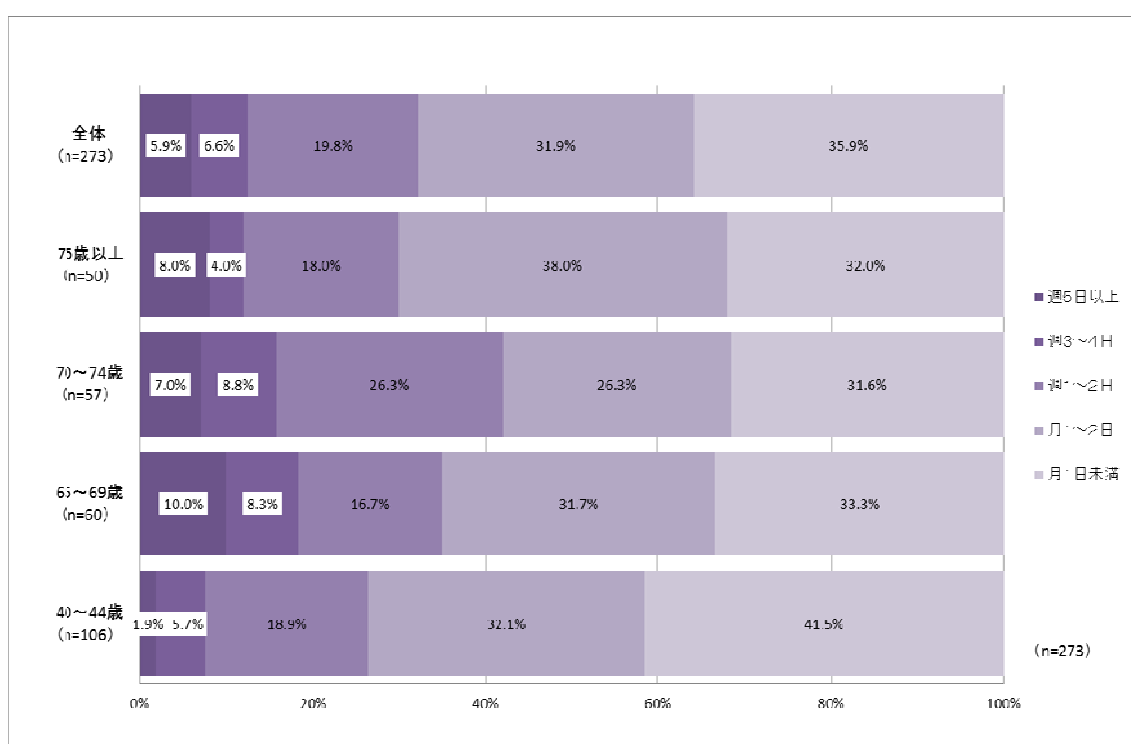


図 2-10d (J) 公園：外出頻度の割合（単数回答）

(11) スポーツ施設〔Q23- (K)〕

(ア) 利用交通手段—スポーツ施設

スポーツ施設に行く際に利用する交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自転車」(43.5%)、「徒歩のみ」(21.2%)、「自分で運転する車」(18.8%)の順になっている。高齢者の「65～69歳」の階層でも、「自転車」(38.6%)、「徒歩のみ」(34.1%)、「自分で運転する車」(9.1%)の順になっているが、「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」(47.2%)、「自転車」(30.6%)、「自分で運転する車」と「鉄道」(それぞれ8.3%)の順になっている。さらに「75歳以上」の階層では、「徒歩のみ」(46.9%)、「自転車」(28.1%)、「鉄道」(12.5%)の順になっている。

年齢の高い階層ほど、「徒歩のみ」(「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の順に21.2%、34.1%、47.2%、46.9%)、「路線バス」(それぞれ4.7%、4.5%、5.6%、9.4%)、「鉄道」(8.2%、4.5%、8.3%、12.5%)の割合が高くなり、「自分で運転する車」(18.8%、9.1%、8.3%、0.0%)の割合が低くなる傾向がある。

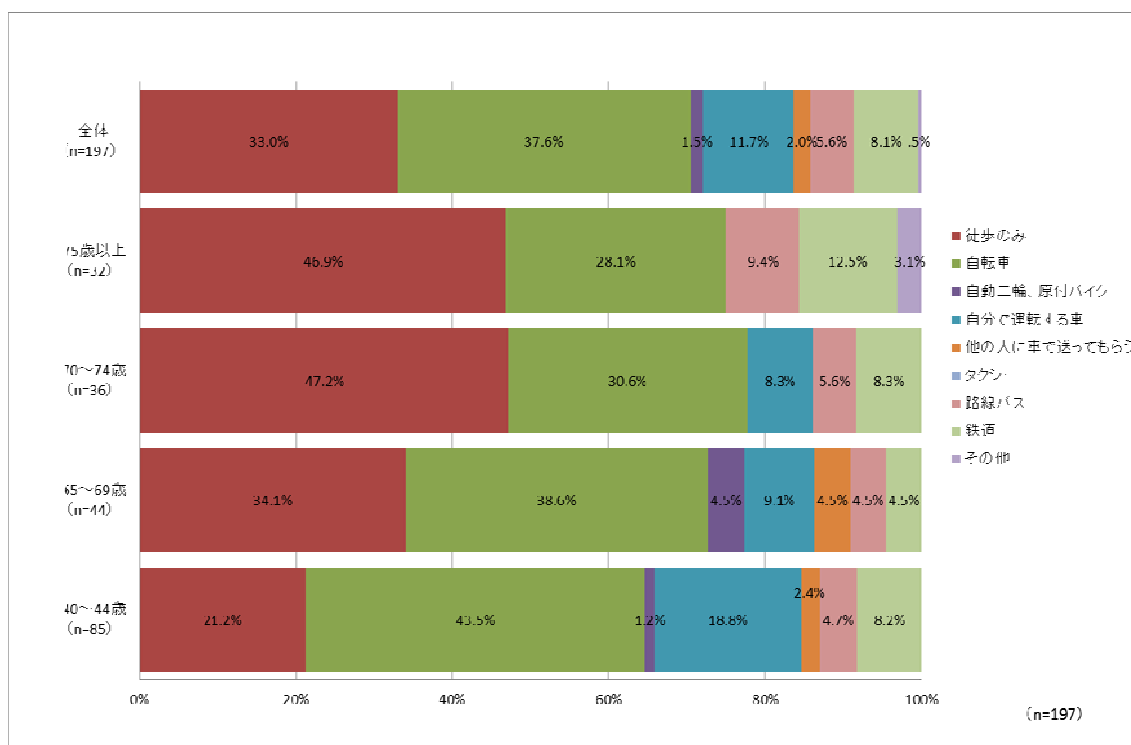


図 2-11a (K) スポーツ施設：利用交通手段の割合（単数回答）

(イ) 片道所要時間—スポーツ施設

スポーツ施設に行くのにかかる片道所要時間をみると、「15分未満」が「40～44歳」では54.9%、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」では、それぞれ63.4%、46.9%と最も多く、「15分以上30分未満」がそれに次いでいる（それぞれ36.6%、22.0%、25.0%）。「75歳以上」の階層では、「15分以上30分未満」が41.9%で最も多く、「15分未満」が29.0%でそれに次いでいる。

所要時間が30分以上であると回答した者の割合をみると、「40～44歳」では1割程度（8.5%）であるが、高齢者の「65～69歳」では14.6%、「70～74歳」では28.1%、「75歳以上」では29.0%となり、高齢になるほど、スポーツ施設に行くのにかかる時間が長くなる傾向が見られる。

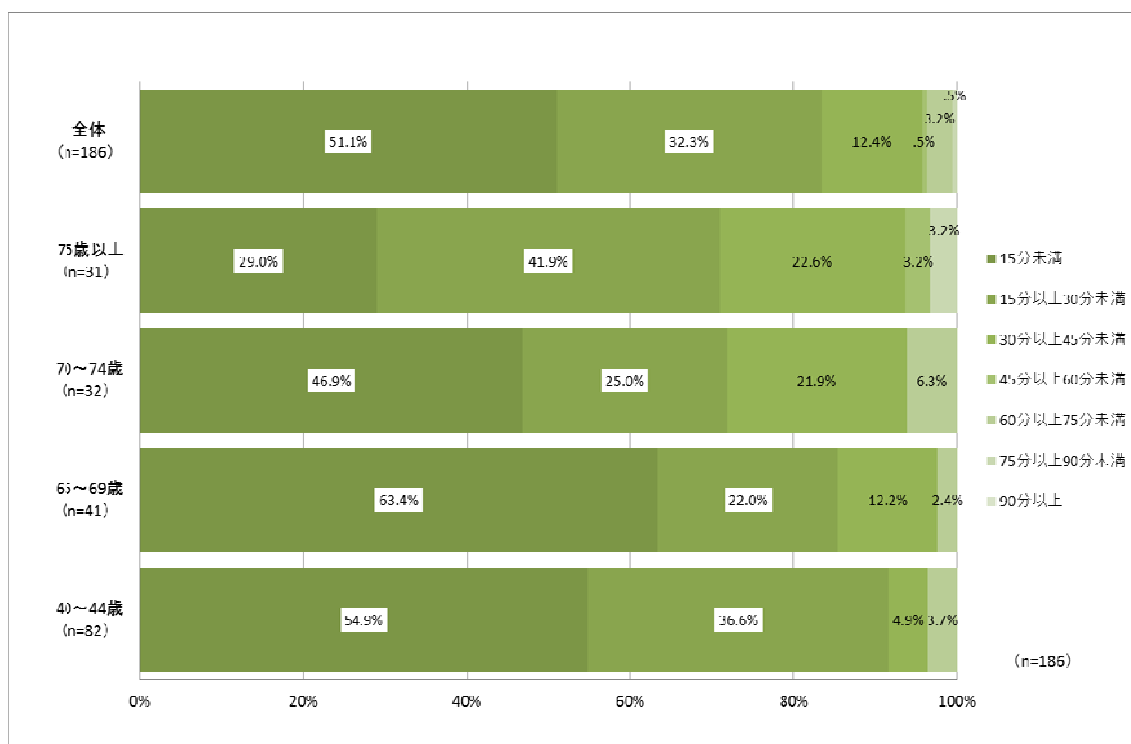


図 2-11b (K) スポーツ施設：片道所要時間の割合（単数回答）

(ウ) 同行者—スポーツ施設

スポーツ施設に行く際の同行者をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「一人で」が52.8%と最も多く、次いで「同居家族と」が32.8%となっており、これらで全体の約9割(91.0%)を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層でも、「一人で」の割合がそれぞれ72.5%、81.6%、69.0%と最も高く、「40～44歳」(52.8%)を大幅に上回る。「一人で」と「同居家族と」の割合を合わせるとそれぞれ87.5%、86.8%、82.8%であり、「40～44歳」(91.0%)よりもやや低い。

「近隣の友人・知人と」の割合は、「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」でそれぞれ2.2%、5.0%、2.6%、3.4%、「近隣ではない友人・知人と」の割合はそれぞれ1.1%、2.5%、2.6%、3.4%となっている。「近隣ではない友人・知人と」の割合は、その大ききこそ小さいものの、年齢の高い階層ほど高くなっている。

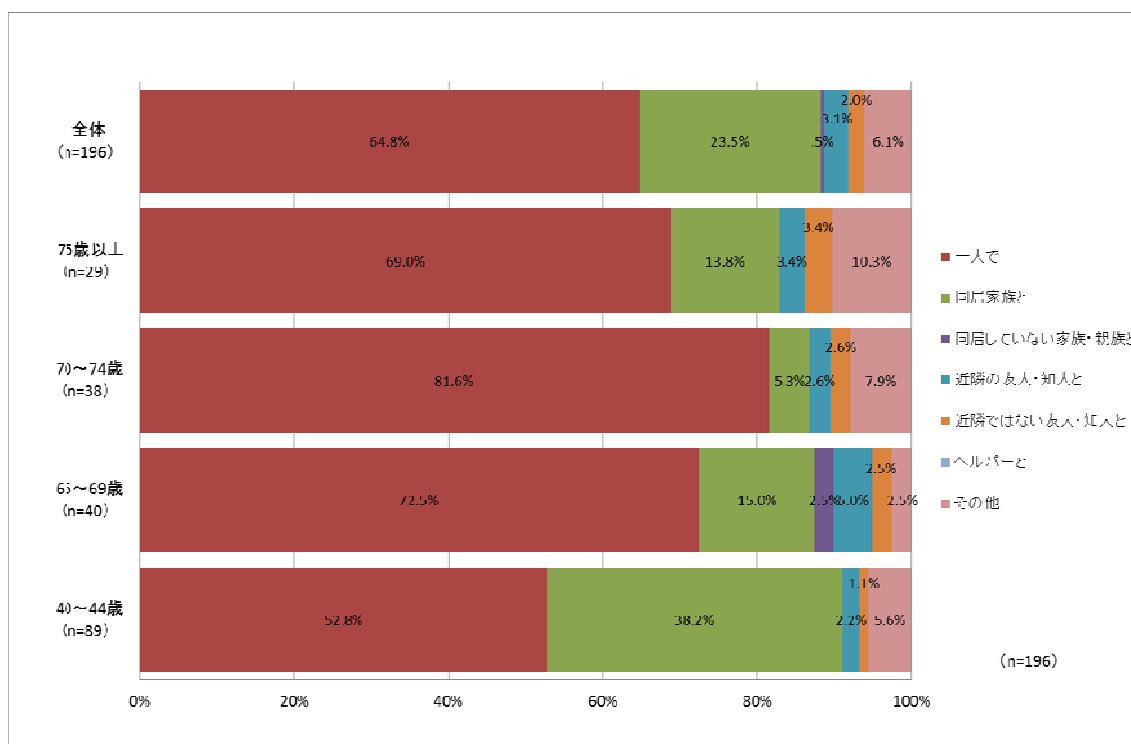


図 2-11c (K) スポーツ施設：同行者の割合 (単数回答)

### (エ) 頻度—スポーツ施設

スポーツ施設を訪れる頻度をみると、「40～44歳」と「65～69歳」では、「月1日未満」が最も多く（それぞれ62.0%、44.7%）、「週1～2日」がそれに次ぐ（14.1%、31.6%）。一方、「70～74歳」と「75歳以上」では「週1～2日」が最も多く（それぞれ32.4%、37.5%）、「月1日未満」がそれに次ぐ（26.5%、31.3%）。

頻度が週3日以上であると回答した者の割合をみると、「40～44歳」で6.5%、「65～69歳」で18.4%、「70～74歳」で29.4%、「75歳以上」で25.0%となっており、「40～44歳」より高齢者グループの方が外出頻度は高い。さらに週1日以上である割合の合計は、それぞれ23.9%、50.0%、61.8%、62.5%で、全ての高齢者の階層で「40～44歳」を2倍以上上回っている。

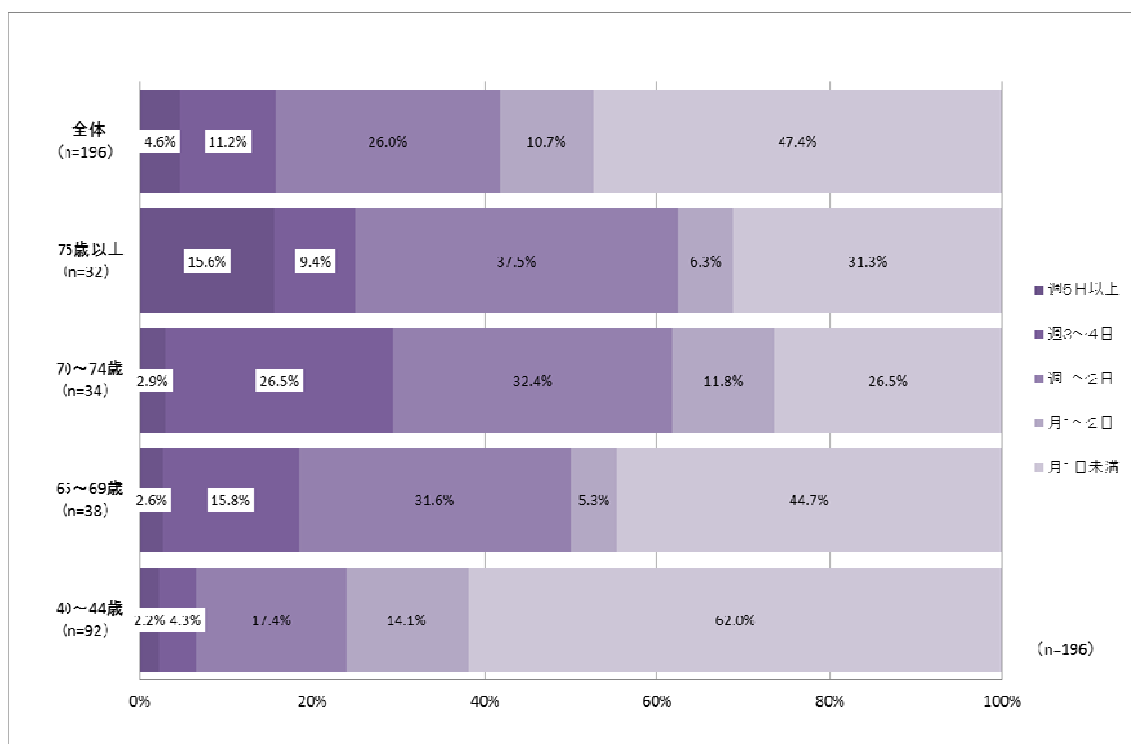


図 2-11d (K) スポーツ施設：外出頻度の割合（単数回答）

(12) 余暇、レジャー、レクリエーション [Q23- (L)]

(ア) 利用交通手段—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的で外出する際に利用する交通手段は、「鉄道」が「40～44歳」で33.3%、「65～69歳」で29.1%、「70～74歳」で32.7%、「75歳以上」で48.1%となっており、全ての年齢階層で最も多くなっている。しかし、2番以降の内訳は年齢階層によって異なる。

「路線バス」の割合は、非高齢者である「40～44歳」では1.9%しかないが、高齢者の「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」ではそれぞれ10.9%、14.5%、9.6%と、「40～44歳」よりも高い。また、「徒歩」の割合も、「40～44歳」では7.6%だが、高齢者グループではそれぞれ10.9%、23.6%、9.6%となっており、「40～44歳」よりも高い。一方、「自分で運転する車」(それぞれ29.5%、20.0%、9.1%、7.7%)は年齢階層の上昇とともに劇的に少なくなる。「他の人に車で送ってもらう」(それぞれ14.3%、9.1%、3.6%、5.8%)も「75歳以上」を除いて同様の傾向を示す。

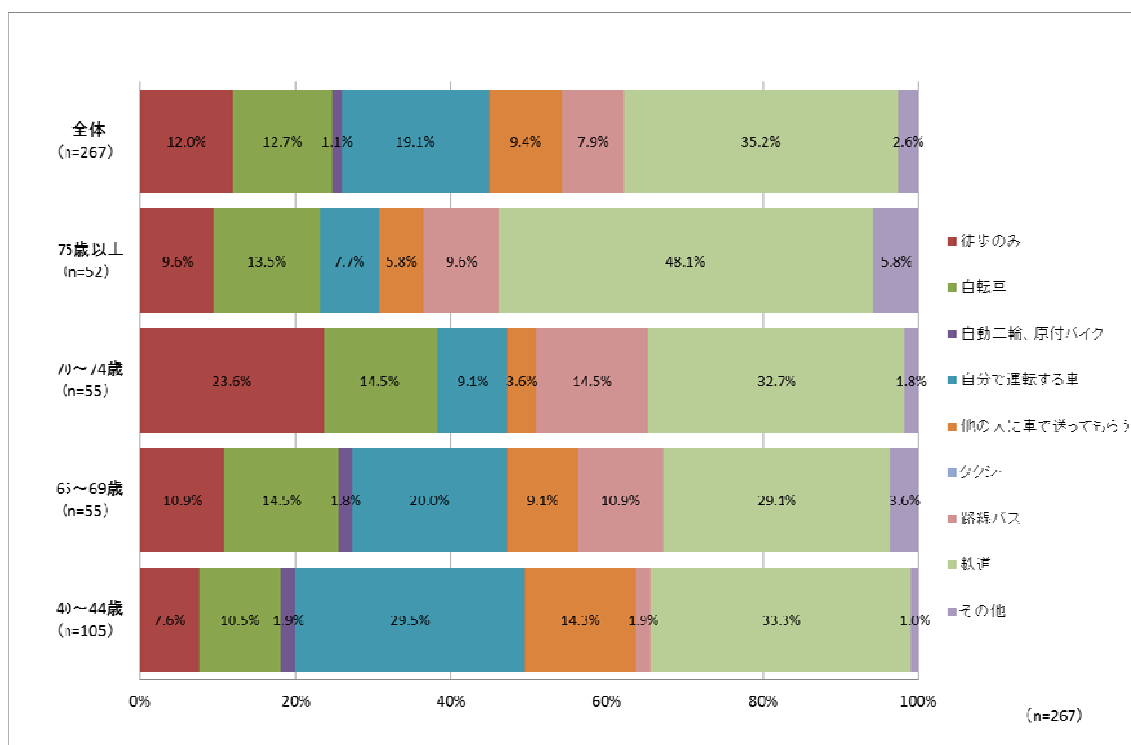


図 2-12a (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：利用交通手段の割合（単数回答）



(イ) 片道所要時間—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的の外出をする際の片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「75分以上90分未満」(29.5%)が最も多く、以下、「45分以上60分未満」(20.5%)、「90分以上」(19.3%)の順になっている。

高齢者である「65～69歳」の階層では、「90分以上」(24.4%)が最も多く、次いで「15分未満」と「75分以上90分未満」(それぞれ19.5%)となっている。また「70～74歳」の階層では、「75分以上90分未満」と「90分以上」(それぞれ26.2%)が最も多く、次いで「30分以上45分未満」(19.0%)となっている。さらに「75歳以上」の階層では、「30分以上45分未満」(31.0%)が最も多く、次いで「75分以上90分未満」と「90分以上」(それぞれ21.4%)となっている。

「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」のいずれの年齢階層でも、60分以上と回答した人の割合は4割以上(それぞれ48.9%、43.9%、52.4%、42.9%)を占めており、他の外出目的より所要時間が長い傾向が見られる。



図 2-12b (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：片道所要時間の割合 (単数回答)

(ウ) 同行者—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的で外出する際の同行者をみると、「40～44歳」と「65～69歳」の階層では、「同居家族と」がそれぞれ67.3%、51.9%で最も多く、次いで「一人で」が多くなっている（それぞれ19.6%、33.3%）。一方、「70～74歳」と「75歳以上」では、「一人で」が最も多く（それぞれ41.1%、52.2%）、次いで「同居家族と」が多くなっている（39.3%、30.4%）。「一人で」の割合は、高齢になるほど高く、代わりに「同居家族と」の割合は低くなる傾向が見られる。

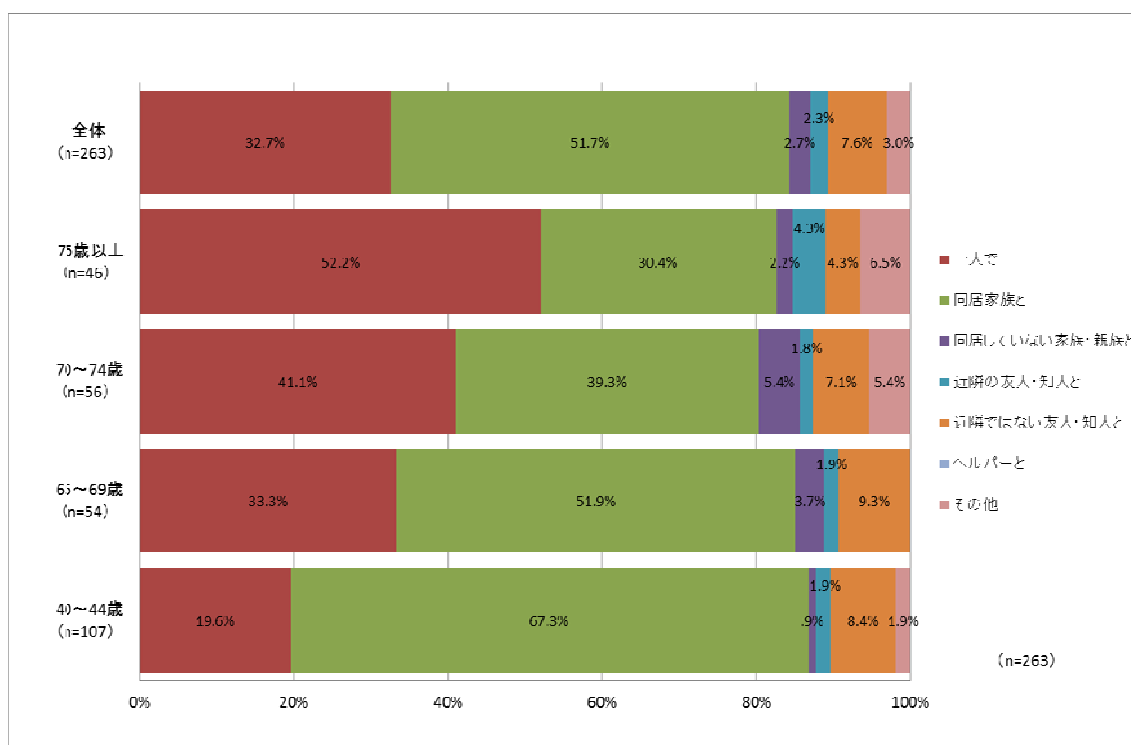


図 2-12c (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：同行者の割合（単数回答）

(エ) 頻度—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的の外出の頻度をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「月1～2日」(44.5%)が最も多く、「月1日未満」(40.9%)、「週1～2日」(11.8%)がそれに続く。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「月1日未満」がそれぞれ67.3%、44.4%、45.8%と高い割合を占めている。

外出頻度が週1日以上であると回答した人の割合は、「40～44歳」で14.5%、「65～69歳」で17.3%、「70～74歳」で20.4%、「75歳以上」で29.2%であり、「40～44歳」より高齢者グループの方が、そして高齢者グループの中では年齢の高い階層の方が、割合が高くなっている。

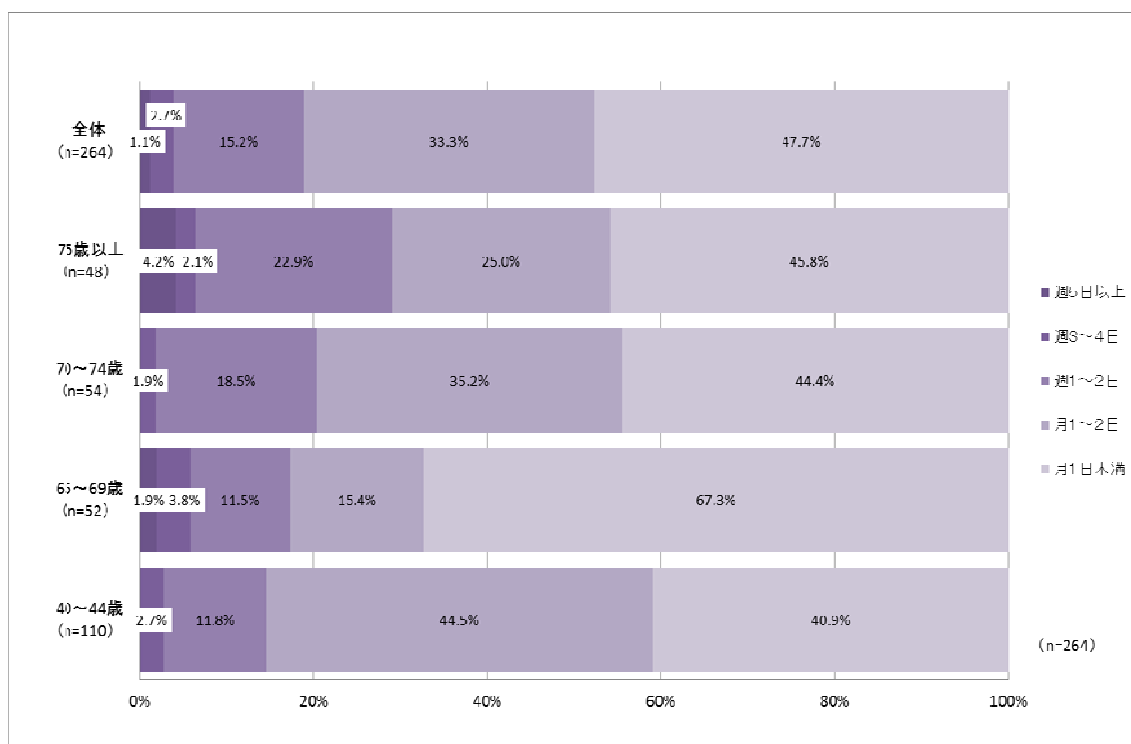


図 2-12d (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：外出頻度の割合 (単数回答)

### 3. 外出目的別の理想と思われる移動状況〔Q24〕

本節の集計結果は、回答しなかった者を除いて集計した結果である。年齢階層によってはサンプル数の少ない場合があることに留意されたい。

#### (1) 通勤・通学〔Q24－(A)〕

##### (ア) 利用交通手段－通勤・通学

通勤・通学の際に理想とする交通手段の割合をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「鉄道」が45.5%で最も多く、全体の約5割を占めている。以下、「徒歩のみ」(24.8%)、「自転車」(20.7%)の順になっている。現実に「鉄道」で移動している人の割合は47.7%で、「鉄道」で移動することを理想とする人の割合とほぼ同じである。一方、「徒歩のみ」を理想とする人の割合は現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(12.6%)の2倍程度になっている。さらに、「自転車」での移動については、それを理想とする人の割合が現実にそれで移動している人の割合(25.2%)より若干少なくなっている。

高齢者の「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」がそれぞれ34.1%、39.4%で最も多い。また、「自転車」(それぞれ22.1%、18.1%)と「鉄道」(18.2%、27.3%)の割合が比較的高い。現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は、それぞれ35.9%、38.5%であり、それを理想とする人の割合と比べて大きな差は見られない。また、現実に「自転車」と「鉄道」で移動している人の割合は、それぞれ20.5%、19.2%と20.5%、26.9%であり、それらを理想とする人の割合とほぼ同じである。

「75歳以上」の階層では、「鉄道」が47.8%と最も多く、現実に「鉄道」で移動している人の割合(41.7%)より若干高い。一方、「徒歩のみ」で移動している人の割合は17.4%で、現実に「徒歩のみ」で移動することを理想とする人の割合(33.3%)より相当に低い。



図 3-1a (A) 通勤・通学：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—通勤・通学

通勤・通学の理想的な片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「30分以上45分未満」(36.1%)が最も多く、以下「15分未満」(29.4%)、「15分以上30分未満」(23.5%)の順になっている。通勤・通学にかかる理想的な片道所要時間が30分未満であると回答した人の割合は、合わせると52.9%であり、現実通勤・通学にかかる片道所要時間が30分未満であると回答した人の割合(46.2%)より若干高い。

高齢者の「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「15分未満」がそれぞれ35.0%、25.9%、「15分以上30分未満」が37.5%、37.0%となっている。通勤・通学にかかる理想的な片道所要時間が30分未満であると回答した人の割合は、合わせると72.0%、63.0%で、全体の6割以上を占めている。現実通勤・通学にかかる片道所要時間が30分未満である人の割合(63.3%、57.7%)と比べると、若干高くなっている。

「75歳以上」の階層では、「30分以上45分未満」が通勤・通学にかかる理想的な片道所要時間であると回答した人の割合が5割(55.0%)を上回っており、現実通勤・通学にかかる片道所要時間が「30分以上45分未満」である割合(30.8%)より2割以上高い。一方、30分未満が理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、合わせて15.0%であり、それを現実とする人の割合(15.4%)とそれほど変わらない。

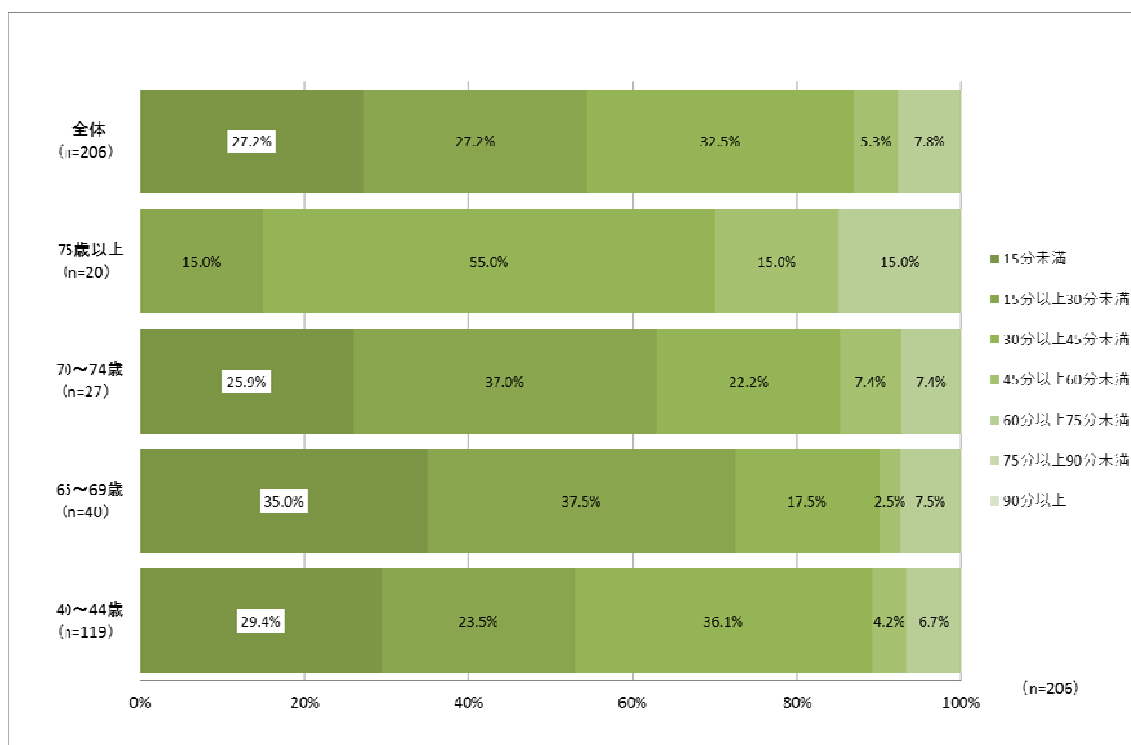


図3-1b (A) 通勤・通学：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

## (2) 定期的に通う病院〔Q24- (B)〕

### (ア) 利用交通手段—定期的に通う病院

定期的に通う病院に行く際に理想とする交通手段の割合をみると、「徒歩のみ」の割合が、「40～44歳」で63.3%、「65～69歳」で57.7%、「70～74歳」で53.1%、「75歳以上」で42.7%となっており、いずれの年齢階層で最も高い割合を占めている。以下、「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」の階層では、「自転車」の割合（それぞれ26.7%、15.4%、14.8%）がそれに次ぎ、「75歳以上」では、「路線バス」（22.0%）と「自転車」（12.2%）がそれに次ぐ。

現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は、「40～44歳」で37.4%、「65～69歳」で38.3%、「70～74歳」で37.8%、「75歳以上」で40.0%となっており、それを理想とする人の割合より非常に低い。「徒歩のみ」で移動している人の現実と理想の割合のギャップは、年齢が低いほど顕著に大きくなっている。

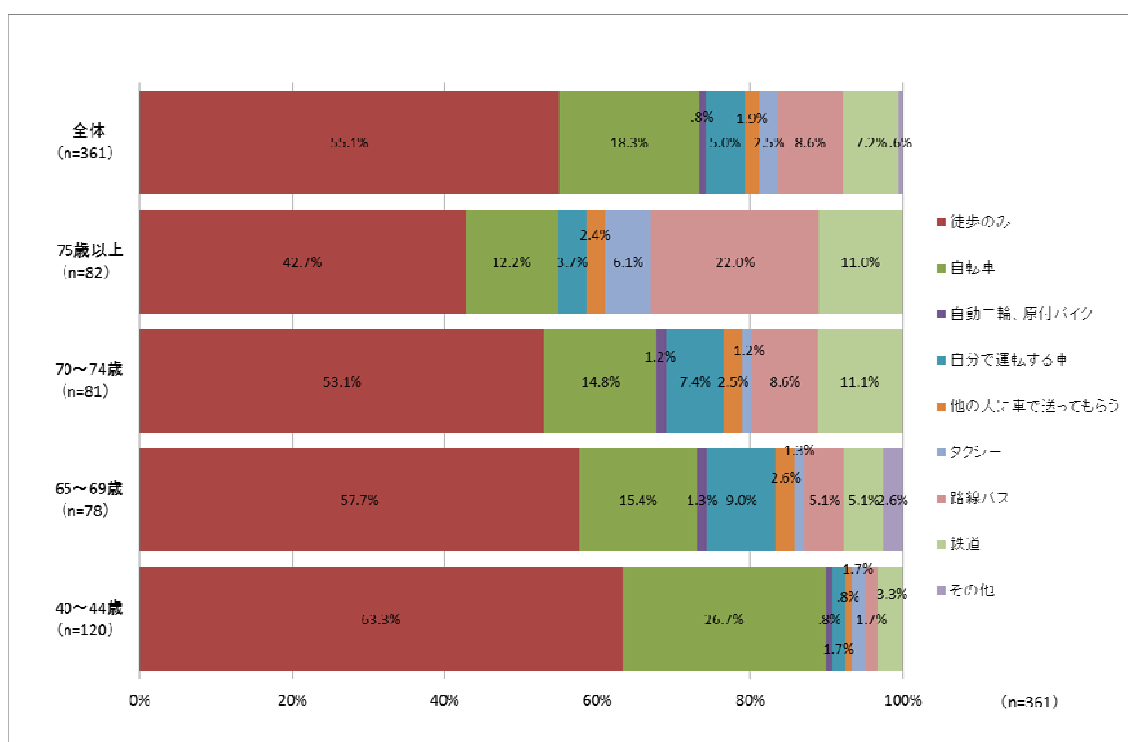


図 3-2a (B) 定期的に通う病院：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—定期的に通う病院

定期的に通う病院に行く際の理想的な片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で73.5%、「65～69歳」で56.3%、「70～74歳」で47.9%、「75歳以上」で41.1%と全ての年齢階層で最も多く、「15分以上30分未満」がそれに次いでいる（それぞれ23.1%、28.2%、33.8%、28.8%）。

合わせて30分未満が定期的に通う病院に行く際の理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、「40～44歳」で96.6%、「65～69歳」で84.5%、「70～74歳」で81.7%、「75歳以上」で69.9%となっており、現実には30分未満で移動している人の割合（それぞれ88.0%、79.7%、56.9%、70.0%）を上回っている。

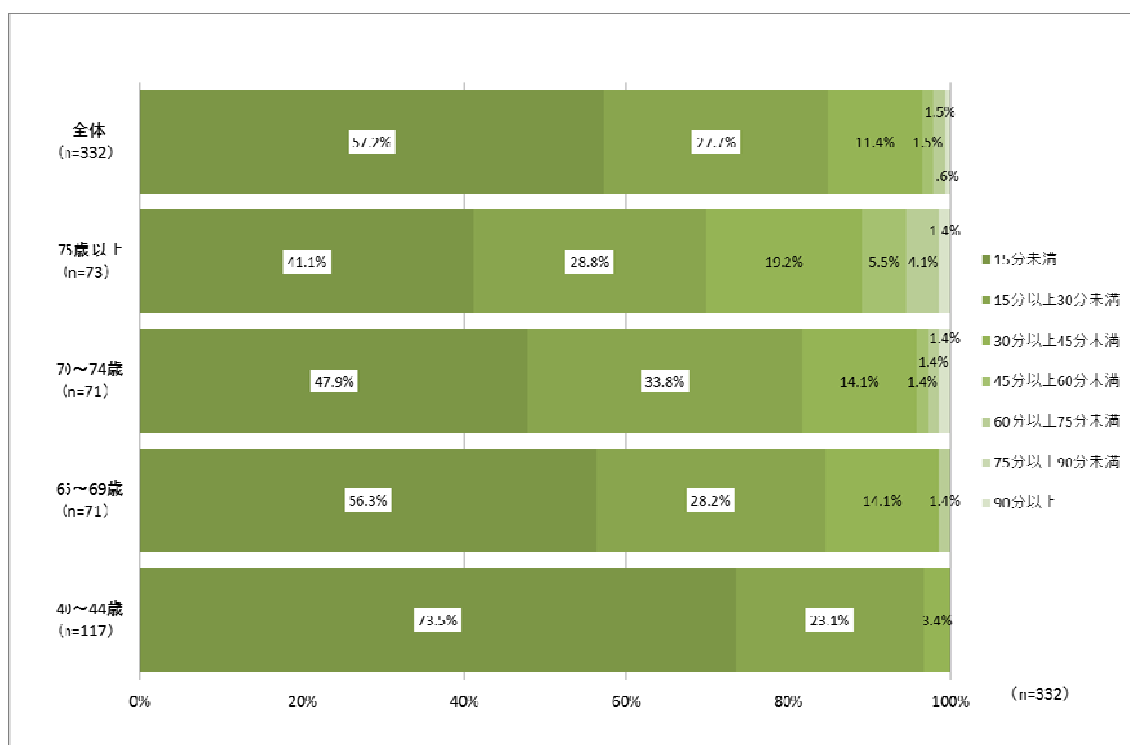


図 3-2b (B) 定期的に通う病院：理想と思われる片道所要時間（単数回答）



### (3) 食料品・日用品の買い物【Q24- (C)】

#### (ア) 利用交通手段—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物に行く際の理想的な利用交通手段をみると、「徒歩のみ」の割合が、「40～44歳」で59.3%、「65～69歳」で61.9%、「70～74歳」で67.9%、「75歳以上」で75.3%となっており、全ての年齢階層で最も多い。「自転車」の割合がこれに続く（それぞれ35.8%、31.0%、25.9%、18.5%）。これら2つ交通手段を合わせると、いずれの年齢階層でも9割以上（95.1%、92.9%、93.8%、93.8%）を占めている。

現実に「徒歩のみ」あるいは「自転車」で移動している人の割合は、「40～44歳」で81.3%、「65～69歳」で87.4%、「70～74歳」で88.4%、「75歳以上」で85.4%となっており、いずれの年齢階層でも8割以上を占めている。しかし、現実に「自転車」を利用して買い物に行っている人の割合は年齢階層の若い順に45.5%、40.0%、25.6%、20.8%であり、自転車を利用して買い物に行きたいと考えている人の割合よりも高い。それに対し、現実に徒歩で買い物に行っている人の割合は年齢階層の若い順位35.8%、47.4%、62.8%、64.6%であり、徒歩で買い物に行きたいと考えている人の割合よりも低い。特に「40～44歳」の階層では、徒歩で買い物に行きたいと考えている人の割合が現実に徒歩で行っている人の割合よりも大幅に高くなっている。

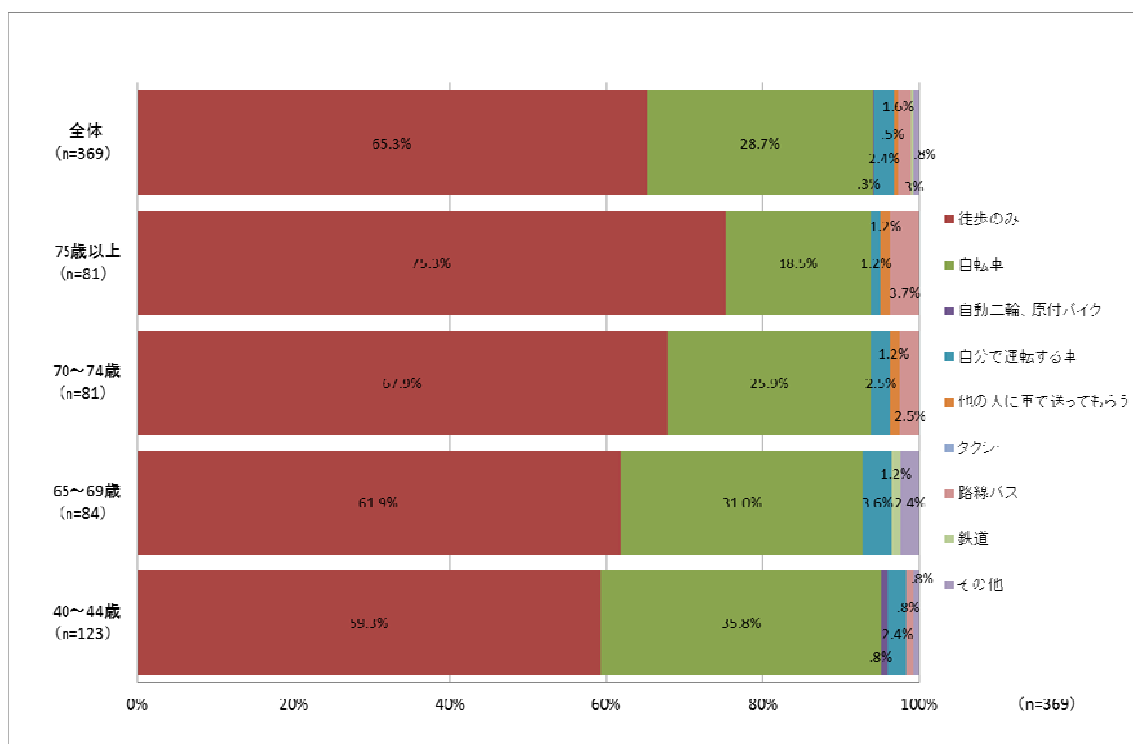


図 3-3a (C) 食料品・日用品の買い物：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—食料品・日用品の買い物

食料品・日用品の買い物に行く際の理想的な片道所要時間をみると、「15分未満」が「40～44歳」で94.8%、「65～69歳」で77.3%、「70～74歳」で77.8%、「75歳以上」で71.4%となっており、全ての年齢階層で圧倒的に多く、「15分以上30分未満」がそれに次いでいる（それぞれ4.3%、18.7%、13.9%、21.4%）。

合わせて30分未満が食料品・日用品の買い物に行く際の理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、それぞれ99.1%、96.0%、91.7%、92.9%で全体の9割以上を占めている。一方、現実に食料品・日用品の買い物に行くのにかかる片道所要時間が30分未満であると回答した人の割合は97.4%、94.4%、89.0%、91.3%で、それを理想とする人の割合を若干下回っている。

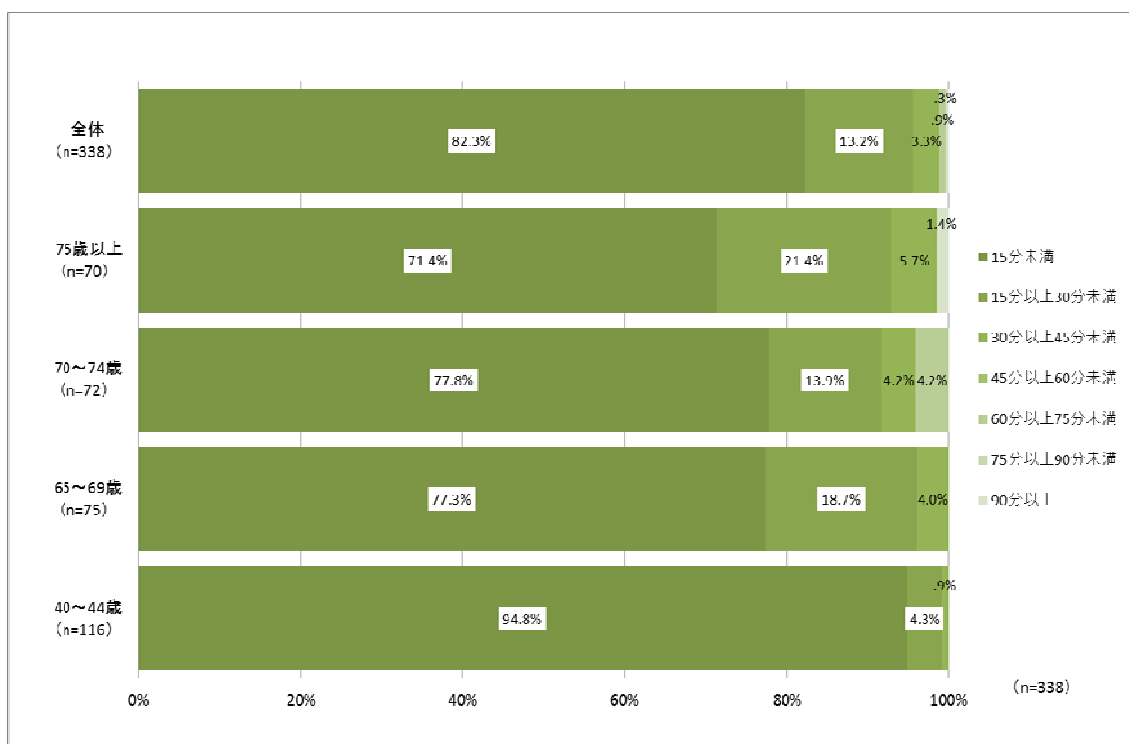


図 3-3b (C) 食料品・日用品の買い物：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

#### (4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q24- (D)〕

##### (ア) 利用交通手段—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品以外の買い物に出かける際の理想的な利用交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「徒歩のみ」の割合が33.1%で最も多く、以下、「自転車」(27.3%)、「自分で運転する車」と「鉄道」(各17.4%)の順になっている。現実には利用している交通手段は、「自動二輪、原付バイク」(29.8%)、「鉄道」(28.9%)、「自転車」(19.0%)、「他の人に車で送ってもらう」(10.7%)の順であり、理想的な利用交通手段との違いが大きい。特に、現実には「徒歩のみ」で移動している人の割合は8.3%と低く、理想と現実とのギャップが大きい。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層でも「徒歩のみ」を理想とする人の割合(それぞれ32.0%、24.3%、30.8%)は、現実には「徒歩のみ」で移動している人の割合(それぞれ17.2%、15.9%、18.8%)を大きく上回っている。また、年齢の高い階層ほど、「自転車」を理想とする人の割合は低く(それぞれ20.0%、13.5%、9.2%)、「路線バス」を理想とする人の割合が高くなっている(8.0%、24.3%、24.6%)。こうした傾向は現実には利用する交通手段についても見られ、理想と現実で割合があまり変わらない。一方、現実にはそれぞれ17.2%、11.0%、2.5%の割合で「自動二輪、原付バイク」が利用されるが、それが理想であると回答した人はいない。また、「自分で運転する車」を理想とする人の割合はそれぞれ13.3%、8.1%、3.1%であり、年齢階層が高くなるほど割合が低くなっている。

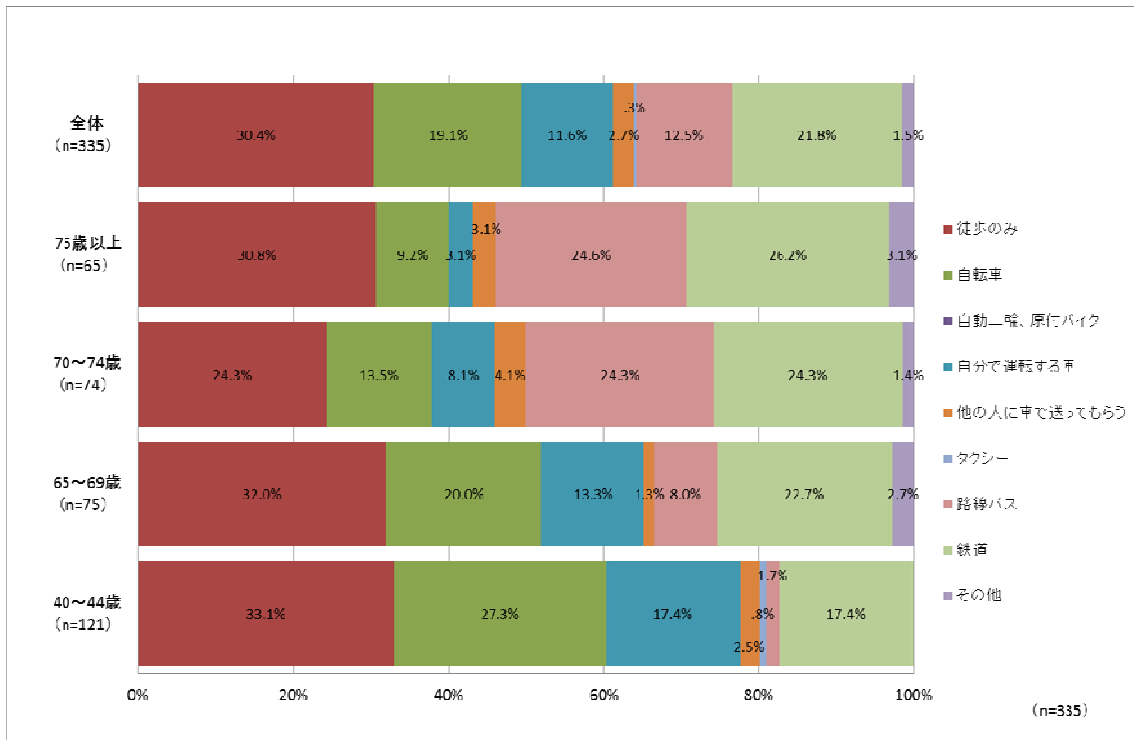


図 3-4a (D) 食料品・日用品以外の買い物：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—食料品・日用品以外の買い物

食料品・日用品の買い物に行く際の理想的な片道所要時間をみると、「40～44歳」と「65～69歳」の階層では、「15分未満」がそれぞれ60.2%、47.8%と多く、「15分以上30分未満」が22.1%、28.4%でそれに次いでいる。また、「70～74歳」の階層では、「30分以上45分未満」が37.5%で最も多く、以下、「15分未満」(28.1%)、「15分以上30分未満」(23.4%)の順になっている。さらに「75歳以上」の階層では、「15分以上30分未満」(31.0%)、「15分未満」(27.6%)、「30分以上45分未満」(22.4%)の順になっている。

合わせて30分未満が食料品・日用品の買い物に行くのにかかる理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、「40～44歳」と「65～69歳」では、それぞれ82.3%、76.1%と8割前後に上っている。一方、「70～74歳」と「75歳以上」では、全体の5割程度(それぞれ51.6%、58.6%)に留まる。現実の所要時間が30分未満である人の割合は、「40～44歳」で97.4%、「65～69歳」で94.4%、「70～74歳」で89.0%、「75歳以上」で91.3%と9割前後に上り、それを理想とする人の割合よりも高くなっている。

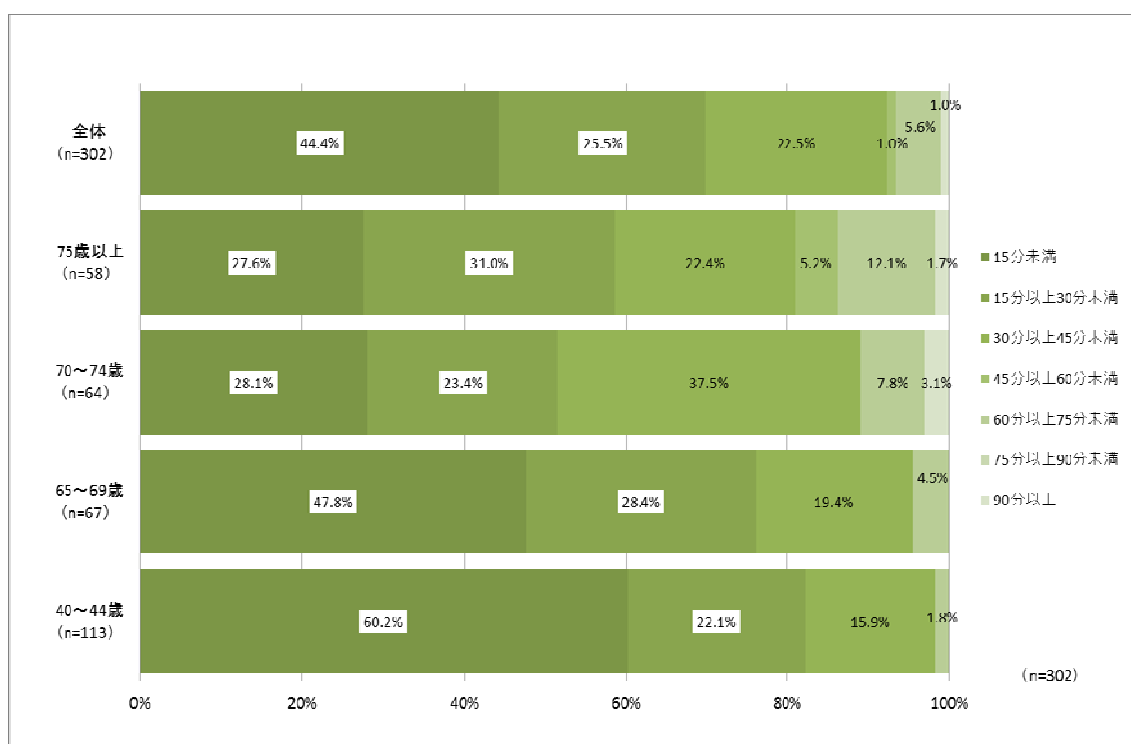


図 3-4b (D) 食料品・日用品以外の買い物：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q24-（E）〕

(ア) 利用交通手段—集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老人福祉センターなど）を訪ねる際の理想的な利用交通手段をみると、「徒歩のみ」の割合が「40～44歳」で60.0%、「65～69歳」で70.2%、「70～74歳」で75.4%、「75歳以上」で68.4%となっており、全ての階層で最も高い。次いで「自転車」の割合がそれぞれ32.7%、22.8%、19.7%、15.8%で高くなっている。「徒歩のみ」と「自転車」を合わせると8割以上（それぞれ92.7%、93.0%、95.1%、84.2%）と高い割合になる。

現実的に「徒歩のみ」で移動している人の割合は、「40～44歳」で50.6%、「65～69歳」で48.1%、「70～74歳」で55.7%、「75歳以上」で59.2%となっており、「徒歩のみ」を理想とする人の割合を下回っている。また、現実的に「自転車」で移動している人の割合は、それぞれ42.4%、40.4%、34.4%、22.4%となっており、「自転車」を理想とする人の割合を上回っている。

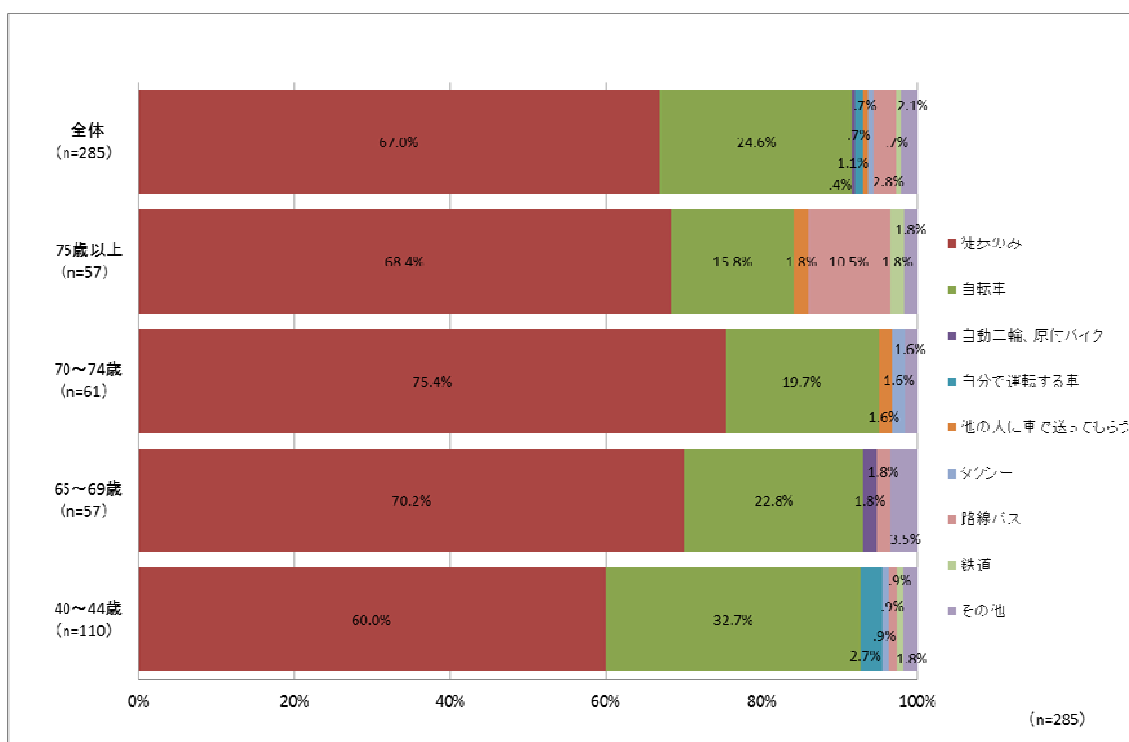


図 3-5a (E) 集会施設：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—集会施設（公民館、老人福祉センターなど）

集会施設（公民館、老人福祉センターなど）に行く際の理想的な片道所要時間をみると、「15分未満」が「40～44歳」で77.5%、「65～69歳」で69.8%、「70～74歳」で64.9%、「75歳以上」で52.9%となっており、全ての年齢階層で最も多く、「15分以上30分未満」がそれに次いでいる（それぞれ20.6%、28.3%、33.3%、37.3%）。合わせて30分未満が集会施設に行く際の理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、「40～44歳」で98.0%、「65～69歳」で98.1%、「70～74歳」で98.2%、「75歳以上」で90.2%となっており、どの階層でも9割以上を占めている。

現実の片道所要時間が30分未満である人の割合もまた、全体の9割以上（98.8%、93.8%、96.1%、93.0%）を占めている。しかし、現実の片道所要時間が「15分未満」である人の割合は、「40～44歳」で81.7%、「65～69歳」で79.2%、「70～74歳」で56.9%、「75歳以上」で60.5%となっており、「70～74歳」の階層を除いた他の階層で、それを理想とする人の割合より若干高くなっている。

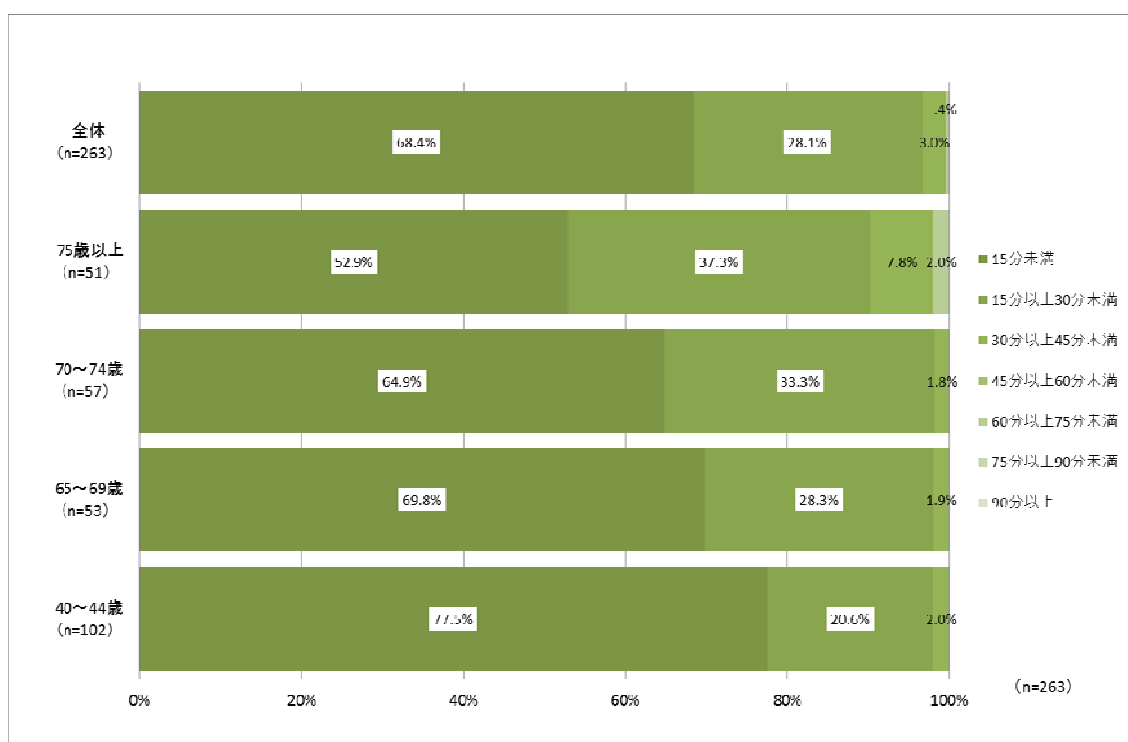


図 3-5b (E) 集会施設：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(6) 市役所等の公的機関〔Q24- (F)〕

(ア) 利用交通手段—市役所等の公的機関

市役所等に外出する際の理想的な利用交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「徒歩のみ」(49.6%)、「自転車」(39.7%)、「自分で運転する車」(5.8%)の順になっている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層でも「徒歩のみ」が最も多く(それぞれ50.7%、54.7%、47.4%)、次いで「自転車」(23.9%、24.0%、18.4%)となっている。しかし、その次に高い割合を占めているのは、「路線バス」(それぞれ9.9%、12.0%、18.4%)である。

現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は「40～44歳」で24.2%、「65～69歳」で30.3%、「70～74歳」で40.2%、「75歳以上」で37.0%であり、それを理想とする人の割合を下回る。

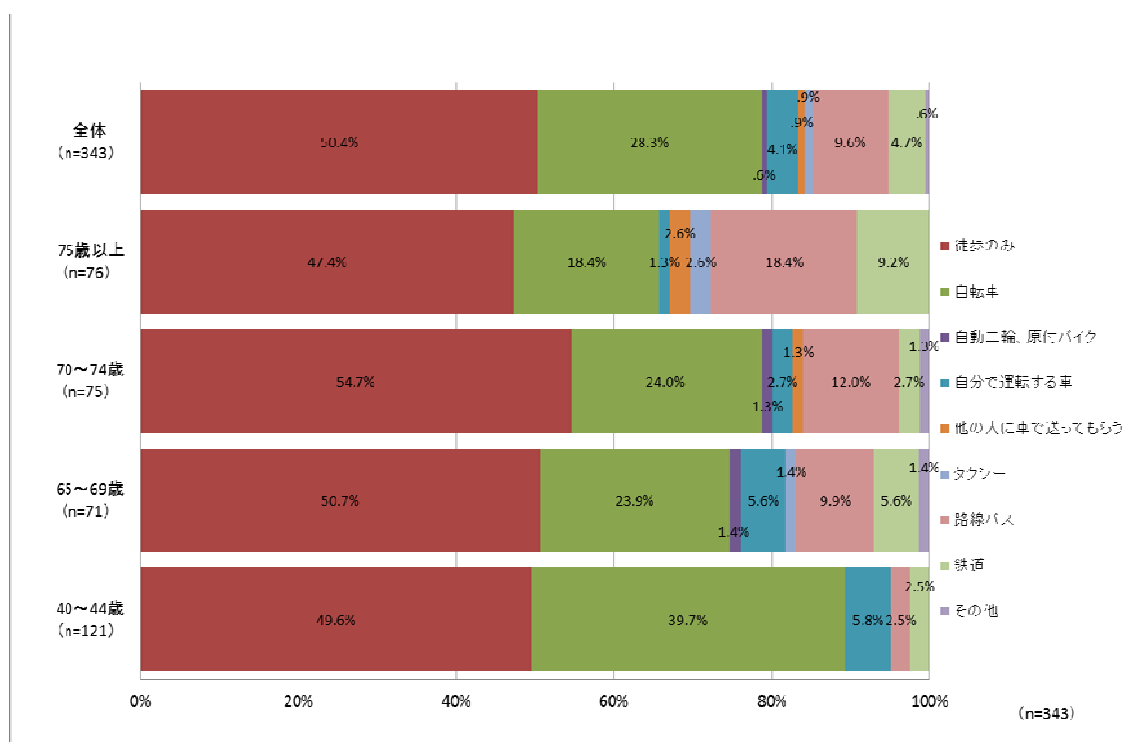


図 3-6a (F) 市役所等の公的機関：理想と思われる利用交通手段（単数回答）



(イ) 片道所要時間—市役所等の公的機関

市役所等の公的機関へ行く際の理想的な片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で75.2%、「65～69歳」で58.8%、「70～74歳」で58.8%、「75歳以上」で49.3%となっており、全ての階層で最も多く、次に「15分以上30分未満」が多くなっている（それぞれ22.2%、33.8%、29.4%、37.3%）。

現実に「15分未満」で移動している人の割合は、「40～44歳」で47.8%、「65～69歳」で53.7%、「70～74歳」で50.0%、「75歳以上」で37.1%しかなく、全年齢階層で、それを理想だと考える人の割合を下回っている。特に「40～44歳」で現実と理想との差が大きい。

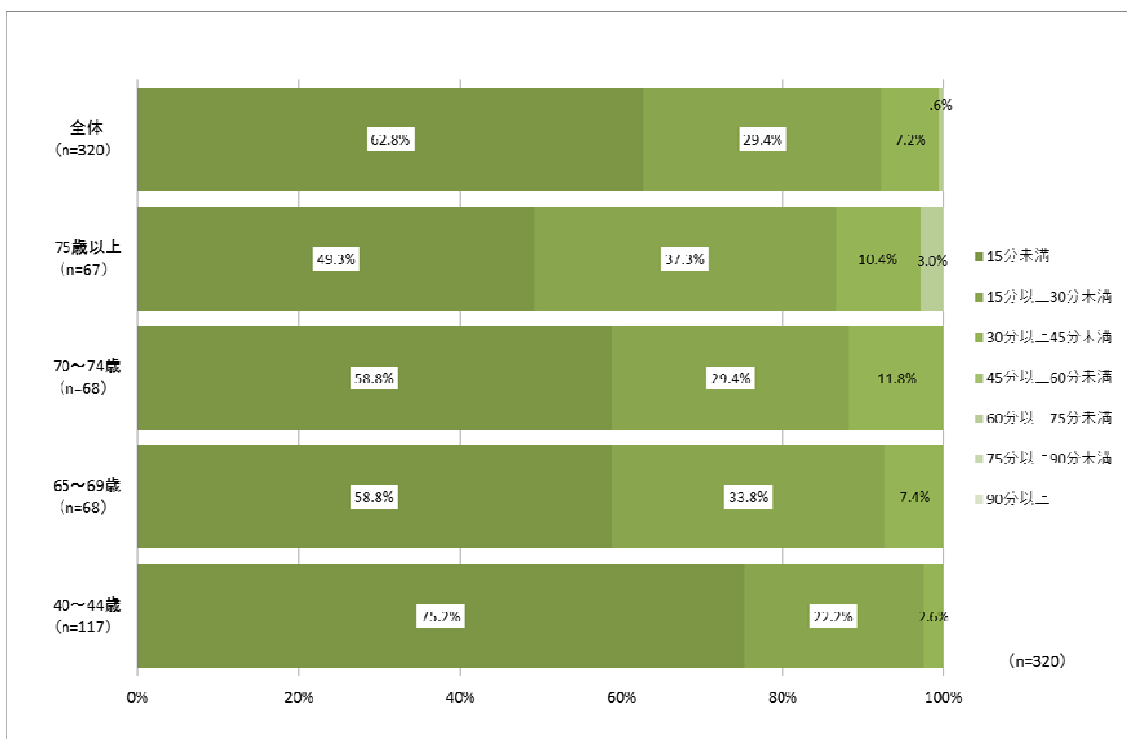


図 3-6b (F) 市役所等の公的機関：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(7) 銀行、郵便局 [Q24- (G)]

(ア) 利用交通手段—銀行、郵便局

銀行、郵便局を訪れる際の理想的な利用交通手段は、「徒歩のみ」が「40～44歳」で68.0%、「65～69歳」で73.4%、「70～74歳」で76.8%、「75歳以上」で68.4%となっており、全ての年齢階層で最も多く、「自転車」がそれに次いでいる（それぞれ29.5%、20.3%、17.1%、16.5%）。

「徒歩のみ」を理想とする人の割合は、現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合（49.2%、59.1%、75.9%、61.5%）より、いずれの年齢階層でも多くなっている。

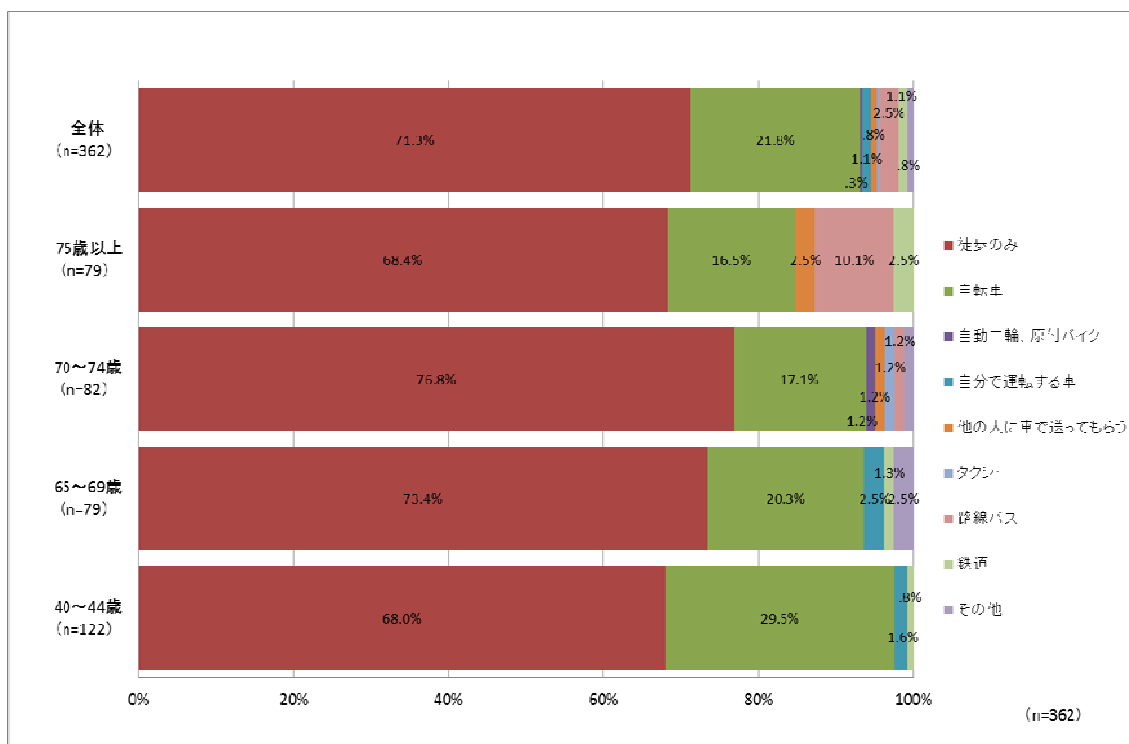


図 3-7a (G) 銀行、郵便局：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—銀行、郵便局

銀行、郵便局へ行く際の理想的な片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で91.5%、「65～69歳」で82.2%、「70～74歳」で80.6%、「75歳以上」で72.9%となっており、全ての年齢階層で圧倒的に多くなっている。

現実の片道所要時間も「15分未満」が「40～44歳」で88.0%、「65～69歳」で84.2%、「70～74歳」で81.8%、「75歳以上」で72.5%と最も多く、理想との差は大きくない。

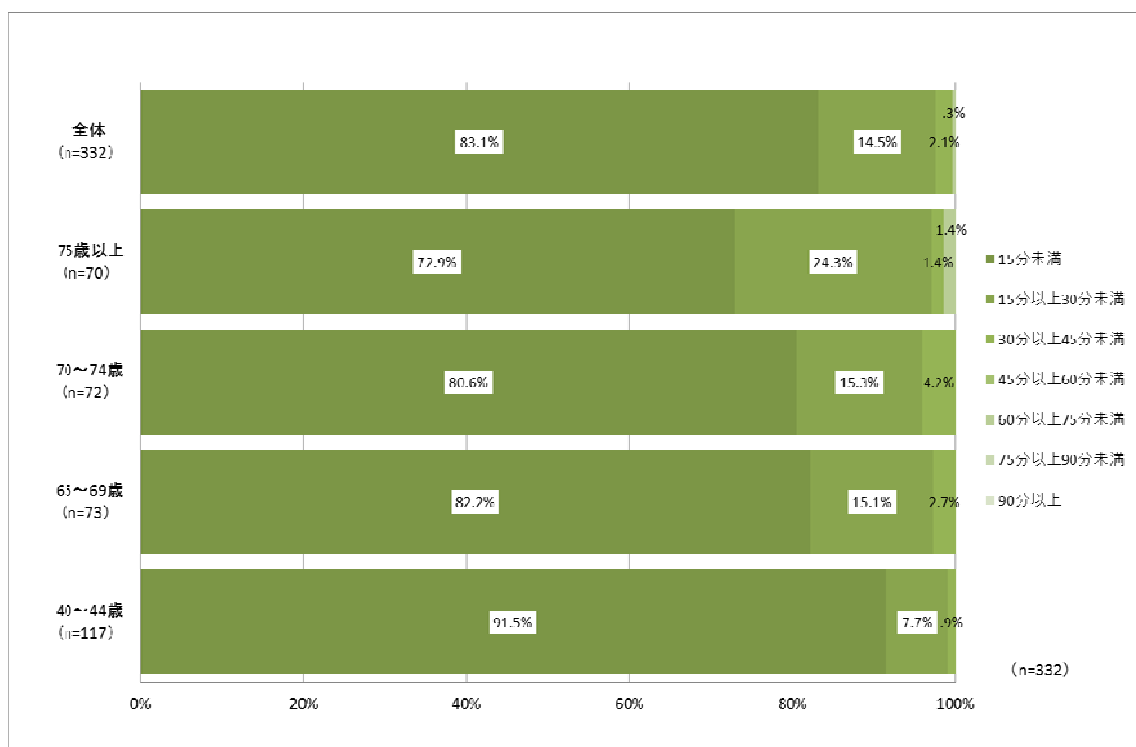


図 3-7b (G) 銀行、郵便局：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(8) 友人・知人などの家〔Q24- (H)〕

(ア) 利用交通手段—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れる際の理想的な交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自転車」(33.9%)、「徒歩のみ」と「鉄道」(各 25.4%)、「自分で運転する車」(9.3%)の順になっている。現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は16.7%であり、理想よりも少ない。

高齢者である「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」が最も多く(それぞれ44.3%、51.5%)、以下、「鉄道」(24.6%、20.6%)、「自転車」(14.8%、17.6%)の順になっている。「徒歩のみ」を理想とする人の割合は、現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(それぞれ31.4%、45.9%)より高い。一方、「自転車」を理想とする人の割合は、現実に「自転車」を利用している人の割合(24.3%、20.3%)より低くなっている。

「75歳以上」の階層でも「徒歩のみ」を理想とする人の割合が最も多い(49.2%)。以下、「鉄道」(16.9%)、「路線バス」(15.4%)、「自転車」(10.8%)の順になっている。現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は49.3%、「鉄道」を利用する人の割合は17.4%となっており、それぞれの手段を理想とする人の割合とあまり変わらない。しかし、「自転車」に関しては、それを理想とする人の割合が現実に利用している人の割合(13.0%)よりやや低く、「路線バス」に関しては、理想の方が現実よりも割合が高い(現実の利用割合は13.0%)。

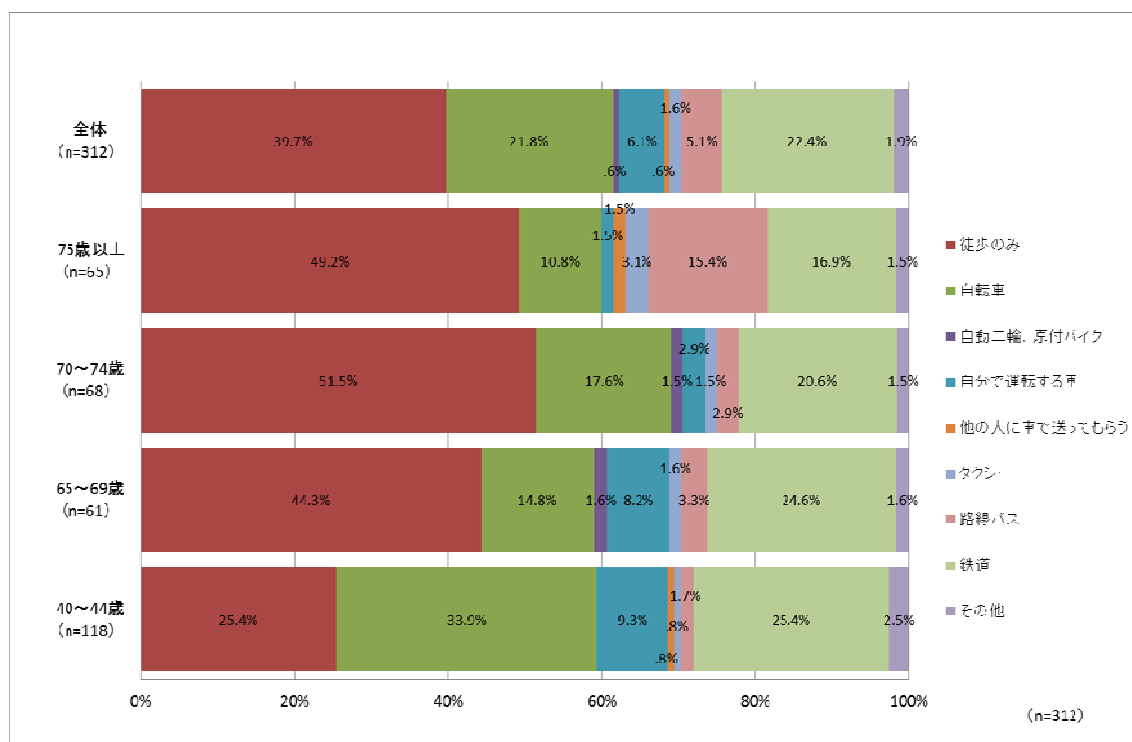


図 3-8a (H) 友人・知人などの家：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

(イ) 片道所要時間—友人・知人などの家

友人・知人などの家を訪れる際の理想的な片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で48.6%、「65～69歳」で45.5%、「70～74歳」で39.3%、「75歳以上」で35.7%となっており、全ての年齢階層で最も多い。

現実の片道所要時間は、「15分未満」の割合が「40～44歳」43.1%、「65～69歳」48.3%、「70～74歳」38.3%、「75歳以上」34.5%となっており、理想の所要時間との差は小さい。

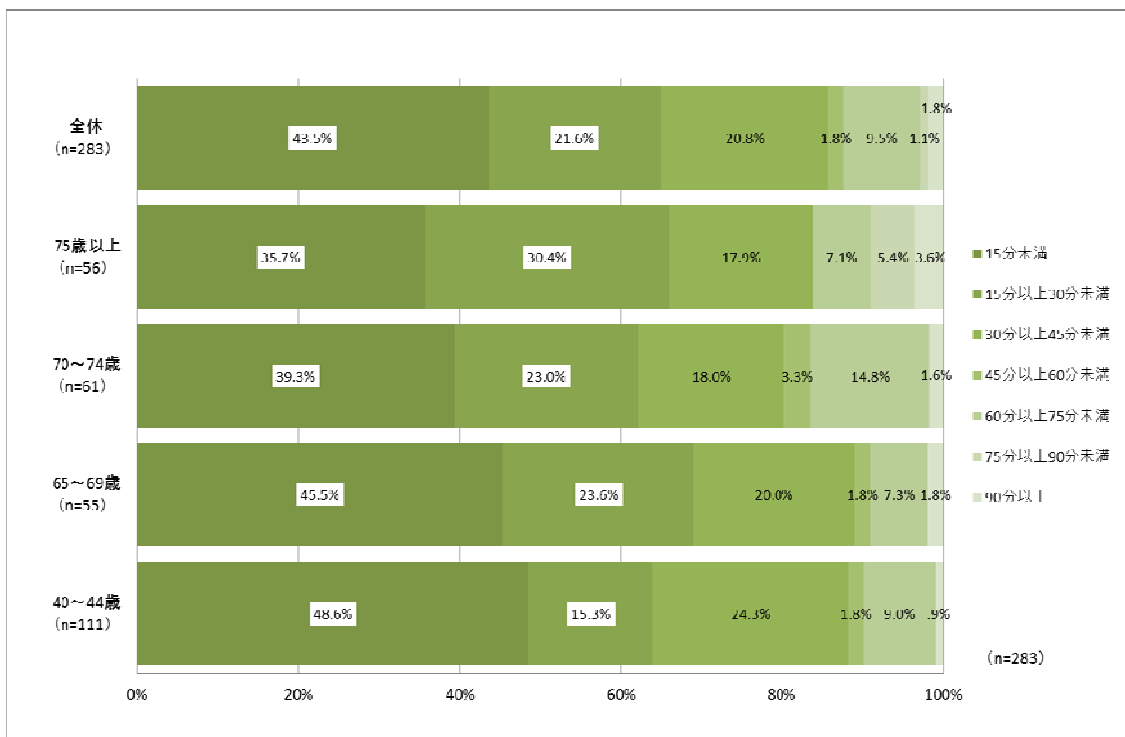
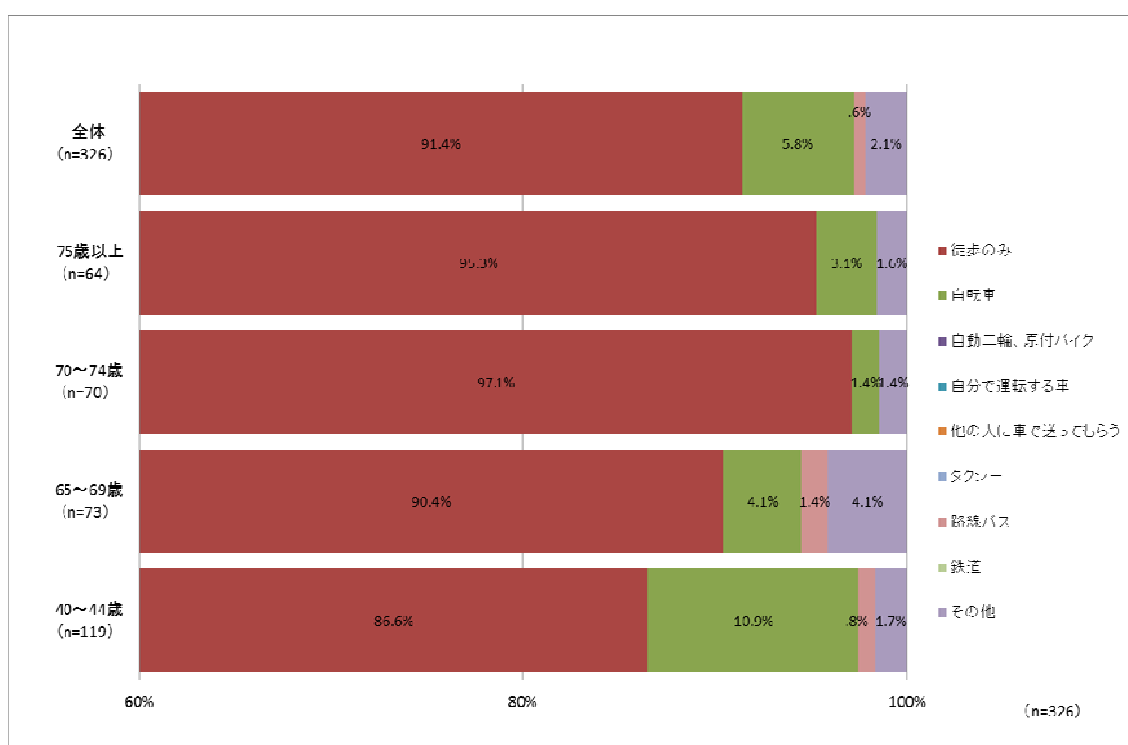


図 3-8b (H) 友人・知人などの家：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(9) 散歩、散策〔Q24- (I)〕

(ア) 利用交通手段—散歩、散策

散歩、散策に出かける際の理想的な交通手段は、「徒歩のみ」が「40～44歳」で86.6%、「65～69歳」で90.4%、「70～74歳」で97.1%、「75歳以上」で95.3%となっており、いずれの年齢階層でも高い割合を占めている。現実的に「徒歩のみ」で移動している人の割合はそれぞれ78.7%、93.4%、97.4%、91.9%で、「40～44歳」では「徒歩のみ」を理想とする人の割合より1割程度下回るが、高齢者グループでは理想と現実の間に大きな差は見られない。



(イ) 片道所要時間—散歩、散策

散歩、散策への理想的な片道所要時間をみると、「40～44歳」と「65～69歳」の階層では、「15分未満」がそれぞれ51.8%、27.0%で最も多いが、「70～74歳」と「75歳以上」の階層では、「30分以上45分未満」が29.0%、43.6%で最も多い。

30分未満が理想だと回答した人の割合は、「40～44歳」の階層では7割以上(74.5%)を占めているが、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、5割を下回っている(それぞれ49.2%、46.8%、32.7%)。

現実の片道所要時間が30分未満である人の割合は「40～44歳」では65.6%で、それを理想とする人の割合よりも1割程度低くなっている。「65～69歳」、「70～74歳」でも、その割合はそれぞれ43.3%、32.3%と、それを理想とする人の割合より若干低いが、その差は1割を超えていない。一方、「75歳以上」では、その割合が42.6%で、それを理想とする人の割合より1割程度高くなっている。

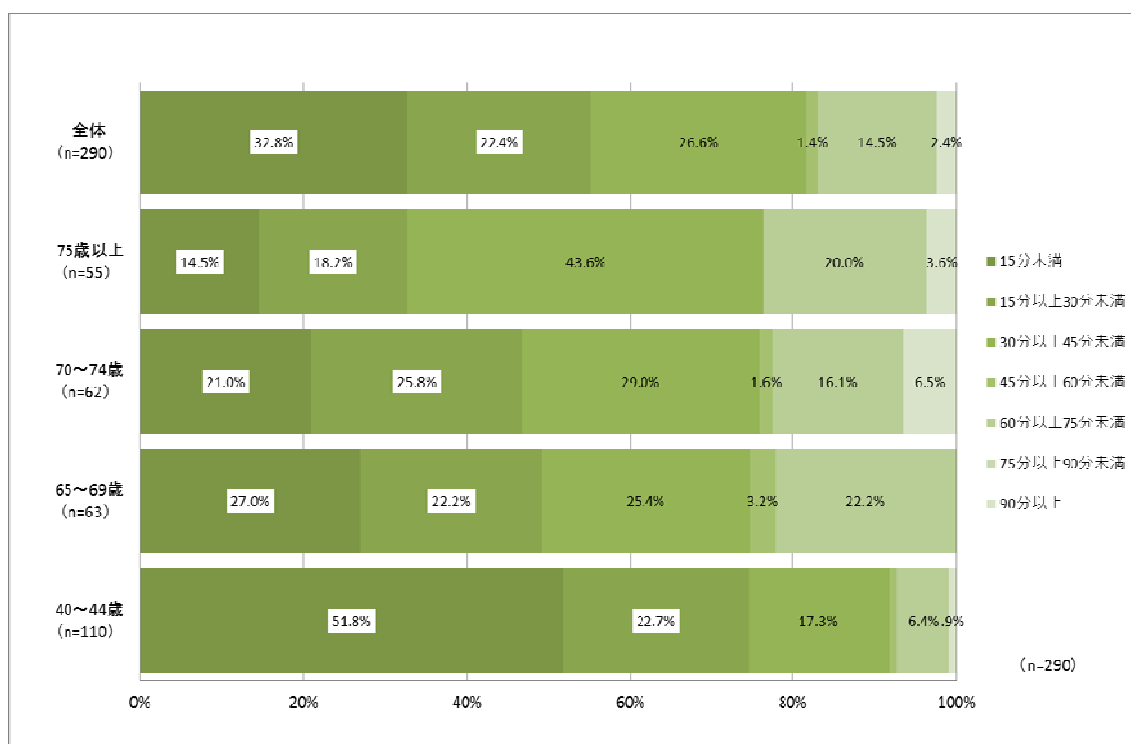


図3-9b (I) 散歩、散策：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(10) 公園 [Q24- (J)]

(ア) 利用交通手段—公園

公園に行く際の理想的な交通手段は、「徒歩のみ」が「40～44歳」で84.9%、「65～69歳」で90.9%、「70～74歳」で95.2%、「75歳以上」で92.2%となっており、いずれの年齢階層でも圧倒的に多い。「75歳以上」の階層では、他の年齢階層には見られない「鉄道」が3.9%を占めている。

現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合は年齢の若い階層の順にそれぞれ61.2%、84.8%、93.5%、88.9%であり、全年齢階層でそれを理想とする人の割合を下回る。特に「40～44歳」の階層では現実と理想の差が顕著であり、現実の割合が理想の割合を2割以上下回る。

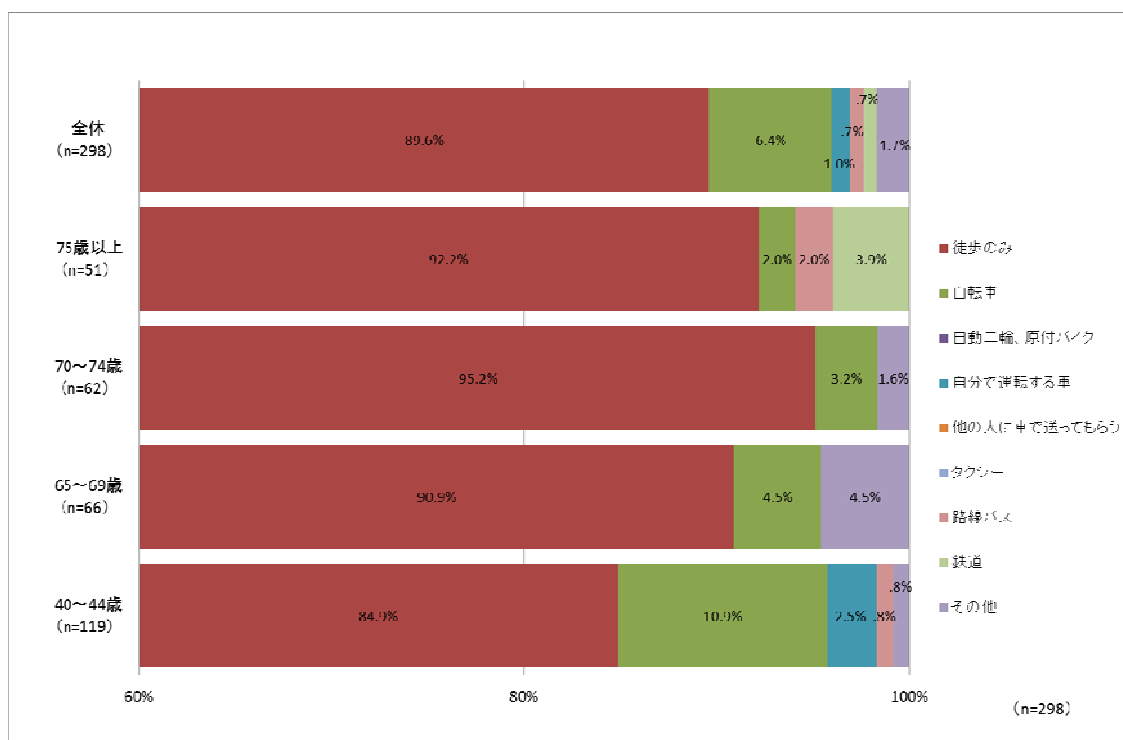


図 3-10a (J) 公園：理想と思われる利用交通手段（単数回答）



(イ) 片道所要時間—公園

公園へ行く際の理想的な片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で77.5%、「65～69歳」で60.7%、「70～74歳」で61.4%、「75歳以上」で60.0%となっており、全ての年齢階層で最も多い。次に多いのは、「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」の階層では「15分以上30分未満」（それぞれ16.2%、21.3%、24.6%）、「75歳以上」の階層では「30分以上45分未満」（20.0%）である。

30分未満が理想であると回答した人の割合は、「40～44歳」で9割程度（93.7%）を占めているが、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」では8割程度（それぞれ82.0%、86.0%、77.8%）しかなく、高齢者グループの方が若干低い。

現実に30分未満で移動している人の割合は、年齢階層順に92.9%、88.7%、76.8%、80.0%であり、「70～74歳」では30分未満を理想とする人の割合の方が若干多いが、他の年齢階層においては現実と理想に大きな差は見られない。

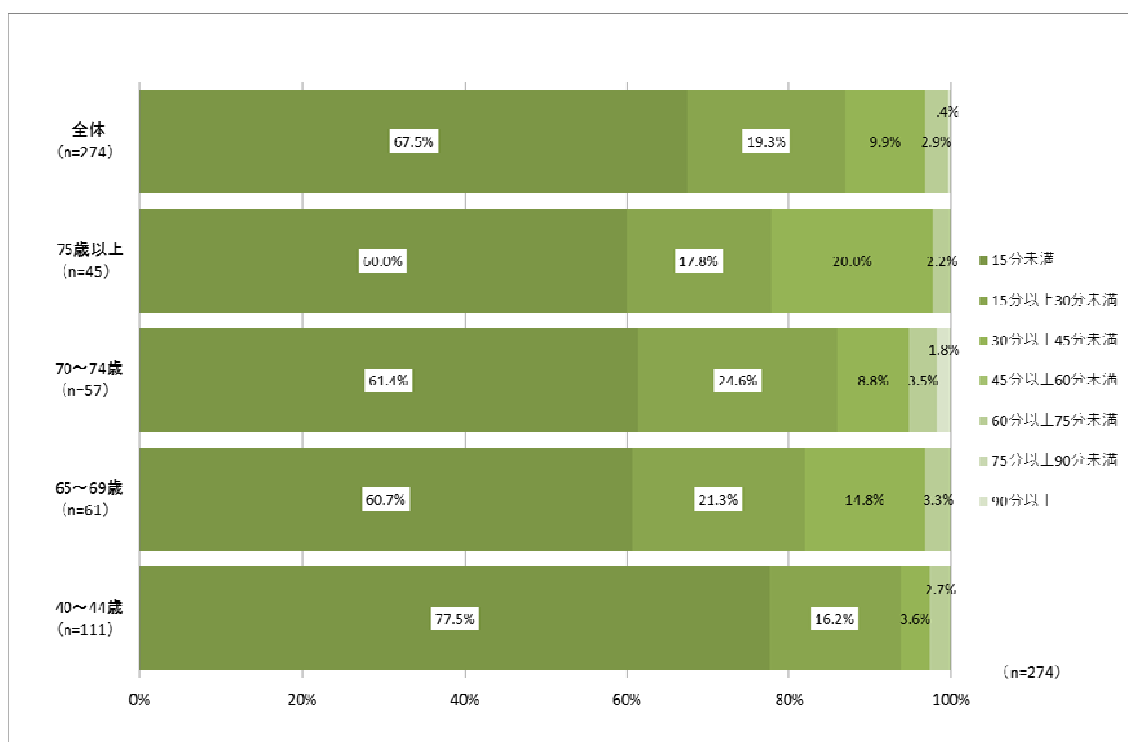


図 3-10b (J) 公園：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

## (11) スポーツ施設〔Q24- (K)〕

### (ア) 利用交通手段—スポーツ施設

スポーツ施設に行く際の理想的な交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自転車」が47.8%と最も多く、次いで「徒歩のみ」が41.7%となっている。現実利用される交通手段は、「自転車」(43.5%)、「徒歩のみ」(21.2%)、「自分で運転する車」(18.8%)の順になっている。「自転車」の利用に関しては現実の割合と理想の割合の差が小さいが、「自分で運転する車」の利用に関しては現実の割合が理想の割合を上回っており、「徒歩のみ」に関しては現実の割合が理想の割合の半分程度になっている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、「徒歩のみ」を理想とする人の割合がそれぞれ57.7%、61.2%、61.5%と5割以上を占めている。次いで「自転車」を理想とする人の割合がそれぞれ25.0%、30.6%、23.1%となっている。「徒歩のみ」に関してはそれを理想とする人の割合が現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合を上回っている。「65～69歳」では、「徒歩のみ」を理想とする人の割合(57.7%)が現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(34.1%)を大幅に上回っている一方で、「自転車」、「自動二輪、原付バイク」、「路線バス」に関しては、それらの手段を理想とする人の割合(それぞれ30.6%、1.9%、1.9%)が現実にそれらの手段で移動している人の割合(38.6%、4.5%、4.5%)を下回っている。また、「70～74歳」では、「徒歩のみ」を理想とする人の割合(61.2%)が現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(47.2%)を顕著に増えている。一方、「自分で運転する車」、「路線バス」を理想とする人の割合(それぞれ2.0%)が現実にこれらで移動している人の割合(8.3%、5.6%)を若干減っている。さらに「75歳以上」では、「徒歩のみ」を理想とする人の割合(61.5%)が現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(46.9%)を顕著に増えている代わりに、「鉄道」、「自転車」を理想とする人の割合(それぞれ7.7%、23.1%)が現実にこれらで移動している人の割合(12.5%、28.1%)を減っている。

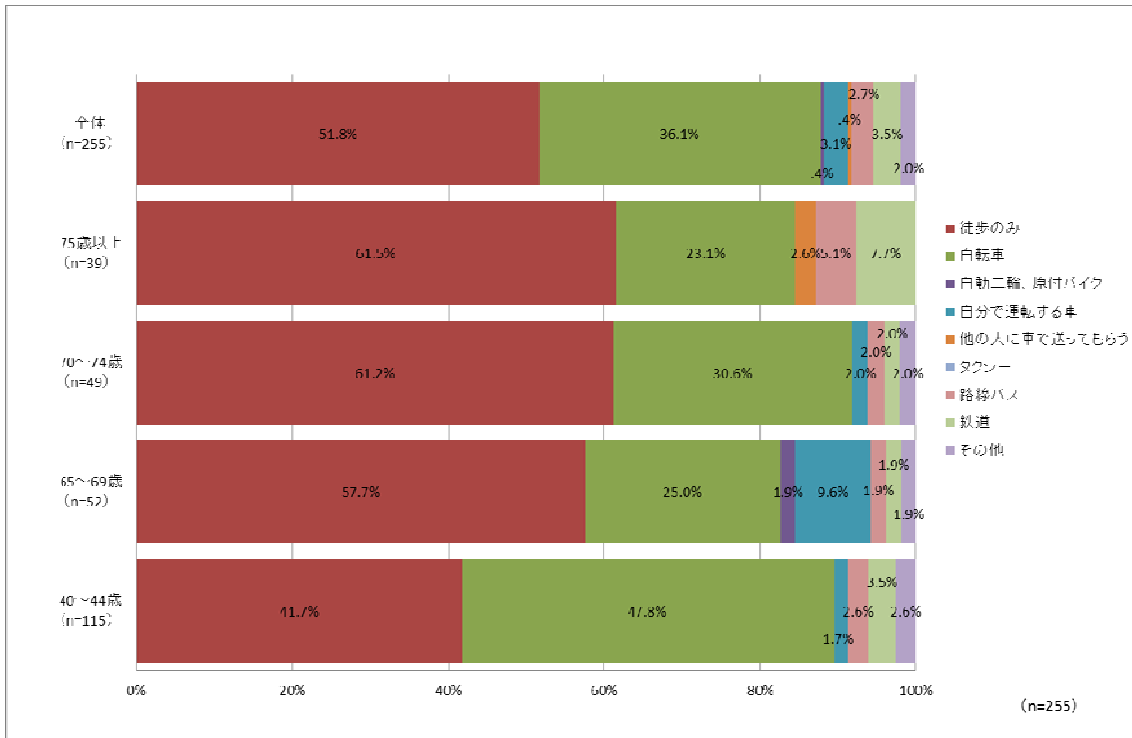


図 3-11a (K) スポーツ施設：理想と思われる利用交通手段（単数回答）

### (イ) 片道所要時間—スポーツ施設

スポーツ施設に行くのにかかる理想の片道所要時間は、「15分未満」が「40～44歳」で70.2%、「65～69歳」で55.8%、「70～74歳」で50.0%、「75歳以上」で60.0%となっており、いずれの年齢階層でも最も多い。現実にかかる時間は、それぞれ54.9%、63.4%、46.9%、29.0%であり、「40～44歳」では2割程度、「75歳以上」では3割程度、理想的な時間を下回っている一方、「65～69歳」と「70～74歳」の階層では現実にかかる時間と理想的な時間の間に大きな差は見られない。

30分未満を理想とする人の割合は、「40～44歳」で92.3%、「65～69歳」で88.5%、「70～74歳」で83.3%、「75歳以上」で80.0%となっており、現実に30分未満かけて移動している人の割合（それぞれ91.5%、85.4%、71.9%、71.0%）と比べると、「40～44歳」と「65～69歳」の階層では現実と理想の間に大きな差が見られないが、「70～74歳」と「75歳以上」の階層では、現実にかかっている時間より理想とする時間の方が1割程度高い。

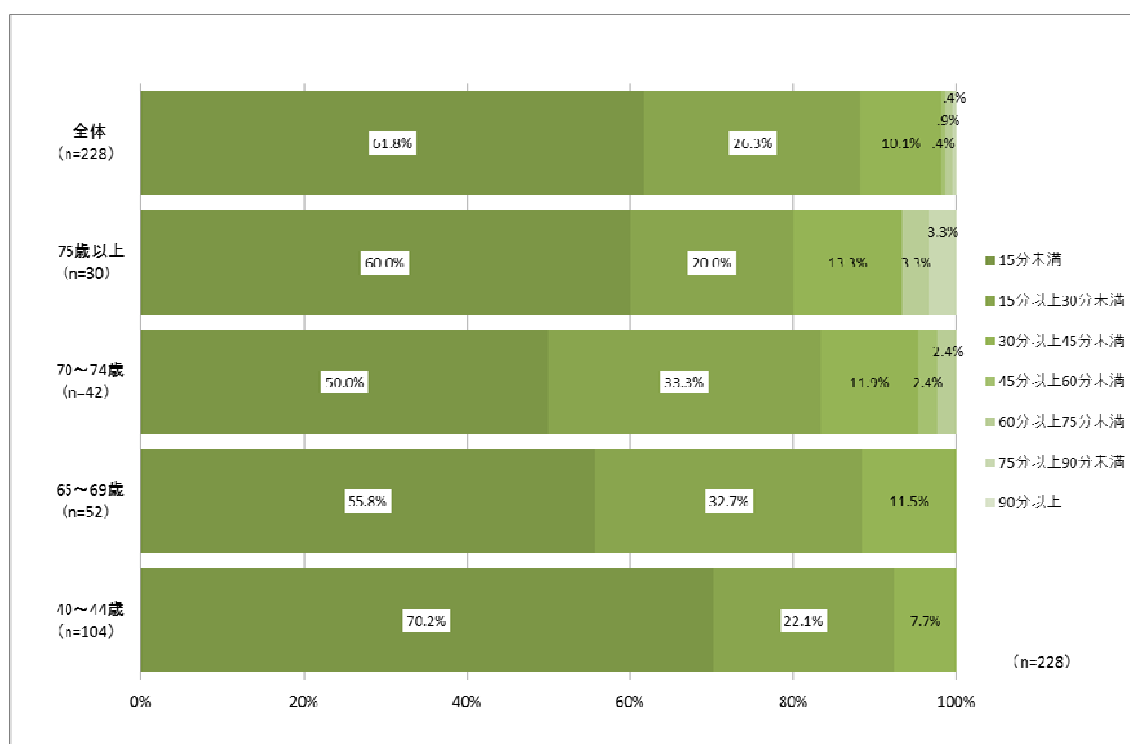


図 3-11b (K) スポーツ施設：理想と思われる片道所要時間（単数回答）

(12) 余暇、レジャー、レクリエーション [Q24- (L)]

(ア) 利用交通手段—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的で外出する際の理想的な利用交通手段をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自分で運転する車」が26.5%、「鉄道」が24.8%、「徒歩のみ」が21.4%となっている。「徒歩のみ」を理想としている人の割合(21.4%)は現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合(7.6%)の3倍程度である。「自転車」に関しては、それを理想の移動手段と考える人の割合(15.4%)が、現実にその手段を利用して移動している人の割合(10.5%)を若干上回っている。

高齢者である「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「徒歩のみ」を理想とする人(それぞれ34.5%、37.7%)が最も多く、「鉄道」を理想とする人(30.9%、19.7%)がそれに次いでいる。現実に「徒歩のみ」で移動している人の割合はそれぞれ10.9%、23.6%であり、それを理想としている人の割合の方を大きく下回る。

また、「75歳以上」の階層では、「鉄道」と「路線バス」を理想とする人がそれぞれ45.5%、25.0%と高い割合を占めている。現実に「路線バス」で移動している人の割合(9.6%)はそれを理想とする人の半分程度に留まる。

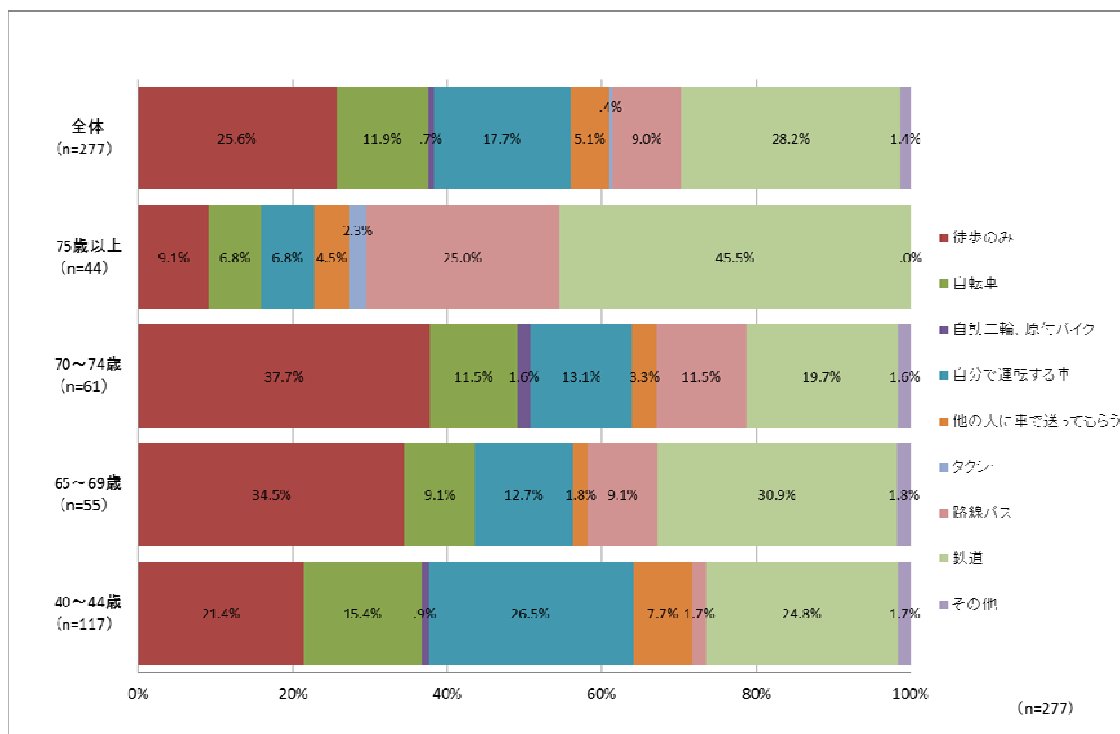


図 3-12a (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：理想と思われる利用交通手段 (単数回答)

(イ) 片道所要時間—余暇、レジャー、レクリエーション

余暇、レジャー、レクリエーション目的で外出する際の理想的な片道所要時間をみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「30分以上45分未満」(27.9%)が最も多く、以下、「15分未満」(25.0%)、「60分以上75分未満」(20.2%)、「15分以上30分未満」(19.2%)の順になっている。45分未満が理想であると回答した人の割合は、7割以上(72.1%)を占めており、現実に45分未満で移動している人の割合(46.6%)より大幅に高い。

高齢者である「65～69歳」と「70～74歳」の階層では、「60分以上75分未満」(それぞれ23.4%、26.4%)を理想とする人が最も多く、「30分以上45分未満」(21.3%、22.6%)がそれに次いでいる。また、「75歳以上」の階層では、「30分以上45分未満」(33.3%)を理想とする人が最も多く、「15分以上30分未満」(25.0%)がそれに次いでいる。45分未満が理想であると回答した人の割合は、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」でそれぞれ59.6%、56.6%、69.4%を占めており、現実に45分未満で移動している人の割合(それぞれ51.2%、45.2%、54.8%)よりも高くなっている。



図 3-12b (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：理想と思われる片道所要時間 (単数回答)

#### 4. 外出目的別の重要度

本節では、無回答を「重要ではない」に含めて集計している。

##### (1) 通勤・通学〔Q25－(A)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、通勤・通学が「最も重要」と回答した人の割合は59.5%、「やや重要」と回答した人の割合は28.6%で、それら2つを合わせると約9割(88.1%)に上る。

一方、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、通勤・通学が「最も重要」と回答した人の割合がそれぞれ16.7%、11.5%、6.9%、「やや重要」と回答した人の割合が10.8%、9.6%、2.6%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は27.5%、21.2%、9.5%であり、高齢者グループでは「40～44歳」よりも大幅に低くなっている。

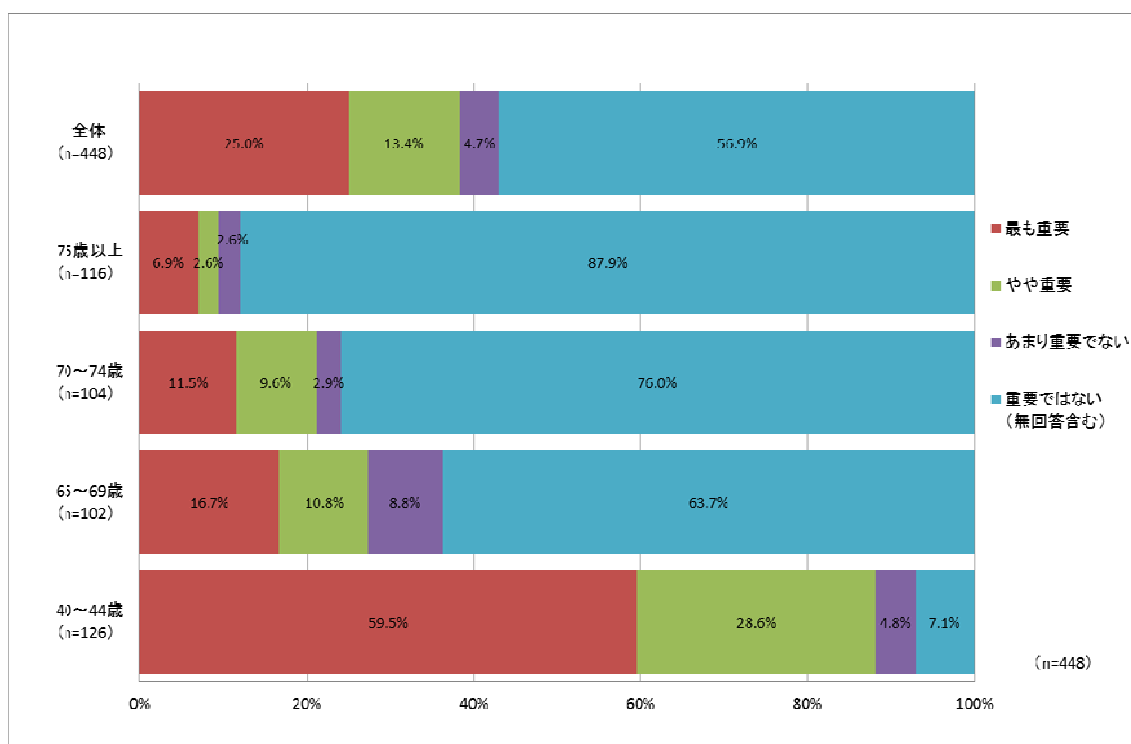


図 4-1 (A) 通勤・通学：重要度 (単数回答)

## (2) 定期的に通う病院〔Q25- (B)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、定期的に通う病院が「最も重要」と回答した人の割合は23.8%、「やや重要」と回答した人の割合は59.5%で、「やや重要」と回答した人の方が2倍以上多い。また、これら2つの割合の合計は83.3%になり、8割以上が重要であると回答したことになる。

一方、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、定期的に通う病院が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ35.3%、36.5%、46.6%、「やや重要」と回答した人の割合は32.4%、26.9%、19.0%であり、「最も重要」と回答した人の割合の方が高く、年齢の高い階層ほど高くなっている。「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で67.6%、「70～74歳」で63.5%、「75歳以上」で65.5%である。それぞれ6割以上を占めているが、「40～44歳」の割合よりは低い。

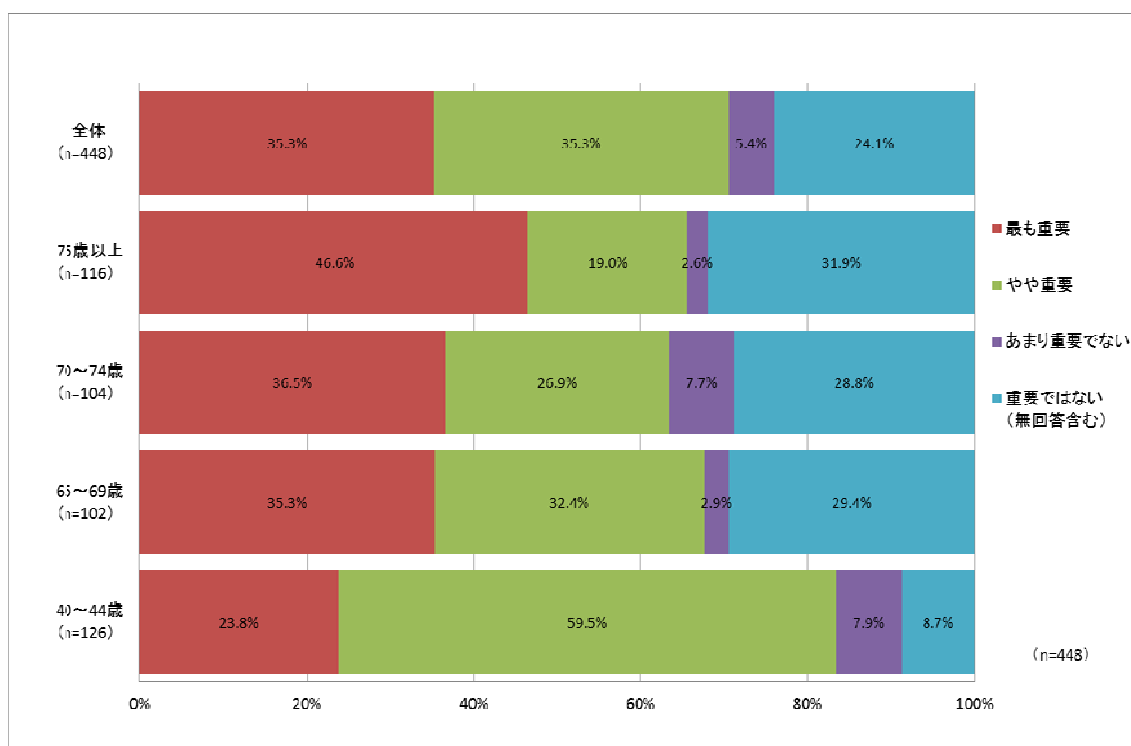


図4-2 (B) 定期的に通う病院：重要度（単数回答）



### (3) 食料品・日用品の買い物【Q25- (C)】

非高齢者である「40～44歳」の階層で、食料品・日用品の買い物が「最も重要」と回答した人の割合は61.9%、「やや重要」と回答した人の割合は30.2%である。以上2つを合わせると全体の9割以上(92.1%)になる。

一方、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、食料品・日用品の買い物が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ48.0%、36.5%、33.6%であり、「40～44歳」の61.9%より顕著に低い。また、「やや重要」と回答した人の割合は、「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層でそれぞれ30.4%、26.0%、24.1%である。これら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は「40～44歳」よりは低いものの、「65～69歳」が78.4%、「70～74歳」が62.5%、「75歳以上」が57.8%であり、全体の5割以上を占めている。しかし、年齢の高い階層ほど、重要であると回答した人の割合は小さくなる傾向が見られる。

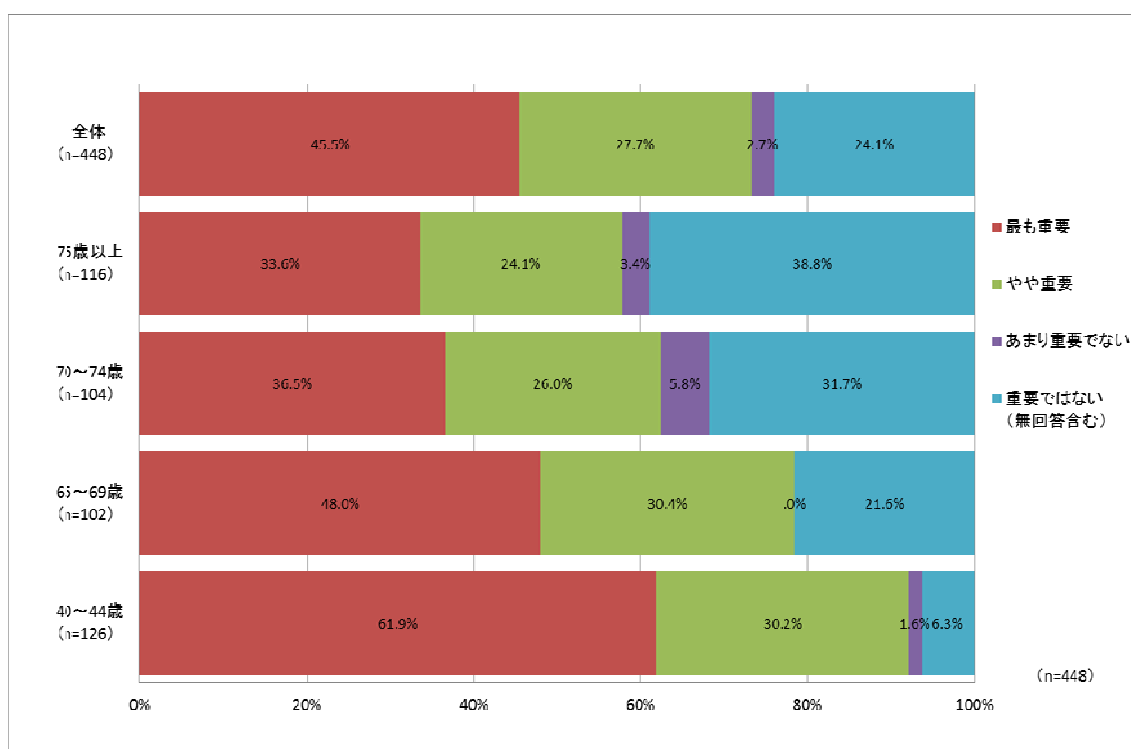


図4-3 (C) 食料品・日用品の買い物：重要度（単数回答）

#### (4) 食料品・日用品以外の買い物〔Q25- (D)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、食料品・日用品以外の買い物が「最も重要」と回答した人の割合は20.6%、「やや重要」と回答した人の割合は46.0%で、後者が前者を大きく上回る。また、2つの割合を合わせると66.7%になり、6割以上が重要であると回答したことになる。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、食料品・日用品以外の買い物が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ7.8%、5.8%、6.9%と低く、「40～44歳」(20.6%)より非常に低い。また、「やや重要」と回答した人の割合がそれぞれ41.2%、31.7%、30.2%であり、「最も重要」と「やや重要」の割合を合計すると、「65～69歳」で49.0%、「70～74歳」で37.5%、「75歳以上」で37.1%になり、「40～44歳」の66.7%よりも小さい。「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、食料品・日用品以外の買い物の場合の方が、食料品・日用品の買い物の場合(「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の順に78.4%、62.5%、57.8%)よりも小さい。

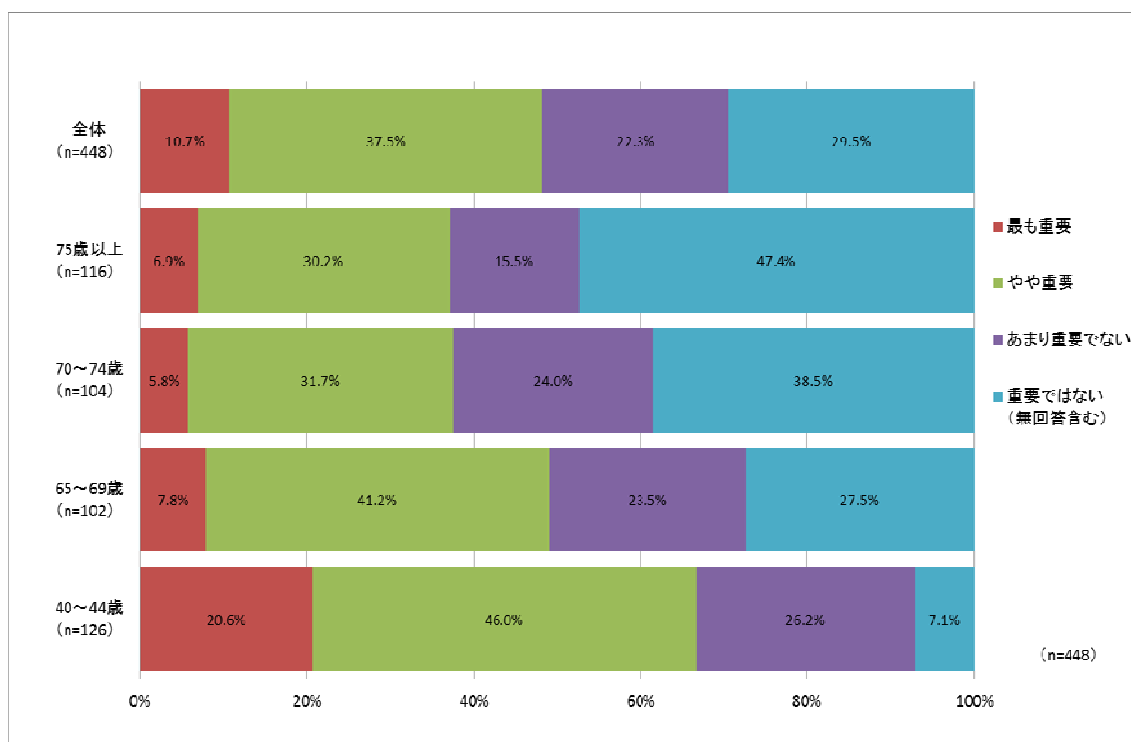


図 4-4 (D) 食料品・日用品以外の買い物：重要度 (単数回答)

(5) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）〔Q25-（E）〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、集会施設が「最も重要」と回答した人の割合は3.2%、「やや重要」と回答した人の割合は15.1%となっている。これら2つを合わせると、18.3%になる。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、集会施設が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ6.9%、5.8%、3.4%、「やや重要」と回答した人の割合は16.7%、20.2%、12.1%である。これら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で23.5%、「70～74歳」で26.0%、「75歳以上」で15.5%となっている。これらの割合は、「75歳以上」では「40～44歳」よりは若干小さいものの、「65～69歳」と「70～74歳」の階層では「40～44歳」より高い。

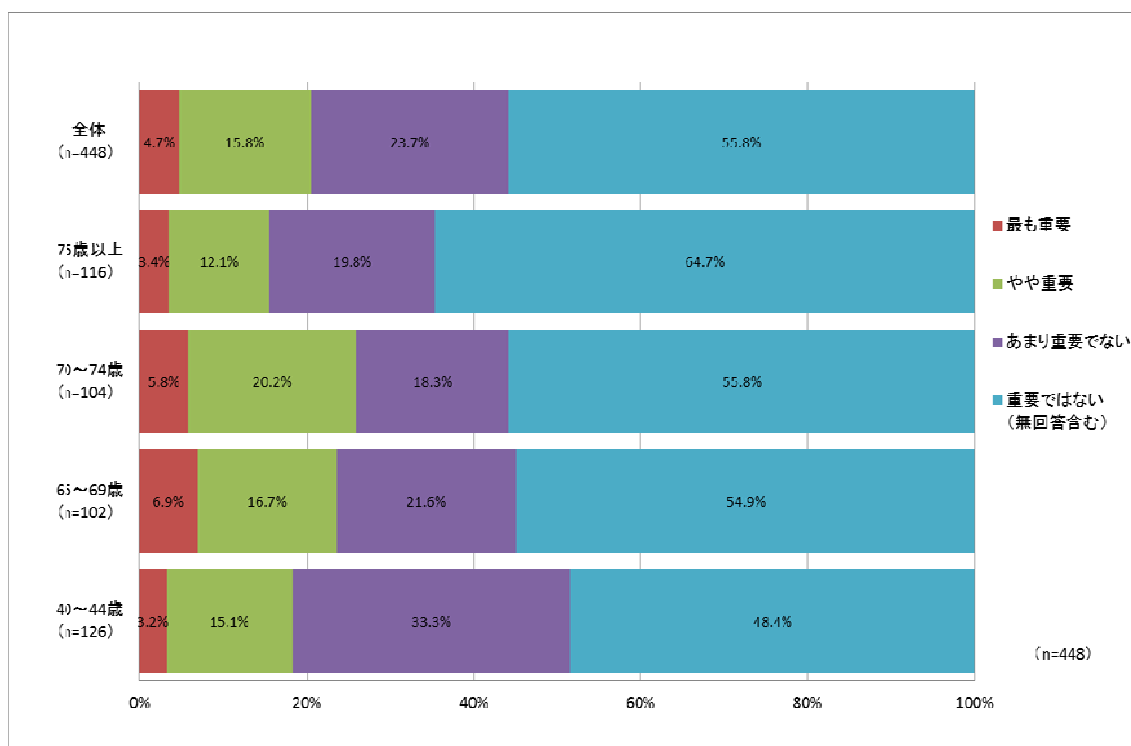


図4-5 (E) 集会施設（公民館、老人福祉センターなど）：重要度（単数回答）

(6) 市役所等の公的機関〔Q25- (F)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、市役所等の公的機関が「最も重要」と回答した人の割合は6.3%、「やや重要」と回答した人の割合は42.9%で、「やや重要」の方が大幅に多い。これら2つを合わせると49.2%になる。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、公的機関が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ11.8%、13.5%、13.8%であり、「40～44歳」よりも高く、年齢の高い階層ほど高くなっている。「やや重要」と回答した人の割合は高齢者の年齢階層順に36.3%、26.9%、32.8%であり、「40～44歳」よりも低い。「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で48.0%、「70～74歳」で40.4%、「75歳以上」で46.4%となり、「40～44歳」よりも若干低い。

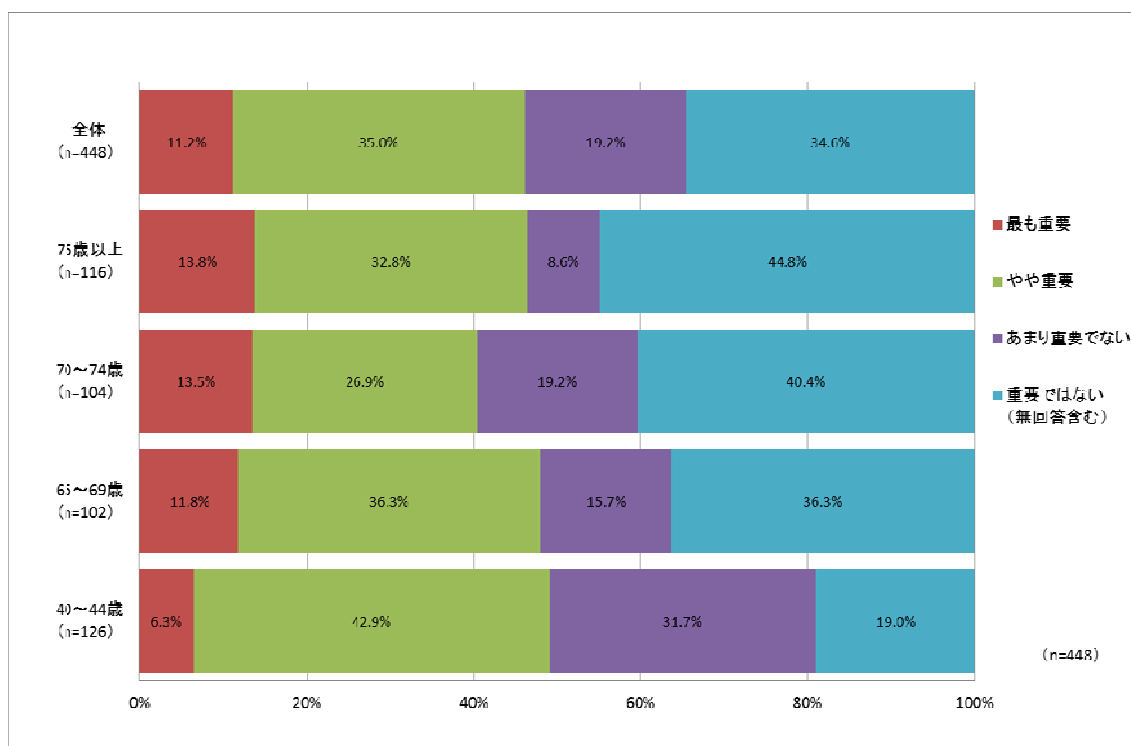


図 4-6 (F) 市役所等の公的機関：重要度 (単数回答)

(7) 銀行、郵便局 [Q25- (G)]

非高齢者である「40～44歳」の階層で、銀行、郵便局が「最も重要」と回答した人の割合は21.4%、「やや重要」と回答した人の割合は60.3%で、以上2つで81.7%を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、銀行、郵便局が「最も重要」と回答した人はそれぞれ26.5%、27.9%、26.7%、「やや重要」と回答した人は38.2%、32.7%、28.4%を占めている。それら「最も重要」と「やや重要」を合計した割合は、「40～44歳」よりは低いが、「65～69歳」で64.7%、「70～74歳」で60.6%、「75歳以上」で55.2%と全体の5割以上を占めている。

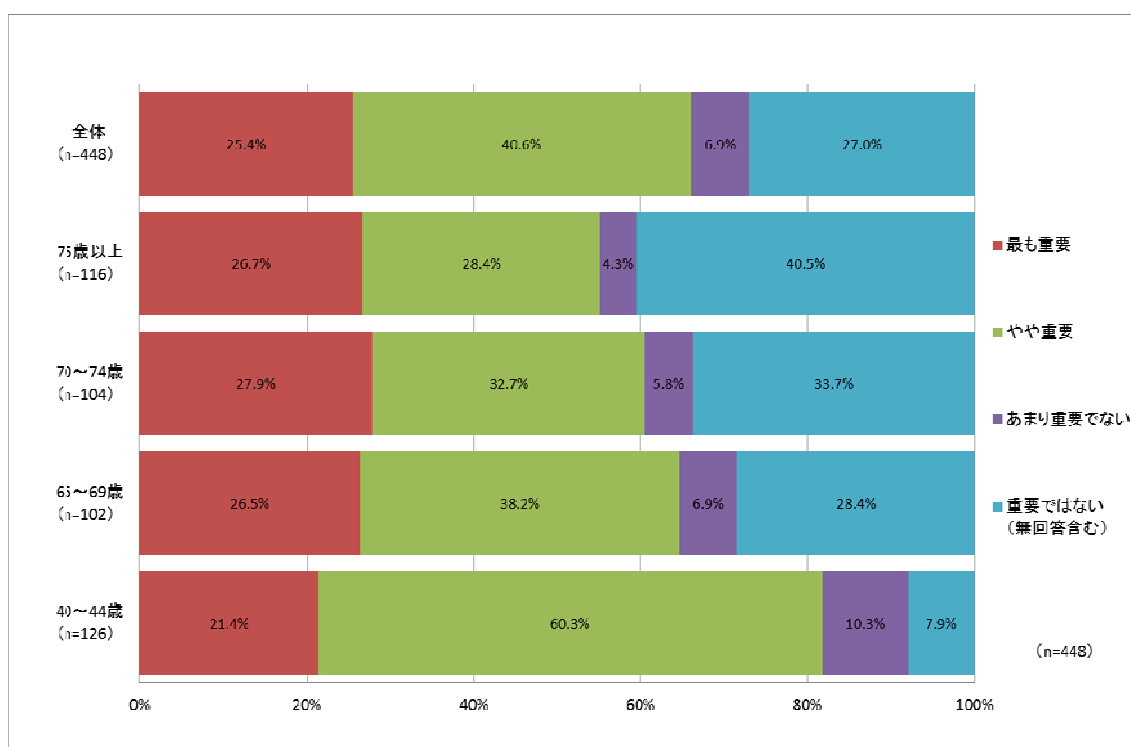


図 4-7 (G) 銀行、郵便局：重要度 (単数回答)

(8) 友人・知人などの家〔Q25- (H)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、友人・知人などの家を訪れることが「最も重要」と回答した人の割合は5.6%、「やや重要」と回答した人の割合は31.7%で、以上2つで37.3%を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、友人・知人などの家を訪れることが「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ5.9%、6.7%、4.3%、「やや重要」と回答した人の割合は21.6%、26.9%、22.4%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で27.5%、「70～74歳」で33.7%、「75歳以上」で26.7%となっており、「40～44歳」よりも低い。

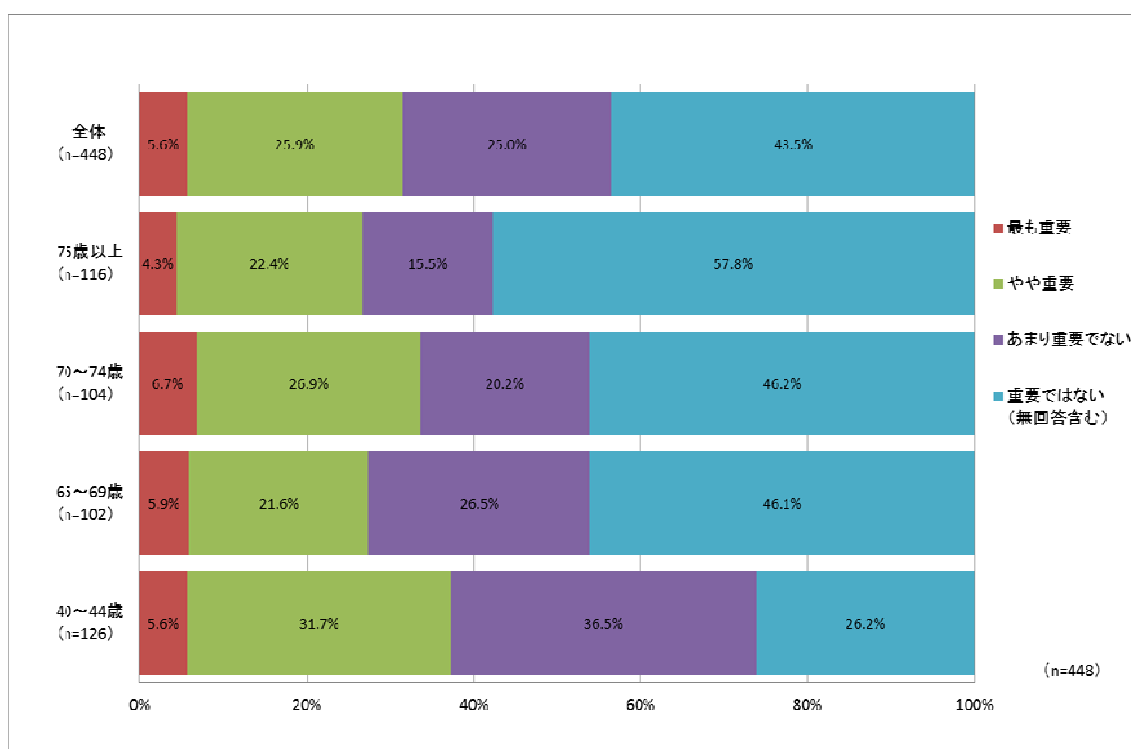


図 4-8 (H) 友人・知人などの家：重要度 (単数回答)

### (9) 散歩、散策〔Q25- (I)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、散歩、散策が「最も重要」と回答した人の割合は5.6%、「やや重要」と回答した人の割合は32.5%で、それら2つで約4割(38.1%)を占める。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、散歩、散策が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ9.8%、11.5%、4.3%、「やや重要」と回答した人の割合は37.3%、29.8%、19.8%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」では47.1%と「40～44歳」よりも高いが、「70～74歳」では41.3%と同程度であり、「75歳以上」では24.1%と顕著に低くなっている。

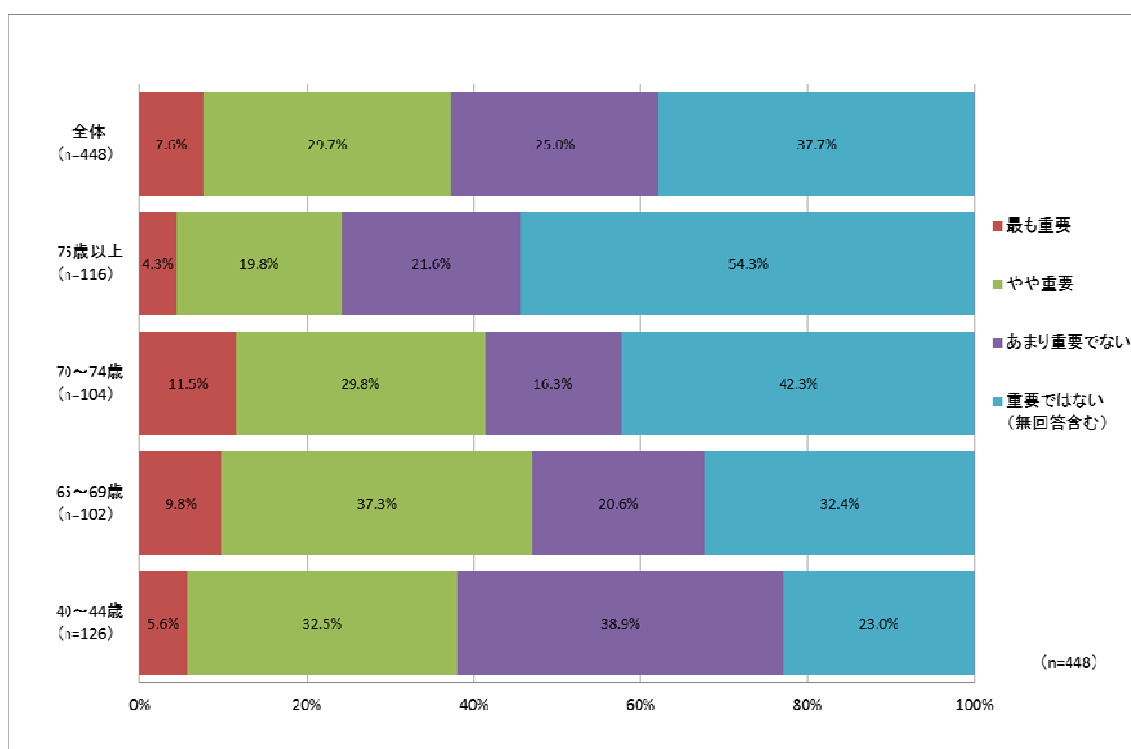


図4-9 (I) 散歩、散策：重要度 (単数回答)

(10) 公園 [Q25- (J)]

非高齢者である「40～44歳」の階層で、公園への外出が「最も重要」と回答した人の割合は7.1%、「やや重要」と回答した人の割合は36.5%で、それら2つで43.7%を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、公園への外出が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ5.9%、4.8%、0.9%、「やや重要」と回答した人の割合は26.5%、24.0%、7.8%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で32.4%、「70～74歳」で28.8%、「75歳以上」で8.6%となっており、高齢になるほど低くなっている。特に「75歳以上」の階層では、公園への外出が重要であると回答した人の割合は8.6%と非常に低い。

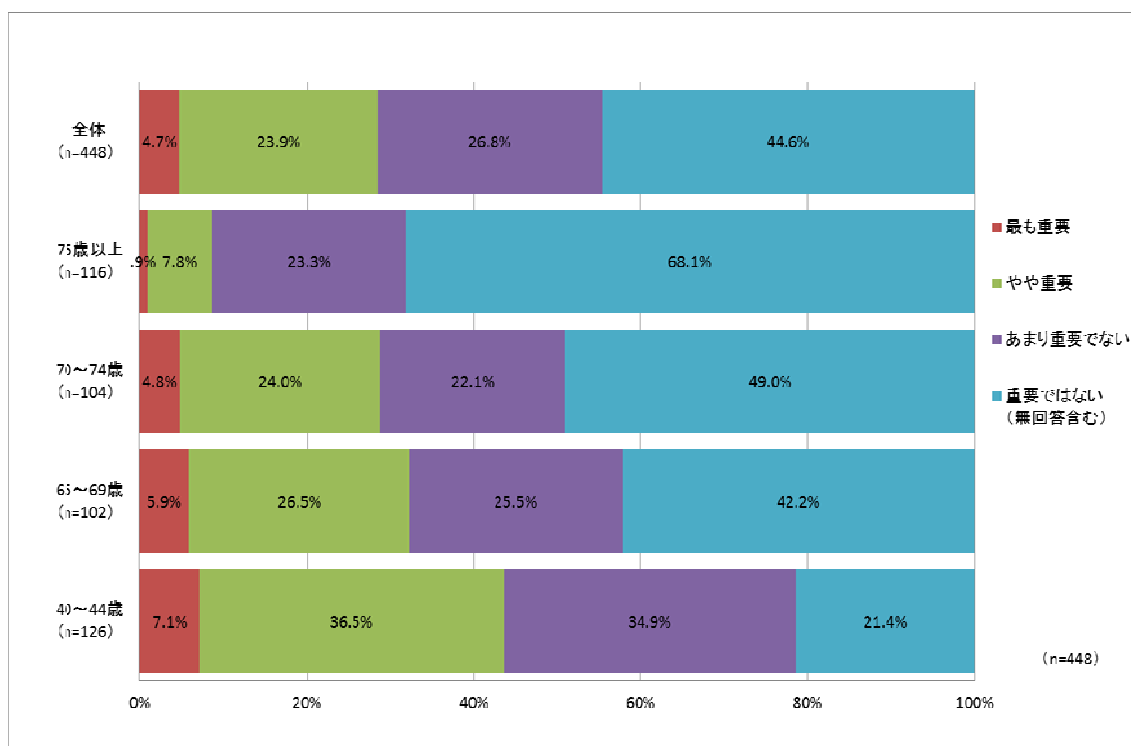


図 4-10 (J) 公園：重要度 (単数回答)



(11) スポーツ施設【Q25- (K)】

非高齢者である「40～44歳」の階層で、スポーツ施設訪問が「最も重要」と回答した人の割合は7.1%、「やや重要」と回答した人の割合は24.6%で、それら2つで31.7%を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、スポーツ施設訪問が「最も重要」と回答した人の割合は8.8%、5.8%、0.9%、「やや重要」と回答した人の割合は17.6%、18.3%、10.3%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で26.5%、「70～74歳」で24.0%、「75歳以上」で11.2%となっており、年齢の高い階層ほど低くなっている。

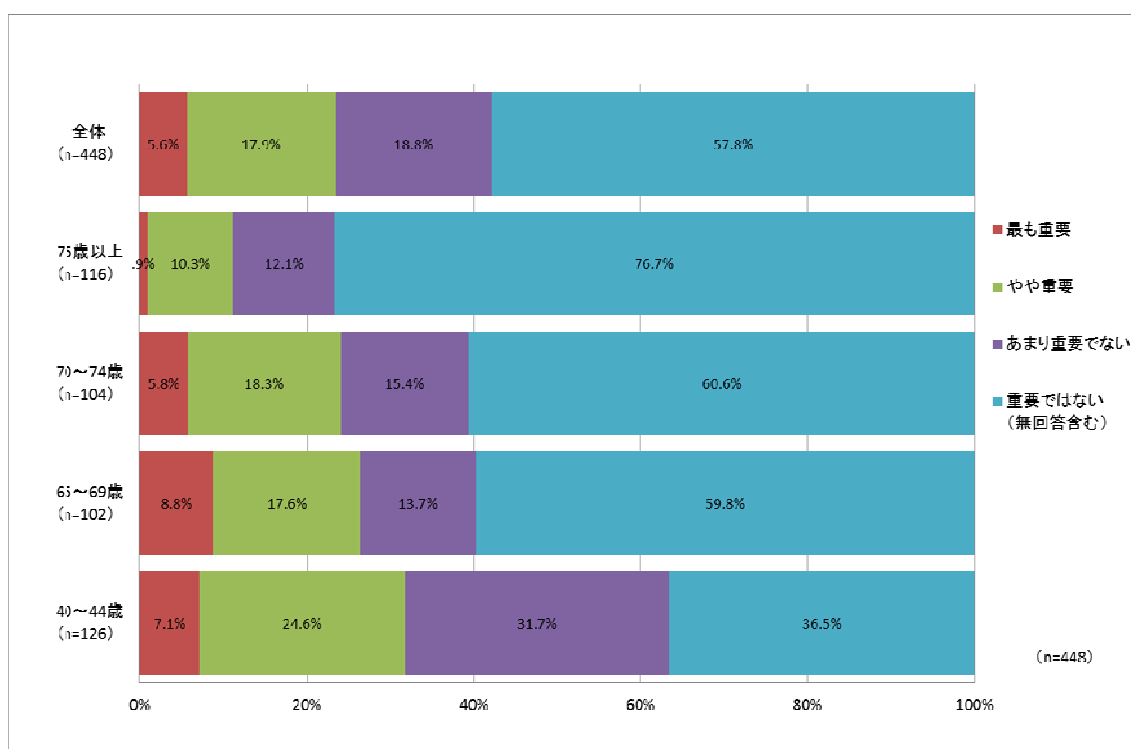


図 4-11 (K) スポーツ施設：重要度 (単数回答)

(12) 余暇、レジャー、レクリエーション〔Q25- (L)〕

非高齢者である「40～44歳」の階層で、余暇、レジャー、レクリエーション目的の外出が「最も重要」と回答した人の割合は11.9%、「やや重要」と回答した人の割合は30.2%で、それら2つで42.1%を占めている。

高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では、余暇、レジャー、レクリエーション目的の外出が「最も重要」と回答した人の割合はそれぞれ2.9%、5.8%、1.7%、「やや重要」と回答した人の割合は12.7%、26.0%、13.8%となっている。それら「最も重要」と「やや重要」の割合の合計は、「65～69歳」で15.7%、「70～74歳」で31.7%、「75歳以上」で15.5%となっており、「40～44歳」よりも低い。

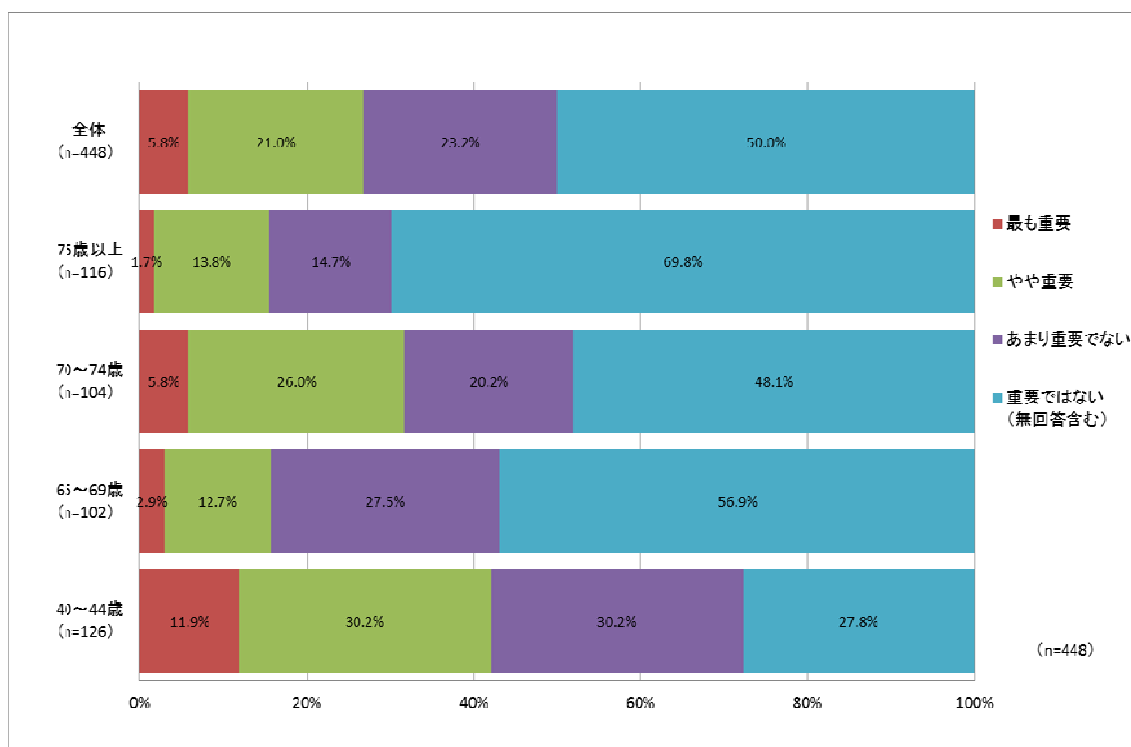


図 4-12 (L) 余暇、レジャー、レクリエーション：重要度 (単数回答)

## 5. 外出する際に問題になること

外出する際に問題になることをみると、非高齢者である「40～44歳」の階層では、「自宅の最寄駅まで遠い」と回答した人の割合が31.5%で最も高い。以下、「電車の料金が低い」（15.2%）、「目的地まで時間がかかる」、「歩道が歩きにくい」、「自動車を使えない（使いづらい）」、「バスの本数が少ない」（それぞれ12.0%）となっている（図5-1）。

高齢者である「65～69歳」の階層では、非高齢者と同様に「自宅の最寄駅まで遠い」と回答した人の割合が最も高い（35.1%）。以下、「徒道が歩きにくい」（28.1%）、「バスの本数が少ない」と「電車の料金が低い」（それぞれ17.5%）、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」（15.8%）となっている（図5-2）。

「70～74歳」の階層では、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」と回答した人の割合が27.9%で最も高く、以下、「自宅の最寄駅まで遠い」（26.2%）、「バスの本数が少ない」（24.6%）、「電車の料金が低い」（18.0%）となっている（図5-3）。

「75歳以上」の階層では、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」と回答した人の割合が39.5%で最も高く、以下、「身体的に徒歩が難しい」（30.3%）、「歩道が歩きにくい」（25.0%）の順となっている（図5-4）。

全年齢階層に共通して高い割合を占めているのは、「自宅の最寄駅まで遠い」、「電車の料金が低い」、「バスの本数が少ない」といった理由である。これらに加えて、高齢者グループでは、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」、「身体的に歩行が難しい」、「歩道が歩きにくい」といった理由が高い割合を占めている。また、回答者は少ないが、「ヘルパーが必要」と回答した人が高齢者に若干見られる（「65～69歳」で1.8%、「70～74歳」で4.9%、「75歳以上」で5.3%）。

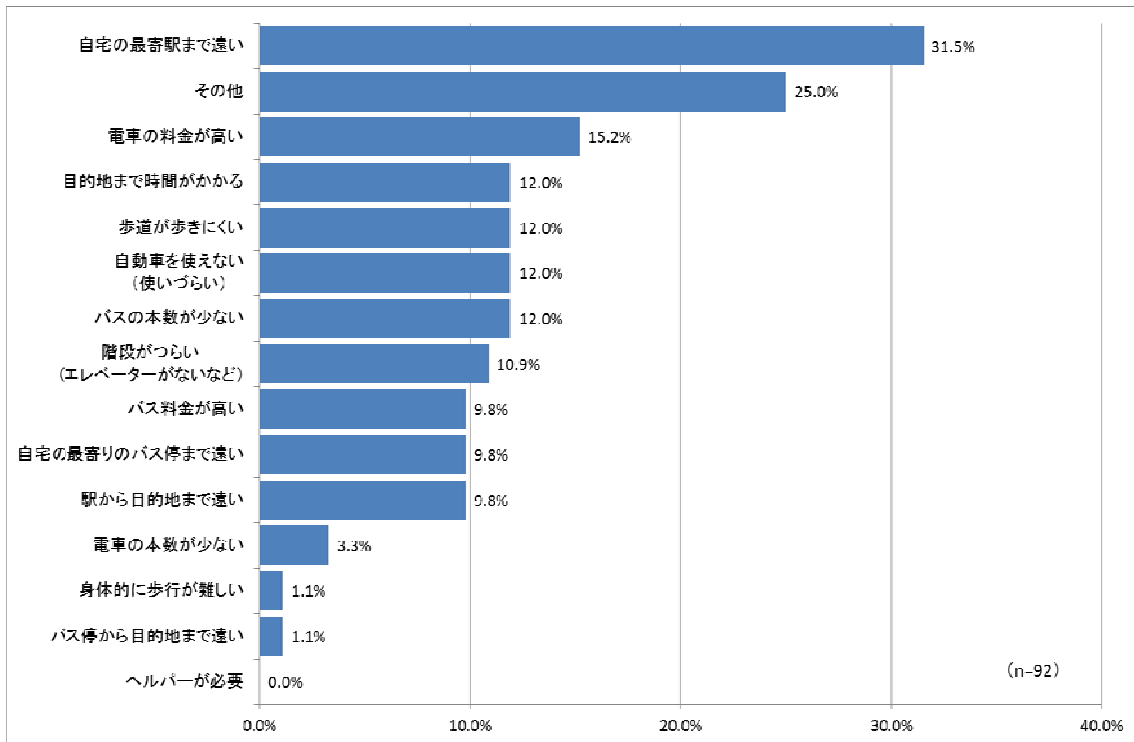


図 5-1 「40～44 歳」: 外出する際に問題になること (複数回答)

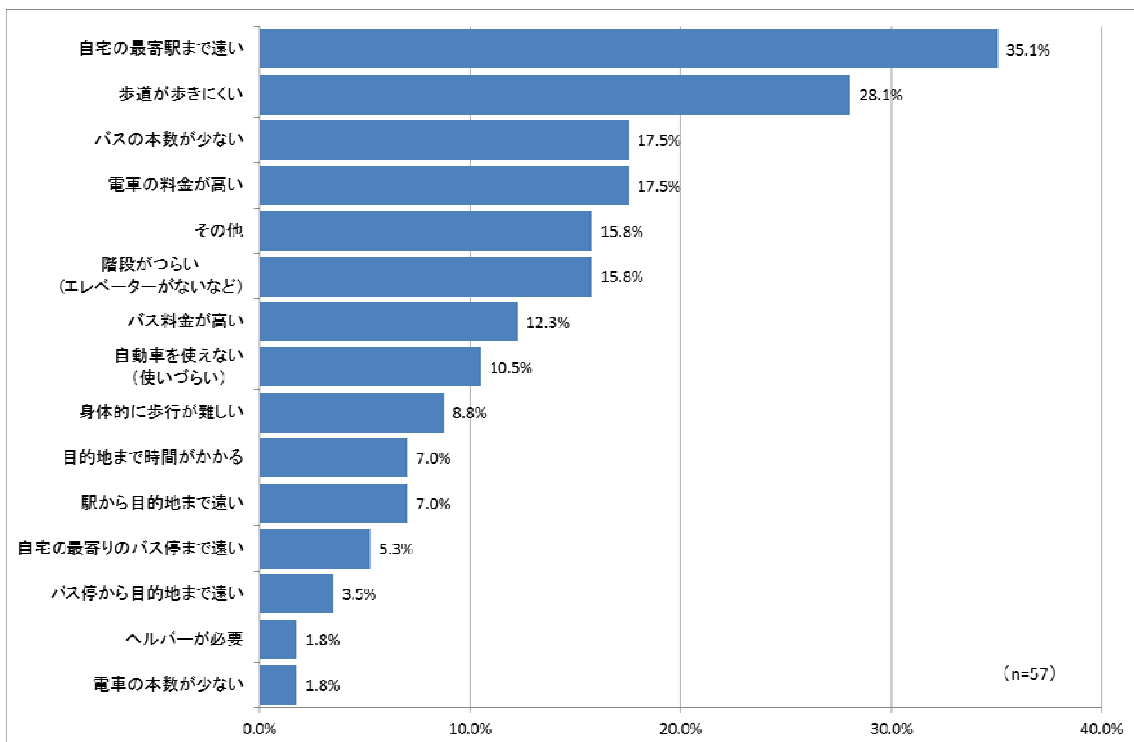


図 5-2 「65～69 歳」: 外出する際に問題になること (複数回答)

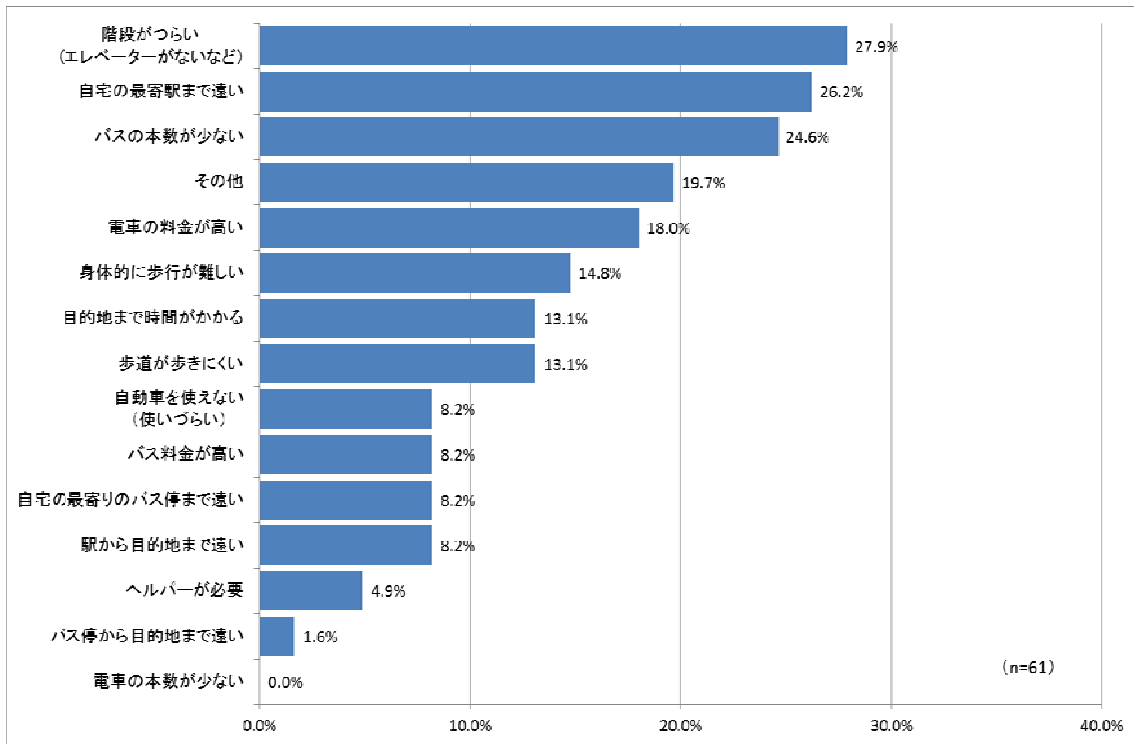


図 5-3 「70～74 歳」: 外出する際に問題になること (複数回答)

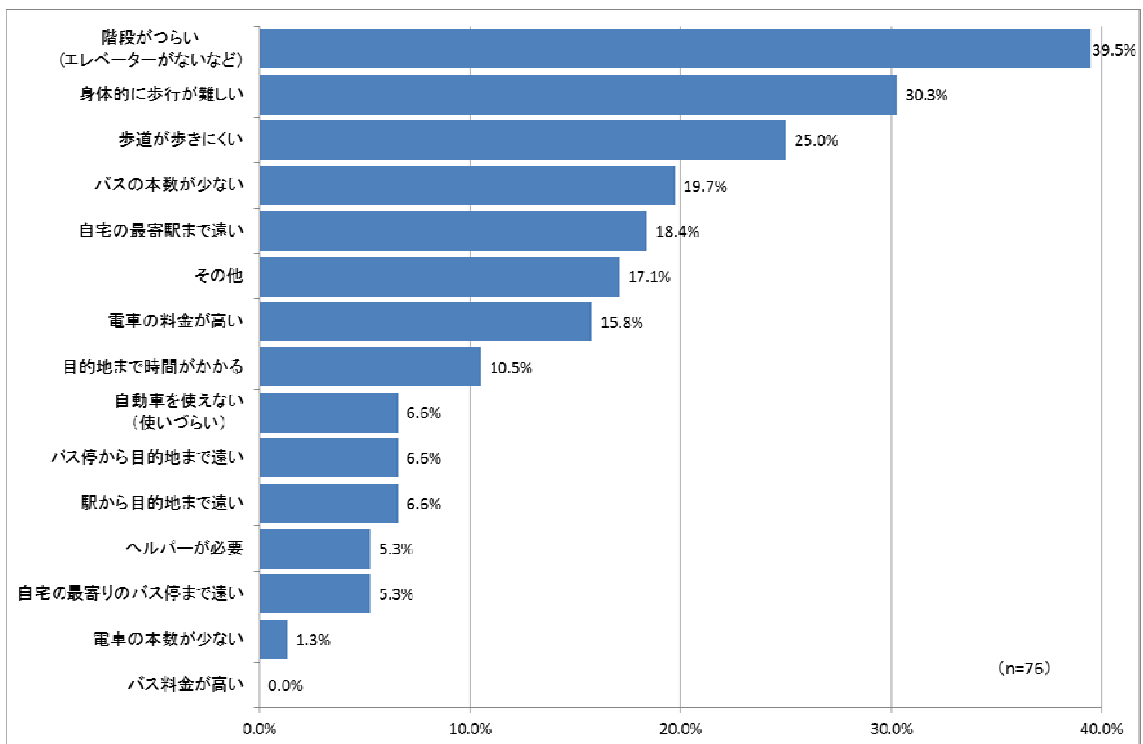


図 5-4 「75 歳以上」: 外出する際に問題になること (複数回答)

### Ⅲ. まとめ

日本の65歳以上の高齢者人口は2010年に23%を超え、本格的な高齢社会を迎えている。このような超高齢社会で何が問題になり、そして問題に対してどう対処していくかを考えることは喫緊の課題である。そのためには、高齢者が、どのような理由でどういった地域に居住するかといった点や、どのような目的・頻度でいかにして都市内を移動しているか点について、実態を明らかにする必要がある。

本調査報告書では、東京23区在住の40～44歳の男女400人、65歳以上の男女800人の計1,200人を対象としたアンケート調査の結果をまとめたものである。このアンケート調査は、高齢者が、どのような理由でどういった地域に居住するかといった点や、どのような目的・頻度でいかにして都市内を移動しているか点について、実態を明らかにすることを目的としている。集計にあたっては、非高齢者である「40～44歳」、高齢者である「65～69歳」、「70～74歳」、「75歳以上」の計4つの年齢階層を区別した。

以下、集計結果を、個人属性、外出目的別の移動状況、理想と思われる移動状況、外出目的別の重要度、外出する際に問題になることの5つのカテゴリー別にまとめる。

#### □個人属性

- ・ 「同居人がいない」又は「1人」であると回答した人の割合は、年齢の高い階層ほど高くなっていった。また、同居人が「配偶者・パートナー」である割合はいずれの年齢階層でも7割以上を占めていた。
- ・ 家計全体の年収（年金を含む）が500万円以上の割合は、「40～44歳」で約7割、高齢者グループでは約3割程度となっており、年齢の高い階層ほど少なかった。一方、家計全体の貯蓄額が500万円以上の割合は、「40～44歳」で約4割、高齢者グループではそれぞれ約6割以上を占め、年齢の高い階層ほど多かった。
- ・ 最終学歴をみると、「40～44歳」では「4年制大学」の割合が3割以上であった一方、高齢者グループでは「高校」の割合がそれぞれ4割程度を占めていた。
- ・ 1週あたり平均勤務日数を訪ねたところ、「働いていない」と回答した人の割合は高齢者グループで5割以上を占め、「40～44歳」より大幅に増えていた。また、働いていると回答した人のうち、1日あたり平均勤務時間が8時間以上であると回答した人の割合が「40～44歳」では7割、高齢者グループでは3割を占め、大きな差が見られた。

#### □外出目的別の移動状況－利用交通手段

- ・ (A) 通勤・通学の利用交通手段は、「40～44歳」の階層より高齢者の方が「徒歩のみ」と「路線バス」の割合が高く、「自転車」の割合は低くなる傾向があった。

- ・ (B) 定期的に通う病院に出かける際の利用交通手段は、「徒歩のみ」の割合はいずれの年齢階層でほとんど変らなかったが、年齢階層が上がるほど、「自転車」の割合は減り、同時に「路線バス」や「タクシー」の割合は増えていた。
- ・ (C) 食料品・日用品の買い物に出かける際の利用交通手段は、年齢が高くなるにつれて、「徒歩」の割合が増え、その分「自転車」や「自分で運転する車」の割合が減る傾向が見られた。
- ・ (D) 食料品・日用品以外の買い物に出かける際の利用交通手段は、いずれの年齢階層でも「鉄道」が3割前後と比較的高い割合を占めていた。鉄道以外の利用交通手段については、年齢階層が上がるほど、「路線バス」と「徒歩のみ」の割合が高く、「自転車」と「自動二輪、原付バイク」の割合が低くなる傾向があった。
- ・ 外出目的が (E) 集会施設、(G) 銀行・郵便局である場合、いずれの年齢階層でも「徒歩のみ」の割合が最も多く、「自転車」がこれが続いた。年齢階層が上がるほど、「徒歩のみ」は多く、「自転車」は少なくなる傾向が見られた。
- ・ 外出目的が (F) 市役所等の公的機関、(H) 友人・知人などの家、(K) スポーツ施設である場合、年齢階層が上がるほど、「徒歩のみ」、「路線バス」の割合は高くなる一方、「自転車」、「自分で運転する車」の割合は低くなる傾向が見られた。
- ・ 外出目的が (I) 散歩、散策、(J) 公園である場合、いずれの年齢階層でも「徒歩のみ」が最も多かった。しかし、高齢になるほど、「徒歩のみ」の割合は高く、逆に「自転車」の割合は低くなる傾向が見られた。
- ・ (L) 余暇・レジャー・レクリエーション目的で外出する際の利用交通手段は、全ての階層で「鉄道」が最も多かった。「路線バス」や「徒歩」の割合は、「40～44歳」より、高齢者の「65～69歳」と「70～74歳」で増えており、「自分で運転する車」の割合は、年齢の上昇とともに劇的に少なくなる傾向があった。

#### □外出目的別の移動状況－片道所要時間

- ・ (A) 通勤・通学にかかる片道所要時間は、「40～44歳」の階層に比べて、「65～69歳」と「70～74歳」の通勤・通学時間が短い傾向が見られた。
- ・ その他の外出目的（(B) 定期的に通う病院、(C) 食料品・日用品の買い物、(D) 食料品・日用品以外の買い物、(E) 集会施設、(F) 市役所等の公的機関、(G) 銀行・郵便局、(H) 友人・知人などの家、(I) 散歩・散策、(J) 公園、(K) スポーツ施設、(L) 余暇・レジャー・レクリエーション）では、「40～44歳」の階層に比べて、高齢者グループの片道所要時間が長くなる傾向があった。

#### □外出目的別の移動状況－同行者

- ・ 外出目的が (A) 通勤・通学、(B) 定期的に通う病院、(E) 集会施設、(F) 市役所等の公的機関、(G) 銀行・郵便局、(H) 友人・知人などの家である場合、いずれの

年齢階層でも「一人で」の割合が7割以上で圧倒的に高い割合を占めていた。

- ・ 外出目的が (C) 食料品・日用品の買い物、(K) スポーツ施設であるの場合、いずれの年齢階層でも「一人で」の割合が全体の5割以上で最も高い割合を占めていた。また、(D) 食料品・日用品以外の買い物に出かける際の同行者をみると、「40～44歳」では「同居家族と」の割合が、高齢者グループでは「一人で」の割合がそれぞれ5割程度で最も高かった。
- ・ (I) 散歩・散策に出かける際の同行者をみると、いずれの年齢階層でも「一人で」と「同居家族と」を合わせた割合は全体の約9割であったが、「一人で」の割合が「40～44歳」では5割程度であるのに対し、高齢者グループでは7割程度を占めていた。
- ・ (J) 公園に出かける際の同行者では、「40～44歳」の階層で「同居家族と」の割合が全体の6割程度で最も高かった。一方、高齢者グループでは「一人で」の割合が5割以上で最も高かった。
- ・ (L) 余暇・レジャー・レクリエーション目的で外出する際の同行者をみると、「40～44歳」、「65～69歳」の階層では「同居家族と」の割合が全体の5割以上で最も高かったが、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では「一人で」の割合が4割以上で最も高かった。
- ・ いずれの年齢階層でも「一人で」の割合が圧倒的に高かった (A) 通勤・通学、(B) 定期的に通う病院、(E) 集会施設、(F) 市役所等の公的機関、(G) 銀行・郵便局、(H) 友人・知人などの家を除いた外出目的では、年齢の高いほど「一人で」の割合は高くなる代わりに「同居家族と」の割合は低くなる傾向が見られた。

#### □外出目的別の移動状況－外出頻度

- ・ (A) 通勤・通学の目的で外出する頻度が「週5日以上」であると回答した人の割合は、年齢階層が高くなるほど低くなる傾向があった。
- ・ 外出目的が (B) 定期的に通う病院、(D) 食料品・日用品以外の買い物、(K) スポーツ施設である場合、その目的で外出する頻度が合わせて週3日以上であると回答した人の割合は、年齢階層が上がるほど高くなる傾向があった。また、(J) 公園に行くために外出する頻度が週3日以上であると回答した人の割合は、「40～44歳」の階層より高齢者グループの方が高く、高齢者の中では年齢の若い階層ほど高くなる傾向があった。
- ・ (C) 食料品・日用品の買い物へ行くために外出する頻度が合わせて週1日以上である割合は、いずれの年齢階層で9割程度を占めていた。また、(F) 市役所等の公的機関への外出頻度が「月1日未満」である割合はいずれの年齢階層で8割以上を、さらに (G) 銀行・郵便局への頻度が合わせて月2日以下である割合は8割程度を占めていた。
- ・ 外出目的が (E) 集会施設、(H) 友人・知人などの家、(I) 散歩・散策、(L) 余暇・



レジャー・レクリエーションである場合、その目的で外出する頻度が合わせて週1日以上であると回答した人の割合は、年齢階層の高いほど増える傾向があった。

#### □理想と思われる移動状況－利用交通手段

- ・ 外出目的が (B) 定期的に通う病院、(C) 食料品・日用品の買い物、(D) 食料品・日用品以外の買い物、(E) 集会施設、(F) 市役所等の公的機関、(G) 銀行・郵便局、(J) 公園である際の理想と思われる利用交通手段は、いずれの年齢階層でも「徒歩のみ」が最も多かった。また、上記の外出目的においては、現実的に「徒歩のみ」で移動している人の割合より顕著に高くなっていた。(I) 散歩・散策のために出かける際の理想と思われる交通手段においても、全ての年齢階層で「徒歩のみ」で移動していると回答した人の割合が最も多かったが、現実の割合に比べるとその差は大きくなかった。
- ・ 現実的に (A) 通勤・通学の外出で利用している交通手段と理想的な交通手段を比べると、「40～44歳」と「75歳以上」の階層では「徒歩のみ」が理想的な交通手段であると回答した人の割合が高くなっていた。一方、「65～69歳」、「70～74歳」では、現実との差が見られなかった。また、(H) 友人・知人などの家を訪ねる際の理想的な交通手段は、「40～44歳」では「自転車」、高齢者グループでは「徒歩のみ」が高くなっていた。
- ・ (L) 余暇・レジャー・レクリエーション目的で外出する際の理想的な交通手段を現実における交通手段と比べると、「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」では「徒歩のみ」が顕著に高くなっていた一方、「75歳以上」では、「路線バス」の割合が2倍以上増えていた。
- ・ 外出目的が (K) スポーツ施設である場合、理想と思われる利用交通手段は、「40～44歳」の階層では、「自転車」の割合が4割程度を占めており、現実的に「自転車」で移動している人の割合とほぼ同じであった。一方、「徒歩のみ」で移動するのが理想であると回答した人の割合は、現実の割合より2倍程度増えていた。

#### □理想と思われる移動状況－片道所要時間

- ・ 外出目的が (A) 通勤・通学、(B) 定期的に通う病院、(I) 散歩・散策である場合、合わせて30分未満が理想と思われる片道所要時間であると回答した人の割合は、「40～44歳」、「65～69歳」、「70～74歳」の階層では、現実的に30分未満であると回答した人の割合より若干増えていたが、「75歳以上」では大きな差は見られなかった。
- ・ 合わせて30分未満が理想的な片道所要時間であると回答した人の割合は、外出目的が (C) 食料品・日用品の買い物の場合は9割以上、(G) 銀行・郵便局、(J) 公園、(K) スポーツ施設である場合は7割以上、(H) 友人・知人などの家の場合は4割程度を占めていた。上記の外出目的において、現実的に所要時間が30分未満であると回

答した人の割合と比べると、それほど差は見られなかった。

- ・ 外出目的が（D）食料品・日用品以外の買い物、（E）集会施設である場合、実際に所要時間が30分未満であると回答した人の割合が、30分未満が理想的であると回答した人の割合より、「40～44歳」、「65～69歳」の階層では約1割以上、「70～74歳」、「75歳以上」の階層では約3割以上高くなっていた。
- ・ 外出目的が（G）市役所等の公的機関の場合、理想的な片道所要時間が「15分未満」と回答した人の割合は、「40～44歳」の階層で7割以上を占めており、実際に所要時間が「15分未満」と回答した人の割合より3割程度高くなっていた。一方、高齢者グループでは、現実と理想の差はほぼ見られなかった。
- ・ 外出目的が（L）余暇・レジャー・レクリエーションの場合、合わせて45分未満が理想であると回答した人の割合は、「40～44歳」の階層では7割以上を占めており、実際に所要時間が45分未満であると回答した人の割合より3割程度高くなっていた。高齢者グループでも5割以上を占めており、現実より1割程度増えていた。

#### □外出目的別の重要度

- ・ 定期的に通う病院、食料品・日用品の買い物、銀行・郵便局への外出が「最も重要」と「やや重要」を合わせた割合（以下、重要であると回答した人の割合）は、いずれの年齢階層でも5割以上であった。
- ・ 通勤・通学目的の外出が重要であると回答した人の割合は、「40～44歳」で8割以上を占め、圧倒的に多かった。その他、食料品・日用品以外の買い物の外出が重要であると回答した人の割合が高齢者グループより「40～44歳」で1割以上多かった。このような傾向は、年齢階層の低いほど高くなっていた。
- ・ 公的機関、友人・知人などの家を訪ねることの重要度については、「40～44歳」の方が若干多かったが、高齢者グループとの大きな差は見られなかった。一方、集会施設、散歩・散策の外出が重要である人の割合は、高齢者グループの方が若干多かったが、「40～44歳」との大きな差は見られなかった。
- ・ 公園、スポーツ施設の外出が重要である人の割合は、それぞれ4割以下、3割以下であり、年齢階層の高いほど、それらの割合は顕著に低くなる傾向があった。

#### □外出する際に問題になること

- ・ いずれの年齢階層でも高い割合を占めているのは、「自宅の最寄駅まで遠い」、「電車の料金が安い」、「バスの本数が少ない」という項目であり、外出する際に問題になるのは、物理的な距離や公共交通のサービス水準に関わる理由であることが分かった。
- ・ 一方、「75歳以上」の階層では、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」、「身体的に徒歩が難しい」、「徒道が歩きにくい」が比較的高い割合を占めていた。

また、その割合は「75歳以上」より低いですが、「65～69歳」と「70～74歳」の階層でも、「階段がづらい（エレベーターがないなど）」と回答した人の割合が2割前後を占め、年齢の高い階層ほど身体機能の低下が外出する際の問題になることがわかった。

## 付録：アンケート調査票

※本調査報告と関連がある質問調査票のみ記入する。

# 居住実態と都市内移動に関する アンケート調査票

本調査は、千葉県柏市と東京 23 区にお住まいの皆さんの、居住状況と都市内の移動状況についてお伺いするものです。

- ・ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
- ・ご回答は、大部分が、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ・ご回答は、すべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、2月21日(月)までにご投函ください。
- ・ご協力いただいた方には、後日、お礼に図書カード(500円分)をお送りいたします。ご回答の有無は、調査票の右上の整理番号で管理しておりますので、調査票にお名前やご住所をご記入いただく必要はありません。
- ・ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

### アンケートの実施に関するお問い合わせ

(社)新情報センター 担当：竹 生、府 川

電話：03-3473-5231

(受付時間：平日9～12時、13～17時)

### 調査企画

東京大学空間情報科学研究センター  
居住実態・都市内移動プロジェクト

問1. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ)

1 男性	2 女性
------	------

問2. あなたのお年はおいくつですか。

	歳
--	---

問3. あなたのお住まいの住所をお答えください。

\_\_\_\_\_ (市区町村) \_\_\_\_\_ (町) \_\_\_\_\_ (丁目)

問4. 現在、同居されている方の人数に○をつけてください(あなたは除きます)。(ひとつだけ)

0	1	2	3	4	5	6
同居人はいない	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6人以上
└─┬─▶(問6へ)						

問5. あなたと同居されている方はどなたですか、この中からいくつでもお選びください。(いくつでも)

問5. 同居している方すべてに○

↓

1	父 親 (配偶者の父親を含む)
2	母 親 (配偶者の母親を含む)
3	配偶者・パートナー
4	兄弟姉妹
5	独身の息子
6	息子夫婦
7	独身の娘
8	娘夫婦
9	孫
10	その他の親族
11	その他 (具体的に )

問6. お宅の家計全体の昨年の年収（年金を含む）は総額でおいくらくらいでしたか。税込みで最も近いものをひとつお選びください。（ひとつだけ）

1	100万円未満	7	700万円～1,000万円
2	100～200万円	8	1,000万円～1,500万円
3	200～300万円	9	1,500万円～2,000万円
4	300～400万円	10	2,000万円以上
5	400～500万円	11	わからない
6	500～700万円		

問7. お宅の家計全体の貯蓄額はおいくらくらいですか。（ひとつだけ）

1	100万円未満	7	1,000～2,000万円
2	100～200万円	8	2,000～3,000万円
3	200～300万円	9	3,000万円以上
4	300～400万円	10	わからない
5	400～500万円		
6	500～1,000万円		

問8. あなたが最後に卒業された学校はどれですか。（在学中・中退も卒業に含めてください）  
（ひとつだけ）

1	2	3	4	5	6
中学校	高校	専門学校	短期大学	4年制大学	大学院

問9. あなたは、現在、平均して、週に何日働いていますか。（ひとつだけ）

1	2	3	4
働いていない	週1～2日勤務	週3～4日勤務	週5日以上勤務
↳ (問10へ)			



【働いていらっしゃる方にお伺いします】

問9SQ1. 働いていらっしゃる日は一日平均何時間働いていますか。

1	3時間未満
2	3時間以上5時間未満
3	5時間以上8時間未満
4	8時間以上12時間未満
5	12時間以上

<移動に関する設問>

問 23. 日常生活での外出（移動）について、お尋ねします。

(A)～(L)のそれぞれの項目について、現在の状況（「(ア)利用交通手段」「(イ)片道所要時間」「(ウ)同行者」「(エ)頻度」）についてお答えください。（それぞれひとつずつ）

	(ア)利用交通手段									(イ)片道所要時間
	1 徒歩のみ	2 自転車	3 自動二輪、 原付バイク	4 自分で 運転する車	5 他の人に 車で送って もらう	6 タクシ ー	7 路線バ ス	8 鉄道	9 その他 (具体的 に)	ご記入 ください (大体の 平均的な 時間を)
現状について										
(A) 通勤・通学 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(B) 定期的に通う病院 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(C) 食料品・日用品の買い物 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(D) 食料品・日用品以外の 買い物 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(E) 集会施設（公民館、老 人福祉センターなど） →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(F) 市役所等の公的機関 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(G) 銀行、郵便局 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(H) 友人・知人などの家 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(I) 散歩、散策 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(J) 公園 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(K) スポーツ施設 →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →
(L) 余暇、レジャー、レク リエーション →	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分 →

(ウ)同行者							(エ)頻度					
1 一人で	2 同居家族と	3 同居していない家族・親族と	4 近隣の友人・知人と	5 近隣ではない友人・知人と	6 ヘルパーと	7 その他(具体的に)	1 週5日以上	2 週3～4日	3 週1～2日	4 月1～2日	5 月1日未満	
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5	6	7 ( )	1	2	3	4	5



問 24. では、(A)～(L)のそれぞれの項目について、理想と思われる移動状況はどのようなものか、「(ア)利用交通手段」と「(イ)片道所要時間」でお答えください。たとえば、《図書館》には「徒歩のみ」「片道15分くらい」で行けるのが理想というようにお考えください。(それぞれひとつずつ)

問 25. 続いて、(A)～(L)のそれぞれの外出目的が、あなたにとってどれだけ重要か、「1(最も重要)」「2(やや重要)」「3(あまり重要でない)」「4(重要でない)」のいずれかに○をつけてください。

		問 24.										
		(ア)利用交通手段									(イ)片道 所要時間	
		1 徒歩のみ	2 自転車	3 自動二輪、 原付バイク	4 自分で運転する車	5 他の人に車で送ってもらおう	6 タクシー	7 路線バス	8 鉄道	9 その他(具体的に)	ご記入ください (大体の平均的な時間を)	
理想の移動状況												
(A) 通勤・通学	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(B) 定期的に通う病院	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(C) 食料品・日用品の 買い物	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(D) 食料品・日用品以外の 買い物	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(E) 集会施設(公民館、老 人福祉センターなど)	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(F) 市役所等の公的機関	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(G) 銀行、郵便局	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(H) 友人・知人などの家	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→

(I) 散歩、散策	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(J) 公園	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(K) スポーツ施設	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→
(L) 余暇、レジャー、 レクリエーション	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9 ( )	分	→

問 25.			
重要度			
1 最も重要	2 やや重要	3 ない	4 あまり重要で ない
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

問 26. 外出する際に、問題になることはありますか。(いくつでも)

- 1 自宅の最寄駅まで遠い
- 2 電車の料金が低い
- 3 電車の本数が少ない
- 4 駅から目的地まで遠い
- 5 自宅の最寄りのバス停まで遠い
- 6 バス停から目的地まで遠い
- 7 バス料金が低い
- 8 バスの本数が少ない
- 9 階段が辛い(エレベーターがないなど)
- 10 自動車を使えない(使いづらい)
- 11 身体的に歩行が難しい
- 12 歩道が歩きにくい
- 13 ヘルパーが必要
- 14 目的地まで時間がかかる
- 15 その他(具体的に )